

F D活動報告書

関西大学大学院会計研究科
(会計専門職大学院)

第 8 号

平成 24 年度 (春・秋学期)



関西大学大学院会計研究科

教務・F D委員会

平成 25 年 3 月

目 次

はじめに	1
I 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法	
(1) 対象科目	2
(2) 実施方法	2
(3) 分析方法	2
(4) フィードバック方法.....	2
(5) 対象科目リスト.....	3
II 平成 24 年度授業評価アンケート結果概要	
(1) 平成 24 年度授業評価アンケート（春学期）結果概要.....	7
(2) 平成 24 年度授業評価アンケート（秋学期）結果概要.....	51
(3) 平成 24 年度授業評価アンケート（系平均）結果概要.....	95
III 24 年度授業評価アンケートフォーム.....	111
IV 講演会	115

はじめに

FD (Faculty Development) 活動は、教育の質を向上させるためになされるものであり、教員にとっては、必須の活動となっている。本研究科においても、会計研究科として「教務・FD 委員会」および「専攻分野別教務・FD 委員会」を設置して、かかる活動を継続的に行っている。そして、この活動によって、教育の質を高め、教育効果を向上せしめるべく、不断の努力を行っているわけであるが、教育効果は、単に教員がよりよいと思う教育内容を、教員がよりよいと思う方法で提供するように策を講じるだけでは、改善されないと考えられる。すなわち、提供される教育への学生の反応を認識しつつ、教育内容やその方法を調整していくことで、より効果的な教育が提供できるようになると考えられる。そのため、本研究科では、設立当初より、学生による授業評価アンケートを実施してきており、この授業評価アンケートの結果は、FD 活動の大きな柱の一つとなっている。

本研究科の授業評価の特徴は、①学生自身による自己評価と学生による担当者の授業評価という一般的事項はもれなく含んでいること、②学生による授業評価の結果に対しては担当教員による分析と授業改善の試みを記述させること、③科目系列の取りまとめ役が、②による複数科目を比較可能な形で自己評価していること、④以上の結果を教授会及び教務・FD 委員会での議論の材料としていること、⑤そして授業評価の結果と分析等を本研究科のホームページにて公開していること、が挙げられる。

FD 活動報告書は、上記の学生による授業評価アンケートの結果とそれに対する教員の認識と今後の改善案を中心にして、本研究科が行った FD 活動をまとめたものである。FD 活動報告書第 1 号は、本研究科に在籍する学生が 1 年次生のみであったこと等の事情で平成 18 年度春学期に開催されたすべての 1 年次配当科目に対する授業評価を収録した。報告書第 2 号は、平成 18 年度秋学期科目と平成 19 年度春学期科目に対する授業評価を収録した。しかし、異なる年度の評価を同時に収録することの不便さを経験したため、報告書第 3 号では、平成 19 年度の秋学期科目のみ収録し、報告書第 4 号から当該年度の 1 年分の科目を収録することとした。これら 4 冊の報告書は自己点検評価報告書第 2 号（平成 21 年 3 月）とともに分野別認証評価に際して提供された。本研究科はこの認証評価ですべての基準を満たし、認定会計大学院の称号を得た。そして、今年度が第 8 号の報告書となる。

これまでの FD 活動の結果を受け、コース制の導入や導入科目群の設置などの教育体制・カリキュラムの見直しを行い、来年度より実施することとなった。すべての教職員が本研究科の設立の趣旨を確認し、必要な教育改善は絶え間なく行うこととしているが、この FD 活動報告書の作成を通じてあらためて問題を真摯に分析する機会としている。このような取り組みが、個人レベルで終わることなく、研究科全体の課題として対処された結果である。

今後も、FD 活動を継続して行い、FD 活動報告書として公表していくことによって、本研究科の教育が向上していくであろうと確信している。

平成 25 年 3 月

会計研究科長 富田 知嗣

I. 授業評価アンケートの実施及びフィードバック方法

(1) 対象科目

本報告書に掲載した授業評価アンケートは、平成 24 年度の春学期と秋学期に開講された会計研究科専任教員が担当するすべての授業科目を対象としている（次頁参照）。

(2) 実施方法

本研究科では、授業評価アンケートを各講義の終了時に実施している。

通年開講の論文指導・修士論文を除き、すべての科目において、15 回の講義が実施される。最終講義日の前回である第 14 回目（論文指導・修士論文では 29 回目）の講義で、授業評価アンケートの質問状と回答用紙が授業担当者によって配布され、最終講義日の講義終了時に授業評価アンケートの回答用紙が授業担当者によって回収される。回収された回答用紙は、授業担当者によって事務に提出され、そこで集計される。授業評価アンケートは講義時間に影響を与えぬよう、また受講生の正直な回答を促すため、講義時間外に無記名で記入される。集計された結果は、今後の授業内容および方法の改善のための資料として、各授業担当者に配布される。

授業評価アンケートで使用された質問状は、後ページに掲載している。

(3) 分析方法

専任教員が担当する授業科目及び系別平均については、原則として担当教員が分析している。

(4) フィードバック方法

各担当者が前年度の授業評価アンケートとの比較を行い、授業改善が有効であったか否かを検証した。

(5)対象科目リスト(索引)

類別		授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁	
基本 科目群	理論科目	必修科目	会計専門職業倫理	2	2	横断科目	秋	51
			上級簿記	2	1	財務会計系	春・秋	7・52
			上級財務会計論	2	1	財務会計系	春・秋	8・53
			上級原価計算論	2	1	管理会計系	春・秋	9・54
			上級管理会計論	2	1	管理会計系	春・秋	10・55
			監査制度論	2	1	監査系	春・秋	11・56
			監査基準	2	1	監査系	春・秋	12・57
			企業法	2	1	法律系	春・秋	13・58
発展 科目群	理論科目	選択必修科目	会計専門職業数学	2	1	横断科目	春	14
			会計基準論	2	1	財務会計系	秋	—
			会計制度論	2	1	財務会計系	春	15
			財表作成簿記	2	1	財務会計系	秋	59
			戦略管理会計論	2	1	管理会計系	秋	60
			上級税務会計論	2	1	税務会計	春	16
			租税法会計論	2	1	税務会計	秋	61
			公会計理論	2	1	公会計系	秋	62
			監査実施論	2	1	監査系	秋	—
			監査報告論	2	1	監査系	秋	63
			商法	2	1	法律系	春	17
			中級会社法	2	1	法律系	秋	64
			民法(総則・物権)	2	1	法律系	秋	—
			経営学理論	2	1	経営系	春	—
			インベストメント論	2	1	ファイナンス系	春	18
			コーポレート・ファイナンス論	2	1	ファイナンス系	秋	65
			ミクロ経済学	2	1	経済・統計系	秋	66
			統計学	2	2	経済・統計系	秋	67
			国際会計基準論	2	2	財務会計系	春	—
			国際会計制度論	2	2	財務会計系	春	—
			企業分析論	2	2	管理会計系	春	19
		コストマネジメント論	2	2	管理会計系	秋	68	
		上級税務戦略論	2	2	税務会計	春	—	
		公監査論	2	2	公会計系	春	—	
		政府・自治体会計論	2	2	公会計系	春	20	
		国際監査制度論	2	2	監査系	春	—	
		金融商品取引法	2	2	法律系	春	—	
		上級会社法	2	2	法律系	春	21	
		租税法理論	2	2	法律系	春	—	
		民法(債権)	2	2	法律系	春	—	
		経営戦略論	2	2	経営系	春	—	
		経営組織論	2	2	経営系	春	—	
		資本市場論	2	2	ファイナンス系	春	22	
		マクロ経済学	2	2	経済・統計系	春	23	
実践科目		会計事例研究	2	1	財務会計系	秋	69	
		管理会計事例研究	2	1	管理会計系	春	—	
		監査事例研究	2	1	監査系	春	24	
		基本会計プログラム演習	2	1	IT・ビジネススキル系	秋	70	
		基本監査プログラム演習	2	1	IT・ビジネススキル系	秋	71	
		BATIC演習	2	1	IT・ビジネススキル系	春	—	
		IFRS実務	2	1	財務会計系	秋	—	
		会社経理実務	2	1	財務会計系	春	25	
		ディスクロージャー実務	2	2	財務会計系	春	26	
		税務会計事例研究	2	2	税務会計	春	—	
		企業法判例演習	2	2	法律系	秋	—	
		起業・株式公開事例研究	2	2	経営系	春	—	
		実践会計プログラム演習	2	2	IT・ビジネススキル系	春	—	
		実践監査プログラム演習	2	2	IT・ビジネススキル系	夏集	—	
		アカデミック・ソリューションA	1	1	個別演習科目	春	27-36	
		アカデミック・ソリューションB	1	1	個別演習科目	秋	72-79	
		プロフェッショナル・ソリューションA	1	2	個別演習科目	春	37-42	
		プロフェッショナル・ソリューションB	1	2	個別演習科目	秋	80-84	
		論文指導・修士論文	4	2	個別演習科目	通年	85	

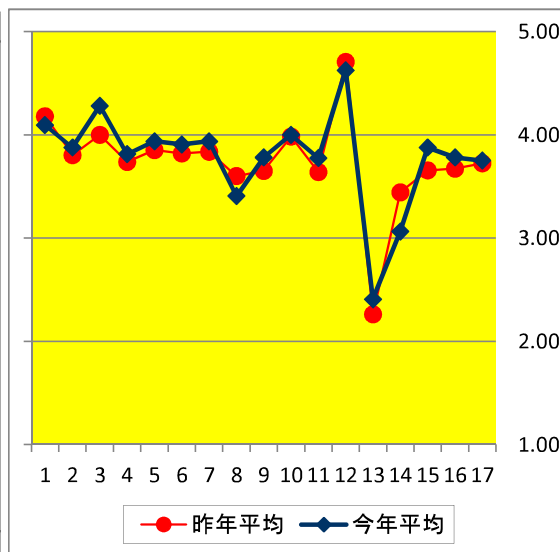
類別	授業科目	単位	配当 年次	系統	開講 学期	頁
横断 科目	特殊講義(企業経営を取り巻く会計の課題と方向)	2	1	横断科目	春	—
	特殊講義(経営と会計)	2	1	横断科目	秋	86
	特殊講義(海外経営事例研究)	2	1	横断科目	秋	87
	特殊講義(IFRS財務報告論)	2	1	横断科目	春	43
	特殊講義(証券7科目協会新開講座・証券7科目以外の基礎)	2	1	横断科目	春	—
理論 科目	中小企業金融論	2	1	ファイナンス系	秋	—
	会計検査制度論	2	1	監査系	秋	—
	英文会計論	2	2	財務会計系	秋	—
	会計戦略論	2	2	財務会計系	春	44
	無形資産会計論	2	2	財務会計系	春	45
	金融商品会計論	2	2	財務会計系	春	46
	企業結合会計	2	2	財務会計系	秋	—
	企業価値マネジメント論	2	2	管理会計系	秋	—
	会計情報システム	2	2	管理会計系	秋	88
	国際税務戦略論	2	2	税務会計	春	—
	非営利会計論	2	2	公会計系	秋	89
	国際公会計制度論	2	2	公会計系	秋	90
	保証業務論	2	2	監査系	春	47
	内部監査論	2	2	監査系	春	—
	不正摘発監査論	2	2	監査系	春	—
	法人税法	2	2	法律系	秋	91
	行政法	2	2	法律系	秋	—
	プロダクト・マネジメント論	2	2	経営系	春	—
	国際経営論	2	2	経営系	秋	—
	リスク分析論	2	2	ファイナンス系	春	—
	国際財務戦略論	2	2	ファイナンス系	春	48
実践 科目	公共経済学	2	2	経済・統計系	秋	92
	XBRL論	2	2	IT・ビジネススキル系	秋	—
	国際会計事例研究	2	2	財務会計系	秋	—
	国際管理会計事例研究	2	2	管理会計系	秋	—
	国際税務会計事例研究	2	2	税務会計	秋	—
	公会計・公監査事例研究	2	2	公会計系	秋	—
	国際監査事例研究	2	2	監査系	春	—
	企業再生事例研究	2	2	経営系	秋	—
	リサーチ・メソッドロジー	2	2	IT・ビジネススキル系	春	—
	国際コミュニケーション論	2	2	IT・ビジネススキル系	秋	—
会計 系 科目	平均	財務会計系				95
		管理会計系				96
		税務会計系				97
		公会計系				98
		監査系				99
非 会 計 系 科目	平均	法律系				100
		経営系				—
		ファイナンス系				101
		経済・統計系				102
		IT・ビジネススキル系				103
		個別演習科目(アカデミック・ソリューションA)				104
		個別演習科目(アカデミック・ソリューションB)				105
		個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)				106
		個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)				107
系別平均						108

※掲載対象科目は、平成25年度開講の会計研究科専任教員担当科目とする。

Ⅱ－(1)．2012 年度授業評価アンケート(春学期)結果概要

科 目	上級簿記 (A1)			
配当年次	1	開講時限	春月2木3	
受講者数	37	回答者数	32	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	4.09	4	5	1
2	3.80	3.88	4	5	1
3	4.00	4.28	4・5	5	2
4	3.74	3.81	4・5	5	1
5	3.85	3.94	4	5	1
6	3.82	3.91	4	5	1
7	3.84	3.94	4	5	1
8	3.60	3.41	3	5	1
9	3.65	3.78	4	5	1
10	3.98	4.00	4	5	1
11	3.64	3.77	4	5	1
12	4.70	4.63	5	5	2
13	2.26	2.41	3	5	1
14	3.44	3.06	3	5	1
15	3.66	3.88	4	5	1
16	3.67	3.78	4	5	1
17	3.72	3.75	4	5	1
回答者数	61	32			



受講生の傾向

講義中は静かで、講義に集中している様子であった。原理・原則に従った思考的な解法を意識してもらうようにしたが、計算問題としての解き方を中心に勉強してきた受講生にとっては、違和感のある講義展開であったかもしれない。会計基準等の原文を教科書として指定したが、あまり参照していない様子であった。なかには、財務諸表の基本様式を理解できておらず、日商検定2級の習熟度に問題がある受講生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義中の説明は、テクニカルな解法ではなく、原理・原則に従って思考的に解くことを意識してもらうようにした。仕訳のタイミングや財務諸表への影響など、簿記一巡の手続を念頭においた説明を心がけた。また、会計基準等で重要な部分は、講義中に該当箇所を指示して確認させるなど、原文を参照して勉強することの大切さを実感してもらえるようにした。とくに分かりにくい部分については、補習を数回行ってフォローした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

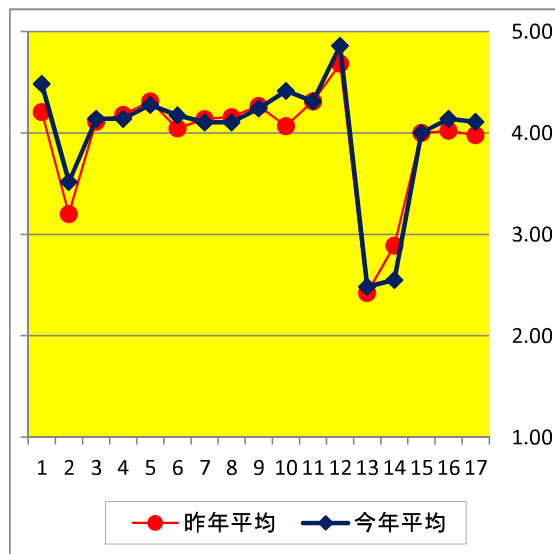
会計基準等の原文を参照して勉強するように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを一連の手続として捉えて学習するように指導する。講義で取り扱う論点を増やしたこともあって、問題演習の時間を適切に確保できないことがあった。要領よく説明するように工夫する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計基準等の原文を参照して勉強するように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを一連の手続として捉えて学習するように指導する。講義中の説明と問題演習の時間配分について、受講生の理解が高まるように工夫する。

科目	上級財務会計論 (A1)		
配当年次	1	開講時限	春月2・木3
受講者数	30	回答者数	29

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.48	4	5	4
2	3.20	3.52	3	5	3
3	4.11	4.14	4	5	3
4	4.18	4.14	4	5	3
5	4.31	4.28	4	5	3
6	4.04	4.17	4	5	3
7	4.14	4.10	4	5	3
8	4.16	4.10	4	5	3
9	4.27	4.24	4	5	3
10	4.07	4.41	5	5	3
11	4.31	4.31	4	5	3
12	4.68	4.86	5	5	3
13	2.42	2.48	2	5	1
14	2.89	2.55	2	5	1
15	4.00	4.00	4	5	1
16	4.02	4.14	4	5	3
17	3.98	4.11	4	5	3
回答者数	45	29			



受講生の傾向

全体的に、欠席や遅刻する受講生がほとんどおらず、熱心に受講していたように思われる。講義時間内は熱心であるという傾向がうかがえるが、質問番号13/14から判断すると予習・復習に充てる時間が1時間前後であり、十分な予習・復習がされているとは言い切れない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年のアンケート結果では、予習・復習の時間が少なかったことから、配布講義資料には、次回の講義範囲を明示するとともに、小テストでは予習範囲からも出題することにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

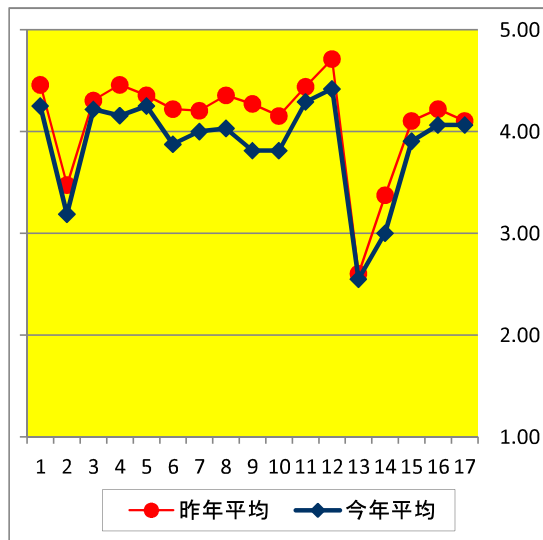
予習・復習の時間が短いことから、講義時間外での学習を促すような課題や小テストといった方策を講じる必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

予習・復習に適した課題を検討するつもりである。また、講義進度について、今年度の方が丁寧に取り扱ったつもりであったが、むしろ「早い」と感じる学生も多くなっており、予習を促し、「早さ」を感じないような策を講じる必要がある。

科 目	上級原価計算論 (A1)		
配当年次	1	開講時限	春月3・木2
受講者数	34	回答者数	32

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.46	4.25	5	5	1
2	3.47	3.19	3	5	1
3	4.31	4.22	5	5	1
4	4.46	4.16	5	5	1
5	4.36	4.25	5	5	1
6	4.22	3.88	5	5	1
7	4.20	4.00	4	5	1
8	4.36	4.03	5	5	1
9	4.27	3.81	4	5	1
10	4.15	3.81	4	5	1
11	4.44	4.29	5	5	1
12	4.71	4.42	5	5	1
13	2.60	2.55	1	5	1
14	3.37	3.00	3	5	1
15	4.10	3.90	5	5	1
16	4.22	4.06	5	5	1
17	4.11	4.06	5	5	1
回答者数	59	32			



受講生の傾向

例年通り学生間の習熟度の差が激しかった。とくに今年度は、短答式を合格している(あるいは合格レベルにある)学生から日商簿記2級未受験者まで多様であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

授業時間をいくつかのパートに分けて、それぞれのパートで「初級」、「中級」、「上級」の論点についてレクチャーするよう試みた。また、授業での回答を受講生に積極的に聞くようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

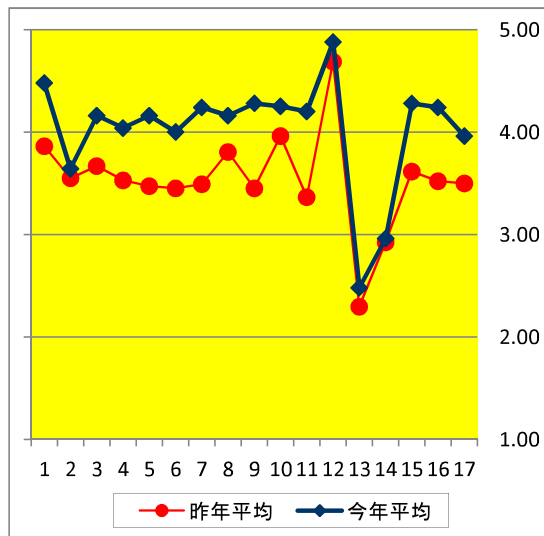
学生間の習熟度の差の拡大を考慮し、一つの授業をいくつかのパートに分けて、それぞれのパートで「初級」、「中級」、「上級」の論点についてレクチャーしていくことを計画している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上級部分の論点の説明に多くの時間が使われたことが反省点として挙げられる。今後、試行錯誤ではあるが、それぞれの学生に興味を持ってもらえるように今年度の取り組みを継続し、時間配分などについて改善していきたい。

科 目	上級管理会計論 (A1)		
配当年次	1	開講時限	春月3・木2
受講者数	33	回答者数	25

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.86	4.48	5	5	3
2	3.55	3.64	3	5	3
3	3.67	4.16	4	5	2
4	3.53	4.04	4・5	5	2
5	3.47	4.16	4	5	2
6	3.45	4.00	4	5	2
7	3.49	4.24	4	5	2
8	3.80	4.16	5	5	2
9	3.45	4.28	5	5	2
10	3.96	4.25	4・5	5	3
11	3.37	4.20	4・5	5	3
12	4.69	4.88	5	5	4
13	2.29	2.48	1	5	1
14	2.92	2.96	2	5	1
15	3.62	4.28	4	5	3
16	3.52	4.24	4	5	3
17	3.50	3.96	4	5	2
回答者数	52	25			



受講生の傾向

総じて受講態度はまじめである。

昨年度と同様に、講義内容について既に理解している受講生と、そうではない学生との差が激しい。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の初年度であった昨年よりも、より丁寧に講義を行うように心がけた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

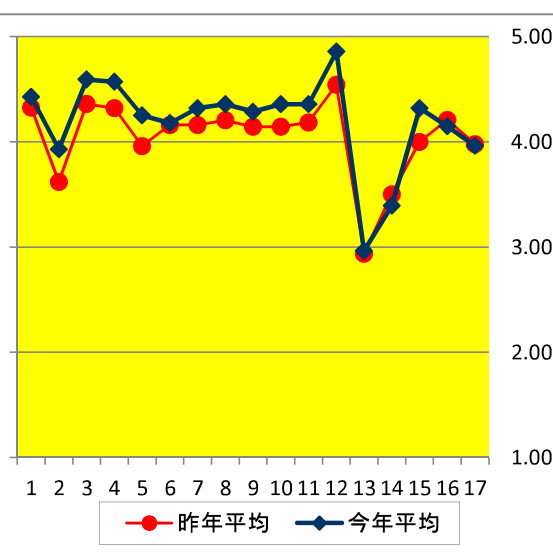
授業評価アンケートを通じて、全般的な改善の必要性を感じた。特に理解の十分ではない学生に対するフォローの必要性があると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年度と比べて、全般的に数値が改善していることから、今後とも現状の方向性に沿って改善を行う予定である。

科目	監査制度論 (A1)			
配当年次	1	開講時限	春火2・金3	
受講者数	32	回答者数	28	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.43	5	5	3
2	3.62	3.93	3・4・5	5	2
3	4.36	4.59	5	5	3
4	4.32	4.57	5	5	3
5	3.96	4.25	5	5	2
6	4.16	4.18	5	5	1
7	4.16	4.32	5	5	3
8	4.20	4.36	5	5	3
9	4.14	4.29	5	5	1
10	4.14	4.36	5	5	2
11	4.18	4.36	5	5	1
12	4.54	4.86	5	5	2
13	2.94	2.96	2	5	1
14	3.50	3.39	2・3・5	5	1
15	4.00	4.32	5	5	1
16	4.21	4.15	5	5	1
17	3.98	3.96	5	5	1
回答者数	50	28			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は高く80%以上となっており、昨年に比べるとほぼ全ての面で勉学に対する意欲が相対的に高まっているように解される。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(項目13)も昨年度より若干の増加がみられたものの、逆に復習時間は若干の減少が見られる(項目14)。受講生のモラルは、例年と同程度と捉えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は会計士協会による実務指針の大幅改正があったため、当該資料を協会から取り寄せ全員に配布した上で、該当する箇所や不備のあった箇所などを追加的なパワーポイントによるスライドを用意し、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列举した。またこれら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するのと同時に、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を指名を伏せた上で全員に配布し解説を加えた。最終的に、小テスト実施→添削→返却(講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように、去年以上に心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

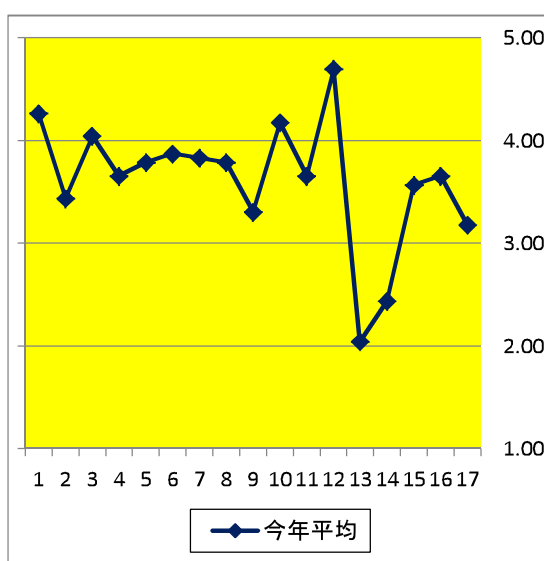
復習課題の強制提出ではなく、希望者からの提出を受け付け再添削とコメントを行なった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記対応によった場合、自ら進んで講義資料の最後に記載した「課題」を作成して持参、或いは質問してくる学生が激減していることから、小テストと課題の直接的な連携を採る方策が必要と考える。

科 目	監査基準 (A)		
配当年次	1	開講時限	春水2
受講者数	30	回答者数	23

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.26	4	5	3
2	—	3.43	3	5	3
3	—	4.04	4・5	5	3
4	—	3.65	4	5	2
5	—	3.78	4	5	2
6	—	3.87	4	5	2
7	—	3.83	4	5	2
8	—	3.78	4	5	2
9	—	3.30	3	5	1
10	—	4.17	4	5	3
11	—	3.65	5	5	2
12	—	4.70	5	5	2
13	—	2.04	1	5	1
14	—	2.43	2	5	1
15	—	3.57	4	5	2
16	—	3.65	3	5	2
17	—	3.17	3	5	1
回答者数	—	23			



受講生の傾向

考查を実施して感じたのは、一部非常に理解がすすんでいる受講生がいたと思われる半面、全体的には期待水準より理解度が低いように思えた。講義をはじめた当初は授業後に質問に来る学生が数名いたが、だんだん少なくなり、授業中の反応からは授業を理解しているのかどうか把握しづらいところがあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(授業担任者変更)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

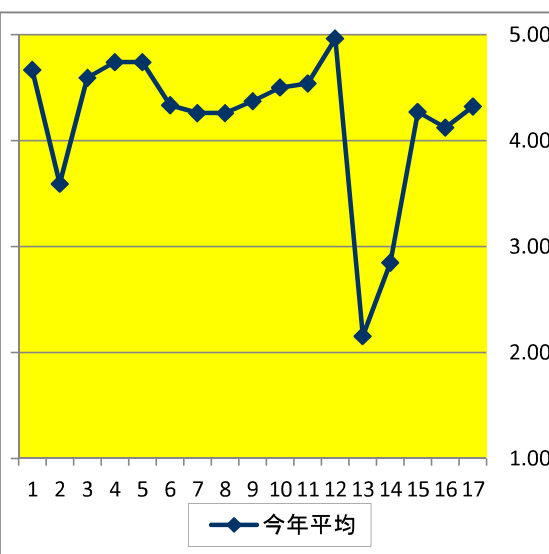
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義にあたっては、ポイントを整理して、理解すべき事項を体系的に示すことに重点を置きたい。受講生の理解度を把握しながら講義をすすめられるような工夫をしたい。

科 目	企業法 (A1)			
配当年次	1	開講時限	春火2・金3	
受講者数	33	回答者数	28	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.67	5	5	4
2	—	3.59	3	5	3
3	—	4.59	5	5	4
4	—	4.74	5	5	4
5	—	4.74	5	5	4
6	—	4.33	5	5	2
7	—	4.26	4	5	3
8	—	4.26	5	5	2
9	—	4.37	4	5	3
10	—	4.50	5	5	3
11	—	4.54	5	5	3
12	—	4.96	5	5	4
13	—	2.15	1	5	1
14	—	2.85	2	5	1
15	—	4.27	4	5	2
16	—	4.12	4	5	2
17	—	4.32	4	5	3
回答者数	—	28			



受講生の傾向

基本科目ということもあり、ほとんどの履修学生が出席し、遅刻者もほとんど見られなかった。

また、ほとんどの学生が受講態度よく熱心で授業に集中していた。

しかし、すでに企業法を学習している学生もいれば企業法をはじめて学習する学生もあり、授業の難易度についてはその感じ方にばらつきが見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでの企業法の基礎を学習するということを徹底して、より基礎学力を習得することができるよう心がけた。

たとえば、これまでは口頭で説明するにすぎなかった点をレジュメに記載するなどし、より丁寧な授業を心がけ、基礎力を確実に身に付けられるよう配慮した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(授業担任者なし)

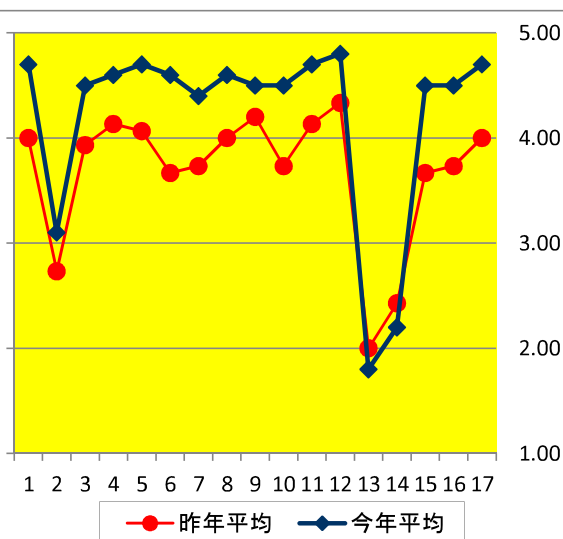
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

この科目は、企業法関係の発展・応用科目の基礎となる科目であり、また民法等他の法律科目の基礎的な位置づけとなるので、よりいっそう企業法の基礎ひいては法学の基礎を身につけられるよう徹底したい。

よって基礎以外の論点や応用といった部分は、他の科目で十分補えるので、ここではより丁寧な授業を行いすべての学生が基礎力を身につけられるよう工夫したい。

科 目	会計専門職業数学			
配当年次	1	開講時限	春土2	
受講者数	10	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.70	5	5	4
2	2.73	3.10	3	4	3
3	3.93	4.50	5	5	3
4	4.13	4.60	5	5	4
5	4.07	4.70	5	5	4
6	3.67	4.60	5	5	3
7	3.73	4.40	5	5	3
8	4.00	4.60	5	5	4
9	4.20	4.50	5	5	3
10	3.73	4.50	4・5	5	4
11	4.13	4.70	5	5	4
12	4.33	4.80	5	5	4
13	2.00	1.80	1	4	1
14	2.43	2.20	2・3	3	1
15	3.67	4.50	4・5	5	4
16	3.73	4.50	4・5	5	4
17	4.00	4.70	5	5	4
回答者数	15	10			



受講生の傾向

ごく少数の受講生を除いて、ほとんどの受講生は優秀で、授業を十分理解してくれた。最初は初歩的な数学から徐々にレベルを上げて、最終段階ではかなりレベルの高い数学水準まで講義水準を引き上げたが、受講生は十分理解してくれた。初めの段階でレベルが低かった学生には、授業とは別に練習問題を出題し、それらを理解させることによって、最終段階では他の受講生のレベルにまで到達させることができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の会計専門職業数学では、前年度の授業評価アンケートを踏まえて、あまり難しい数式を用いないで、経営学、経済学、会計学で用いられる数学をやさしい数式と例題を用いて説明した。そして、中間試験、最終試験の結果を見ると、ほとんどの受講生は十分理解してくれたと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

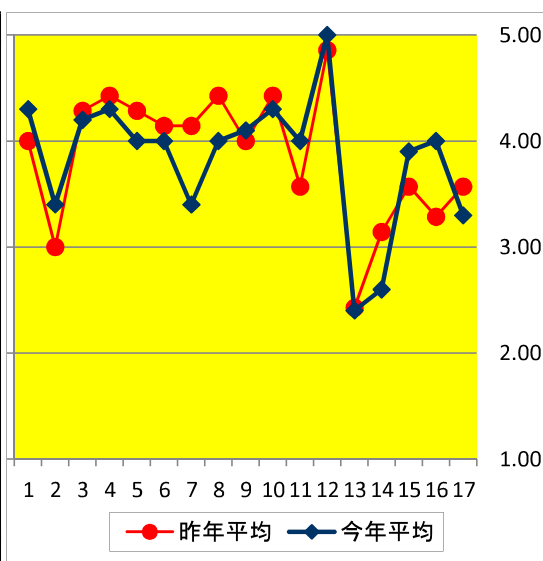
受講生は、簡単な数式にしたので、思ったより経済学、経営学、会計学などで用いる数学は簡単で分かり易く、面白いので、熱心に受講してくれた。それで、今後は一人でも多くの学生が受講してくれるようにアピールしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

前年度の「今後の対応」では、複雑な数式をできるだけ省略して、わかり易い簡単な数式を用いると述べていたので、今年度は経営学、経済学、会計学などで用いる例題をできるだけそのような簡単な数式を用いてわかり易く繰り返して講義した。その結果、受講生の理解度が上昇したと考えている。それで、今後の対応としては、その方向を一層進展させたいと考えている。

科目	会計制度論			
配当年次	1	開講時限	春金4	
受講者数	11	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.30	4	5	3
2	3.00	3.40	3	5	2
3	4.29	4.20	4	5	3
4	4.43	4.30	4	5	3
5	4.29	4.00	4	5	2
6	4.14	4.00	4	5	3
7	4.14	3.40	3	5	2
8	4.43	4.00	4	5	3
9	4.00	4.10	4	5	3
10	4.43	4.30	4	5	3
11	3.57	4.00	5	5	2
12	4.86	5.00	5	5	5
13	2.43	2.40	1・2	5	1
14	3.14	2.60	2	5	1
15	3.57	3.90	4	5	3
16	3.29	4.00	4	5	3
17	3.57	3.30	3	5	2
回答者数	8	10			



受講生の傾向

昨年度効果を出した方法を踏襲したが、相対的に理解度が落ちている。評価は上下さまざまであるが、典型的には質問2の値が上昇すると、理解度が下がるという典型的なパターンである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

効果が出ている昨年度的方式(復習確認型試験による復習重視の学習)を踏襲した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

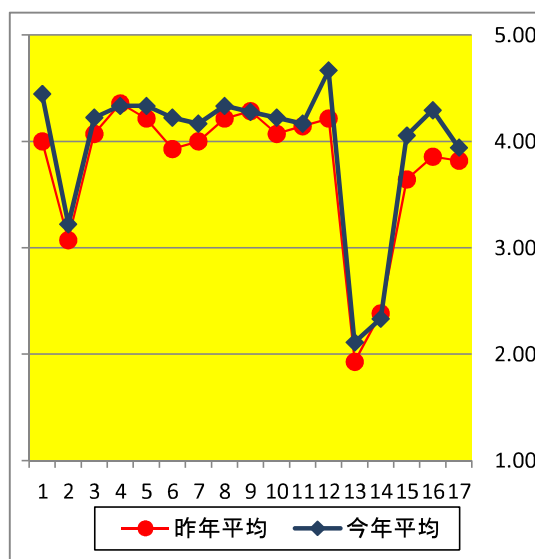
効果が出ている昨年度的方式(復習確認型試験による復習重視の学習)を踏襲する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

効果が出ている昨年度的方式(復習確認型試験による復習重視の学習)を踏襲したが、復習を強制する度合いが低くなり、復習にかかる時間が一昨年並みに戻ったことが確認できる。つまり復習重視型の講義方式にしても、復習を強制する(毎回試験をするなど)程度に問題があることが確認できた。そこで、次年度は、その強制力を強化する。

科 目	上級税務会計論		
配当年次	1	開講時限	春火1
受講者数	23	回答者数	18

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.44	5	5	3
2	3.07	3.22	3	4	3
3	4.07	4.22	5	5	3
4	4.36	4.33	4・5	5	3
5	4.21	4.33	4・5	5	3
6	3.93	4.22	5	5	3
7	4.00	4.17	4・5	5	3
8	4.21	4.33	4・5	5	3
9	4.29	4.28	5	5	3
10	4.07	4.22	4	5	3
11	4.14	4.17	5	5	2
12	4.21	4.67	5	5	3
13	1.93	2.11	2	4	1
14	2.38	2.33	2	4	1
15	3.64	4.06	5	5	2
16	3.86	4.29	5	5	3
17	3.82	3.94	4	5	2
回答者数	14	18			



受講生の傾向

受講生は、1限目の講義にもかかわらず、毎回よく出席していた(質問No. 12)。しかし、税務会計の初学者は、中間試験、期末試験のいずれにおいても点数をあまりとることができなかった。これは、復習時間が不十分なためと考えられる(質問No. 14)。このため、税務会計の既習者との知識の差は、全日程終了時点であまり縮まっていない印象を受けた(筆記試験の得点差がかなり大きい為)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

一昨年から、秋開講の「租税法会計論」と連携させて、税務会計の学習領域を分担させてきた。本年度は、その分担内容に大きな変更を加えない代わりに、テキストを計算問題の多いものへと変更した。これは、受講生に1問でも多く、自力で解いてもらうためである。また、毎回配布するレジュメに、過去の公認会計士試験で出題された問題をアレンジした問題を記載し、講義時間内で受講生に解かせ、解説を行うスタイルを採用した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

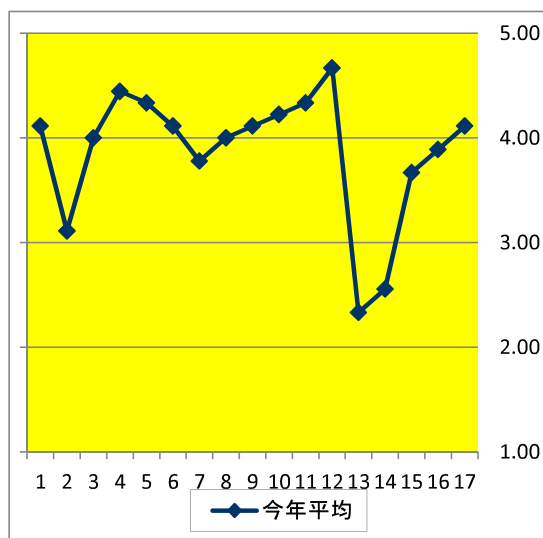
今年度の受講生も、税務会計の初学者が多かった。そこで、講義内容については、今年度に引き続き、秋開講の「租税法会計論」と連携させて、学習量の平均化を図る手法を採用したい。また、自宅学習時間を増やすため、課題レポートを課すことも検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税務会計の学習範囲として、この2年間、法人税法と消費税法のみを取り扱ってきたが、直近の公認会計士試験をみると、所得税法における一定レベルの問題が課されるようになってきている。そこで、秋開講の「租税法会計論」と連携させて、これら三法をまんべんなく学習できるよう、学習範囲及び科目間の分担範囲の見直しを行いたい。自宅学習時間の増加対策については、今年度実施した中間試験を複数回実施し、さらに成績評価に占める中間試験のウェイトを変更して、学生への学習インセンティブを上昇させたい。

科 目	商法			
配当年次	1	開講時限	春金1	
受講者数	11	回答者数	9	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.11	4	5	3
2	—	3.11	3	4	3
3	—	4.00	4	5	3
4	—	4.44	5	5	3
5	—	4.33	4・5	5	3
6	—	4.11	4	5	3
7	—	3.78	4	5	1
8	—	4.00	4	5	3
9	—	4.11	4	5	3
10	—	4.22	4	5	3
11	—	4.33	4・5	5	3
12	—	4.67	5	5	4
13	—	2.33	2・3	4	1
14	—	2.56	3	4	1
15	—	3.67	3・4	5	3
16	—	3.89	4	5	3
17	—	4.11	4	5	3
回答者数	—	9			



受講生の傾向

今年度の「商法」受講者はこれまでで最も少ない11人であった。

もともとと入学者が少ないことからこのような結果になったのかもしれないが、商法に対する興味があまりないということも事実であろう。

受講生は出席率もよく、受講態度もまじめであった。

1年生はすべて企業法と同時並行で受講していることになるが、企業法は基礎のみを学習するが、商法はその分野においては、基礎から応用にいたるまで扱うので、企業法に比べて商法を難しく感じる学生がいたようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでで見られた傾向として、商法のある分野には非常に詳しいがある分野はほとんど理解できていないという学生が少なからずいたので、今年度は全範囲を網羅的に理解できるよう心がけた。

その反面、詳細については授業から割愛せざるを得なくなったが、この点は学生の自習に委ねることとした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

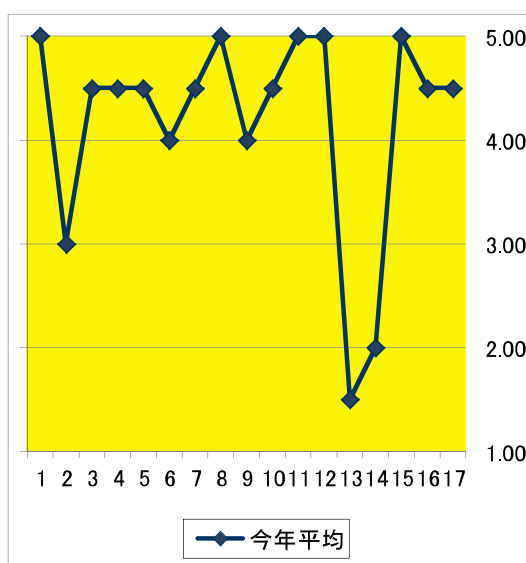
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も今年度と同様に学生が全範囲を網羅的に理解できるように心がけると同時に、時間的な制約はあるがより踏み込んだ議論にも言及していきたいと思う。むしろ後者のほうが学生にとっても興味深いと思われる。

科 目	インベストメント論			
配当年次	1	開講時限	春木1	
受講者数	8	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.50	4・5	5	4
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.00	4	4	4
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	1.50	1・2	2	1
14	—	2.00	2	2	2
15	—	5.00	5	5	5
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

登録は8人で、そのうちの3人がほぼ毎回出席した（本アンケート実施時にそのうちの1人はたまたま欠席したが、残り2人は毎回出席した）。予習・復習を課すことはしなかったため、その質問への回答は1か2になっているが、残りの質問では学生が十分に満足したことがわかる。ただし、回答した受講生は、自分の意見をはっきりいうことができ、ときどき質問もして、期末試験の成績もよく、明らかに優等生であった。勉強の意欲が強く、それゆえに彼ら自身が教室でちゃんと学んでくれたことで、満足度が高まり、このアンケート結果になったのだと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし（授業担任者変更）

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

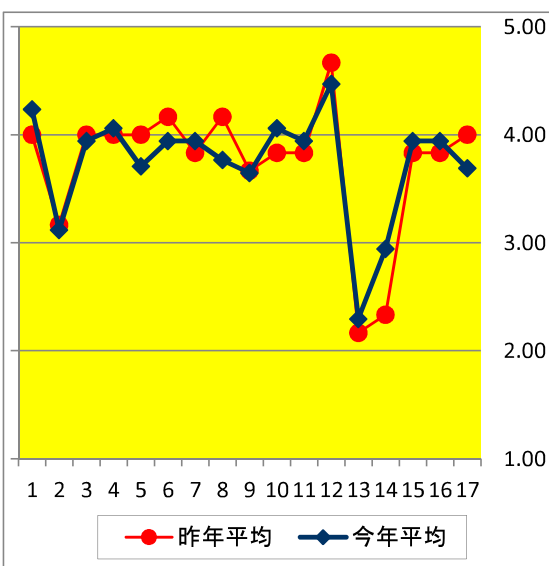
該当なし（授業担任者変更）

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度から本学で教え始めたこともあり、講義終了直後は、来年度は内容構成なども大幅に変更するつもりでいた。構成を一新して、時事的な内容を増やすといったことを考えていたのだが、時事的な内容を増やすことは行うものの、今年度の構成で受講生の満足度が十分なものだったことを踏まえて、内容構成の修正は小幅なものにしたい。

科 目	企業分析論			
配当年次	2	開講時限	春木1	
受講者数	24	回答者数	17	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.24	4	5	3
2	3.17	3.12	3	4	2
3	4.00	3.94	4	5	3
4	4.00	4.06	4	5	3
5	4.00	3.71	4	5	2
6	4.17	3.94	4	5	3
7	3.83	3.94	4	5	2
8	4.17	3.76	4	5	2
9	3.67	3.65	4	5	3
10	3.83	4.06	4	5	3
11	3.83	3.94	4	5	2
12	4.67	4.47	5	5	3
13	2.17	2.29	1	4	1
14	2.33	2.94	3	5	1
15	3.83	3.94	4	5	2
16	3.83	3.94	4	5	2
17	4.00	3.69	4	5	2
回答者数	6	17			



受講生の傾向

2年次春学期の配当科目であり、就職活動を理由として欠席する学生が散見された。
ただし、講義中はまじめに課題に取り組むとともに、ほとんどの学生が欠席した講義のフォローアップを行っている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前年に引き続き、講義に加えて実際の資料に当たって分析を進めるよう留意した。
講義の理解度を上げるために講義資料を改訂するとともに、講義中の説明の明確さに留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

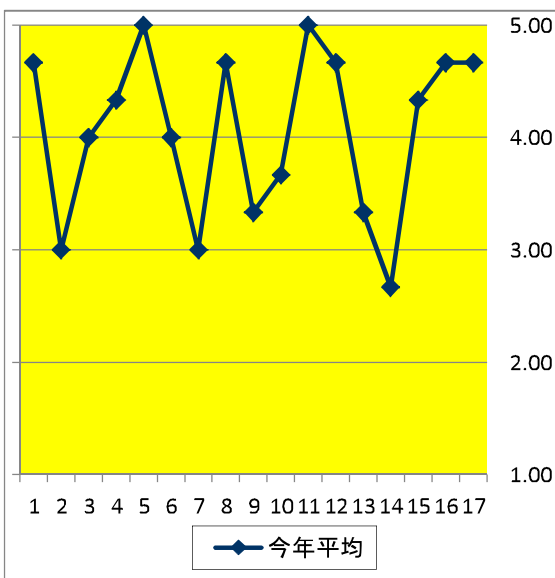
昨年度のアンケートよりもアンケートの評価値が低下しているため、今後の全体的な改善の必要性を感じている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業の全体的な満足度(項目11)については前年度よりも増加しているが、授業の全体的な理解度(項目17)は低下している。そのため、理解度をさらに向上させるために今後の改善が必要と考えている。

科 目	政府・自治体会計論		
配当年次	2	開講時限	春金2
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.67	5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	5.00	5	5	5
6	—	4.00	3・4・5	5	3
7	—	3.00	3	3	3
8	—	4.67	5	5	4
9	—	3.33	3	4	3
10	—	3.67	3	5	3
11	—	5.00	5	5	5
12	—	4.67	5	5	4
13	—	3.33	3	4	3
14	—	2.67	3	3	2
15	—	4.33	5	5	3
16	—	4.67	5	5	4
17	—	4.67	5	5	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

政府・自治体の会計を勉強したいという意欲の高い学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

教科書を1章ずつ、発表者に全体的な解説をさせるとともに、バックグラウンド等を説明し、それについての論点を提示させるとともに、議論を毎回行った。学生には毎回授業範囲を読み込んで、執筆者の考え方と論点とを考えてくるように指示した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

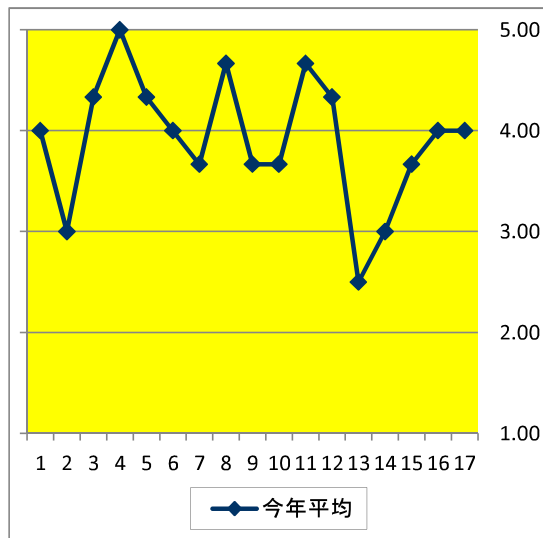
該当なし(担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回のみの担当ではあるが、今後も学生に考えさせて、議論を行う授業をしていきたい。

科 目	上級会社法		
配当年次	2	開講時限	春火1
受講者数	5	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	3・4・5	5	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.33	4	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.33	4	5	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	3.67	4	4	3
8	—	4.67	5	5	4
9	—	3.67	4	4	3
10	—	3.67	4	4	3
11	—	4.67	5	5	4
12	—	4.33	4	5	4
13	—	2.50	2・3	3	2
14	—	3.00	3	3	3
15	—	3.67	4	4	3
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

今年度は受講生が5名と非常に少ない状況であった。
また、最後まで受講を続けていた学生はそのうち3名だけとなった。
その3名は授業態度は非常にまじめで熱心に取り組んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は上記で示したように受講生が少なかったため、個々の学生のレベルに合わせて授業を行った。
つまり、本来であれば上級会社法では扱わないような資本的なレベルでも、受講生が理解できていないようであれば解説したり、逆に上級で詳細に説明する予定のところ、学生が理解できている場合には簡単に説明したりするというを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

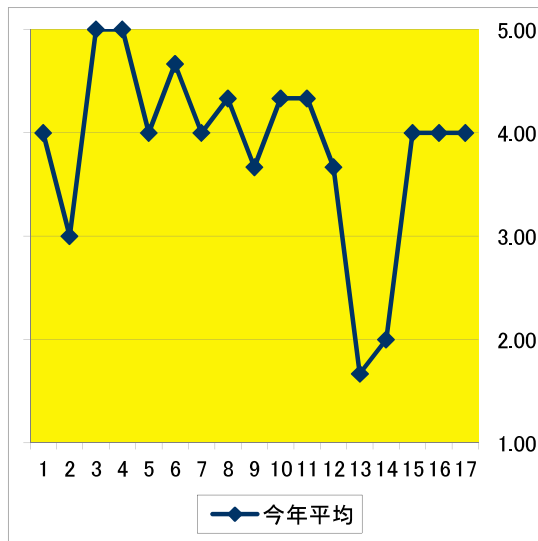
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上級会社法は、中級会社法から続く科目であるので、なるべく中級で扱うところは中級で、上級で扱うところは上級という厳格な区分のもとで授業を行いたい。今年度のように受講生が少なければ、受講生のレベルや要望に極力合わせた授業を行いたい。
また、そのためにもなるべく授業中に学生との対話を心がけたい。

科 目	資本市場論			
配当年次	2	開講時限	春木2	
受講者数	6	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.67	5	5	4
7	—	4.00	3・4・5	5	3
8	—	4.33	4	5	4
9	—	3.67	4	4	3
10	—	4.33	4	5	4
11	—	4.33	4	5	4
12	—	3.67	4	4	3
13	—	1.67	2	2	1
14	—	2.00	2	2	2
15	—	4.00	4	4	4
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

全員についていえることだが、遅刻・欠席が多く、全体として、この講義にさほど興味がもてなかったのかもしれない。ただし、講義のなかでできるだけ受講生との議論をするようにしたところ、毎回、活発な議論ができた。出席しているときには、自分の意見がきちんといえて、教員に反論することもできる受講生ばかりであった。アンケート結果をみると、3、4の2つの質問だけ、回答者全員(3人)が5と評価しているが、これは、講義に出たときには、教員の努力を実感できたということだろう。しかし、実際には、遅刻・欠席が多かったことを考えると、強い興味をもたせるところまでは結びつかなかったといえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(昨年度不開講)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

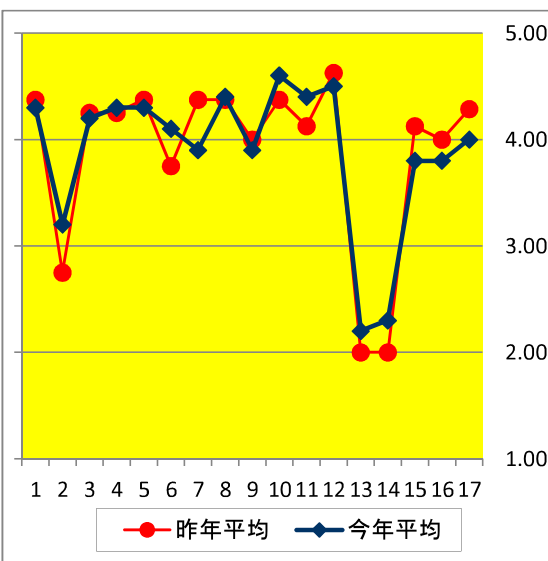
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

課題ははっきりしていて、受講生の興味がどう深められるかだが、今年度の1年生対象の講義では、ファイナンス系の講義を似たスタイルでおこなった結果、興味をもった受講生は欠席・遅刻をほとんどしなかった。来年度は、彼らが2年生としてこの科目を選択する可能性があるので、講義スタイルを変えるほうがいいとは思えない。ただし、興味をもたせるための方法として、もっと現実のデータを資料として使うことが有効化と感じるので、この点はきちんと工夫したい。また、討論の際に直近で起きたことを例に説明すると、受講生の反応がよかったと感じるので、講義の部分から、もっと時事的な話を入れるようにしたい。

科 目	マクロ経済学			
配当年次	2	開講時限	春土4	
受講者数	14	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.30	4	5	3
2	2.75	3.20	3	4	3
3	4.25	4.20	4	5	3
4	4.25	4.30	4	5	3
5	4.38	4.30	4	5	4
6	3.75	4.10	4	5	3
7	4.38	3.90	4	5	2
8	4.38	4.40	4	5	4
9	4.00	3.90	5	5	1
10	4.38	4.60	5	5	4
11	4.13	4.40	4	5	4
12	4.63	4.50	5	5	3
13	2.00	2.20	1	4	1
14	2.00	2.30	2	4	1
15	4.13	3.80	4	5	1
16	4.00	3.80	4	5	1
17	4.29	4.00	4	5	1
回答者数	8	10			



受講生の傾向

この講義には、公認会計士志望の学生だけでなく、国家公務員、地方公務員、国税官などをを目指す学生の受験科目であるので、大勢が受講している。また、マクロ経済学は、経済学の基礎の講義であり、国民所得、雇用、国際収支、利子率、金融など経済社会で日常的に目にする経済用語が用いられるので、一般企業に就職を希望する学生も結構受講している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

マクロ経済学は、ミクロ経済学と異なり、国民所得、景気、国際収支、雇用、利子率、金融などという日常目にする経済用語を用いる講義であるので、学生の関心が高い。それで、理論的講義に付け加えて、日本と世界経済で発生している経済事象を例題として講義のなかで説明している。つまり、理論と実際の融和を図った講義を試みている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

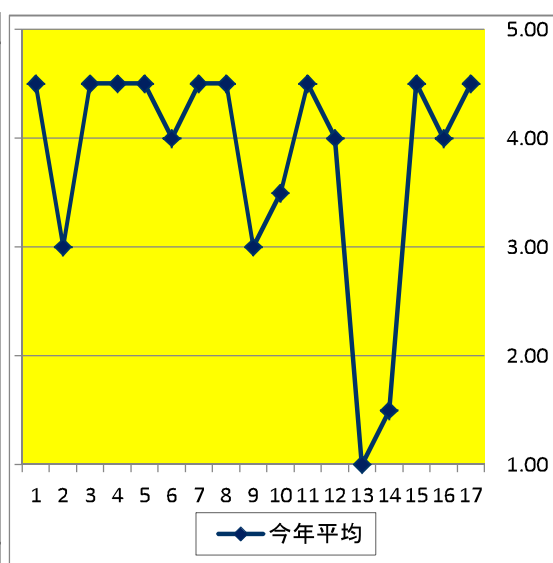
受講生にとっては、理解しやすい講義であるので、最初からある程度のレベルの授業を行うことができる。それで、今後はマクロ経済学的な理論と実際の経済の動きをリンクさせる講義を行い、受講生の興味と学力を引き上げるように努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

理論と実際の経済の動きをリンクさせた講義を行い学生には好評であったので、今後もこの方針を発展させていく予定である。

科 目	監査事例研究			
配当年次	1	開講時限	春水1	
受講者数	4	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.50	4・5	5	4
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	3.00	3	3	3
10	—	3.50	3・4	4	3
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.00	3・5	5	3
13	—	1.00	1	1	1
14	—	1.50	1・2	2	1
15	—	4.50	4・5	5	4
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

受講者数が少なかったので、評価しづらい面がある。監査論そのものの理解が十分でない受講生には難しいテーマであったかもしれない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(授業担任者変更)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

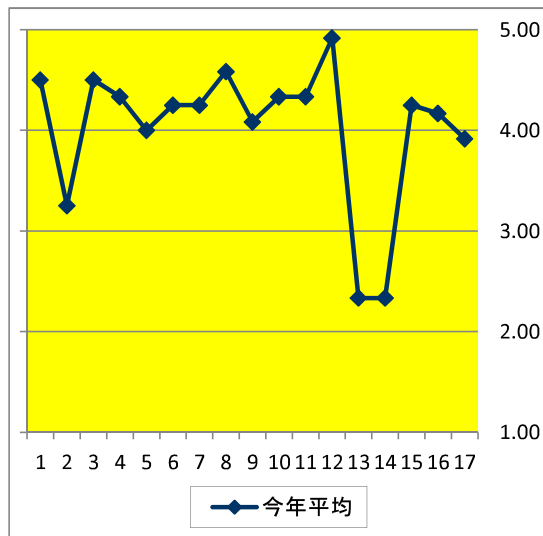
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

最大の問題は春学期の1時間目に講義を設定したことだと感じたので、次年度は「監査基準」を学習したことを前提に、秋学期に講義を行いたいと考えている。内容は今期と同様、実際の事例を取り入れながら、考える習慣が身につく授業を目指したい。

科 目	会社経理実務			
配当年次	1	開講時限	春木4	
受講者数	12	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.25	3	5	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.00	4	5	2
6	—	4.25	4	5	3
7	—	4.25	4	5	3
8	—	4.58	5	5	4
9	—	4.08	4	5	3
10	—	4.33	4	5	4
11	—	4.33	5	5	3
12	—	4.92	5	5	4
13	—	2.33	2	5	1
14	—	2.33	2	5	1
15	—	4.25	4・5	5	3
16	—	4.17	5	5	3
17	—	3.92	4	5	3
回答者数	—	12			



受講生の傾向

受講生12名中10名が全15回出席、2名が14回の出席で、質問についても延べ87回(1人平均7.3回)と、ほぼ全員が熱心に授業に参加していたように思う。一方、気になることは、質問の際に自分の言いたいことを表現する力に欠ける傾向と、質問内容から問題意識と理解度に個人差が見られたことなどである。アンケート結果については、特に授業の理解度(質問17)が私の期待値を下回っている。なお、レポートの出来は2極分化であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(新設科目)

今後の対応

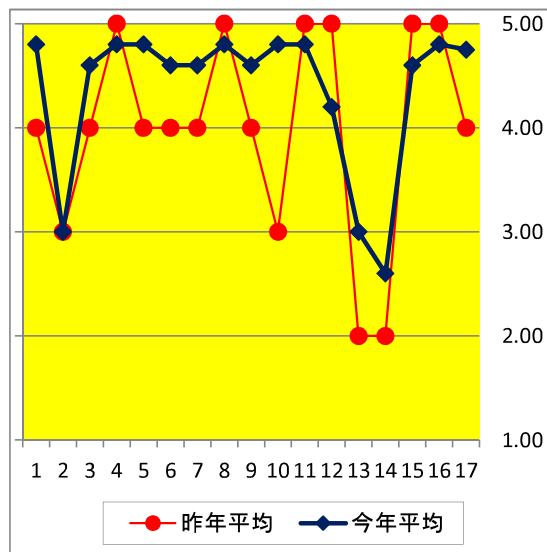
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業の理解度を高めることと、レポートで重視している「問題意識」「論理性」の向上に重点を置くこととする。具体的には①今年の授業のパワーポイント毎回30～50枚を30枚以内に絞りこみ、受講生の理解を促進すること、②双方向の対話時間を増やし、受講生の問題意識の喚起と論理性の向上を図ることなどを考えている。

科 目	ディスクロージャー実務			
配当年次	2	開講時限	春金3	
受講者数	8	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.80	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	4.60	5	5	3
4	5.00	4.80	5	5	4
5	4.00	4.80	5	5	4
6	4.00	4.60	5	5	3
7	4.00	4.60	5	5	3
8	5.00	4.80	5	5	4
9	4.00	4.60	5	5	3
10	3.00	4.80	5	5	4
11	5.00	4.80	5	5	4
12	5.00	4.20	4・5	5	3
13	2.00	3.00	2・3	5	2
14	2.00	2.60	3	3	2
15	5.00	4.60	5	5	4
16	5.00	4.80	5	5	4
17	4.00	4.75	5	5	4
回答者数	1	5			



受講生の傾向

初めは熱心な学生とそうではない学生がいたが、プレゼンテーションとディスカッションを行うことで、徐々に熱心になっていった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

各班にテーマを与えて、IFRS、米国基準、日本基準の開示基準の違いを比較させるとともに、実際の企業の開示を比較検討させ、そのプレゼンテーションを行わせた。更に、実際の開示の会計基準との関係、それぞれの基準のバックグラウンドの違い等を議論させた。パソコン教室を使うことで、プレゼンテーションの充実を図るとともに、ポイントについて実際にHP等を検索して確かめる等を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

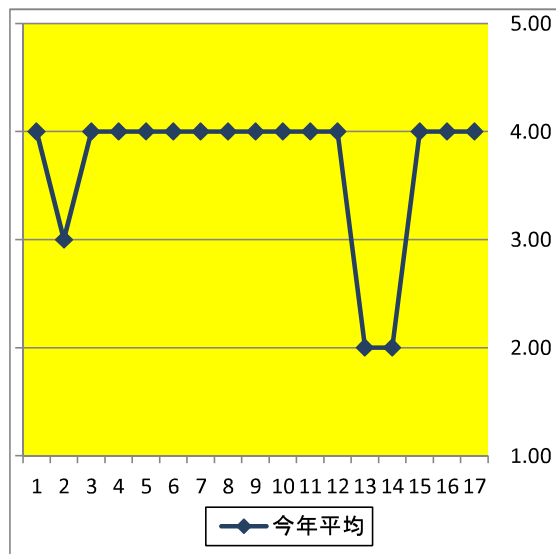
ディスクロージャーの基本的な考え方ならびに現状についてレポートさせてディスカッションさせる等、考える授業を行っていく。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回の方針で来年も行いたい。

科目	アカデミック・ソリューションA（加藤クラス）			
配当年次	1	開講時限	春火5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	4.00	4	4	4
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.00	4	4	4
8	—	4.00	4	4	4
9	—	4.00	4	4	4
10	—	4.00	4	4	4
11	—	4.00	4	4	4
12	—	4.00	4	4	4
13	—	2.00	2	2	2
14	—	2.00	2	2	2
15	—	4.00	4	4	4
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	1			



受講生の傾向

遅刻・欠席は少なく、ディスカッションに意欲的であった。しかし、簿記や理論に関する知識は断片的で、正確さを欠くところもあり、議論が噛み合わないことが多々あった。また、与えた課題を期間内に消化していないこともあった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

当初の講義計画に拘らずに、受講生の理解度や学習の進捗度に合わせて講義を展開した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

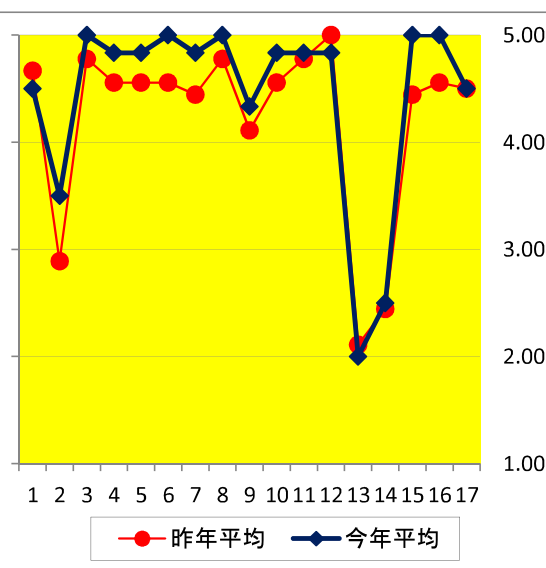
該当なし(前年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個別指導・個別相談の内容を含みながら、受講生とのコミュニケーションをはかりたい。受講生の理解度や学習の進捗度に合わせて対応する。

科 目	アカデミック・ソリューションA（坂口クラス）			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	6	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	5	5	3
2	2.89	3.50	3	5	3
3	4.78	5.00	5	5	5
4	4.56	4.83	5	5	4
5	4.56	4.83	5	5	4
6	4.56	5.00	5	5	5
7	4.44	4.83	5	5	4
8	4.78	5.00	5	5	5
9	4.11	4.33	5	5	3
10	4.56	4.83	5	5	4
11	4.78	4.83	5	5	4
12	5.00	4.83	5	5	4
13	2.11	2.00	1・2・3	3	1
14	2.44	2.50	3	3	1
15	4.44	5.00	5	5	5
16	4.56	5.00	5	5	5
17	4.50	4.50	5	5	3
回答者数	9	6			



受講生の傾向

短答式試験を合格しているもの（あるいは合格程度の実力があり、特定科目の補強を目指すもの）から日商簿記検定2級の受験を今後考えているものまで、学生間のレベルは多様であった。ただし、学生は概ね真面目なものが多く、授業の進捗はスムーズであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的な会計学の問題、とくに管理会計の問題（伝統的原価計算、ABC、コストマネジメントなど）から丁寧に解説し、それぞれの意見を求め、ディスカッションを行い、興味をひくように授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

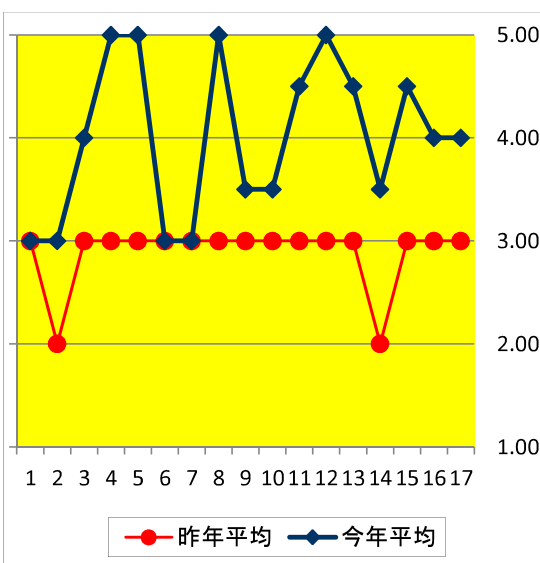
管理会計の基本的な項目（とくに計算に関する項目、たとえば伝統的原価計算、ABC、TDABC）を中心に議論を進めた。これにより、受講生の計算方法に関する基本的な理解を促進できたと考える。また、メタファーや事例などを用いて学生の理解が進むように授業を組み立て説明した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の理解がある程度促進されたようであるので、この授業においては、応用的な論点ではなく基本的な論点を中心に進めていく予定である。ただし、学生の授業への取り組み（例えばメタファーの利用など）については改善すべきポイントもあるので、今後検討していきたい。

科 目	アカデミック・ソリューションA（柴クラス）			
配当年次	1	開講時間	春月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.00	3.00	3	3	3
2	2.00	3.00	3	3	3
3	3.00	4.00	4	4	4
4	3.00	5.00	5	5	5
5	3.00	5.00	5	5	5
6	3.00	3.00	3	3	3
7	3.00	3.00	3	3	3
8	3.00	5.00	5	5	5
9	3.00	3.50	3・4	4	3
10	3.00	3.50	3・4	4	3
11	3.00	4.50	4・5	5	4
12	3.00	5.00	5	5	5
13	3.00	4.50	4・5	5	4
14	2.00	3.50	3・4	4	3
15	3.00	4.50	4・5	5	4
16	3.00	4.00	4	4	4
17	3.00	4.00	4	4	4
回答者数	2	2			



受講生の傾向

表面的には受講生の評価が一気に高まっているように見えるが、昨年度は評点の5と1を取り違えて1と書いた者がいて例年に比べて低評価となっている。この点を考慮すると、一昨年なみの評価であろうと思われる。とりわけ、講義で意図したとおり学習意欲が高いように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の数が少ないので、それぞれの個性に合わせて教育方法の軌道修正を行っている。最初は効果が出なくても、徐々に考え、発言できるようになってきている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

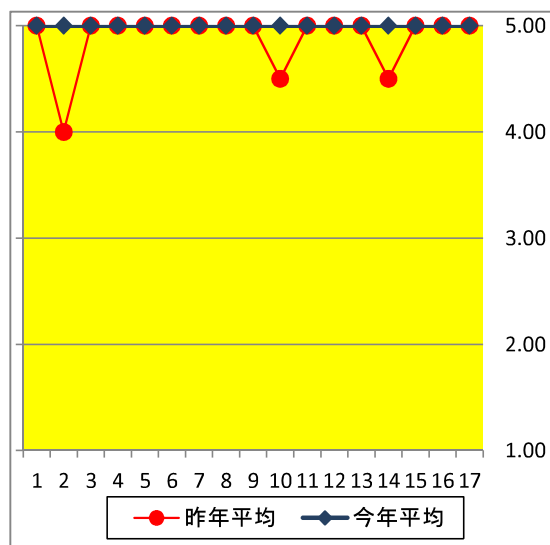
ソリューションでは徹底した対話型（質疑応答）が効果的であるのでこれを更に工夫して明年度も継続する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションでは徹底した対話型（質疑応答）が効果的であるのでこれを更に工夫して継続する。

科 目	アカデミック・ソリューションA (富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	4.00	5.00	5	5	5
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	5.00	5	5	5
14	4.50	5.00	5	5	5
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講生がひとりであるため、必然的にディスカッションや予習・復習が充分に行われ、受講生も熱心であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生がひとりであることが、初めての経験であったため、「マン・ツー・マン」ならではの利点が活かせるよう配慮したつもりである。「小テスト」をむしろ行わず、ひとつひとつの理解を促し、ディスカッションに重点をおくことにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

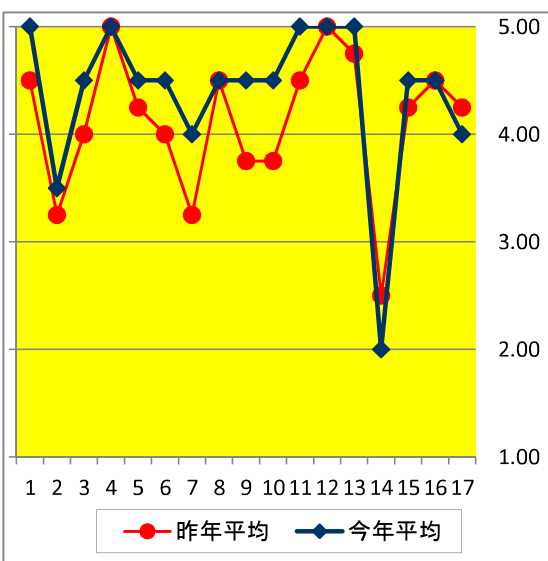
学生の意欲を高めるという点では、昨年度の「今後の対応」をある程度クリアしたと思えるが、学生がより主体的に対象に望むような工夫を模索したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も、受講生が主体的に対象に望むような工夫を検討したい。

科 目	アカデミック・ソリューションA（松本クラス）			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	5.00	5	5	5
2	3.25	3.50	3・4	4	3
3	4.00	4.50	4・5	5	4
4	5.00	5.00	5	5	5
5	4.25	4.50	4・5	5	4
6	4.00	4.50	4・5	5	4
7	3.25	4.00	3・5	5	3
8	4.50	4.50	4・5	5	4
9	3.75	4.50	4・5	5	4
10	3.75	4.50	4・5	5	4
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.75	5.00	5	5	5
14	2.50	2.00	1・3	3	1
15	4.25	4.50	4・5	5	4
16	4.50	4.50	4・5	5	4
17	4.25	4.00	4	4	4
回答者数	4	2			



受講生の傾向

全員が真面目にほぼ100%出席しており、受講生のモラルは高い(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、計算能力を高めるため日商簿記検定1級レベルの個別課題を正規の時間外で課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

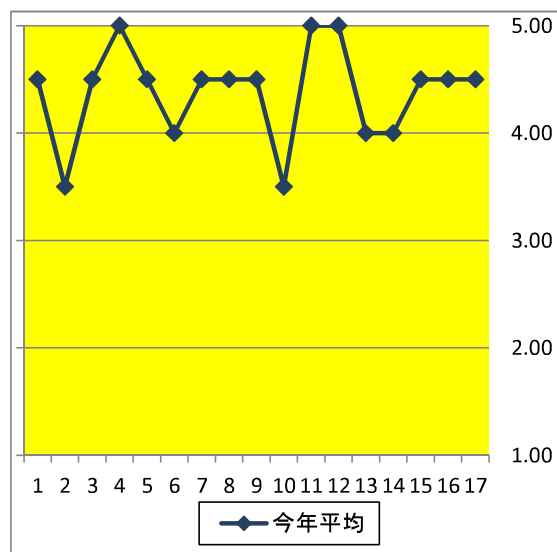
今後も正規の時間外で、個別能力に応じた指導を導入する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個別能力に応じた指導により予習時間の確保は図れているが(項目13)、復習時間の確保が十分でないため、復習用の課題を検討する必要がある。

科目	アカデミック・ソリューションA (三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	春火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.50	3・4	4	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	3.50	3・4	4	3
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	4.00	3・5	5	3
14	—	4.00	3・5	5	3
15	—	4.50	4・5	5	4
16	—	4.50	4・5	5	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

今年度は受講生が二人であった。二人とも授業に熱心に取り組んでいる。
ただし、それぞれの学生でこのソリューションで学習する目的が異なっており、一人は企業法をこれまで学習したことがなく、基礎から身に着けたいと考えており、もう一人は、すでに企業法を一通り学習しており、むしろ企業法の弱点を克服するということを目的にしている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の授業では、学生が2人と少なく、学生のレベルや要望に合わせて授業を行った。
しかし、上記で示したように学生の受講目的やレベルも異なることから、それぞれの学生が授業に満足できるように心がけた。

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

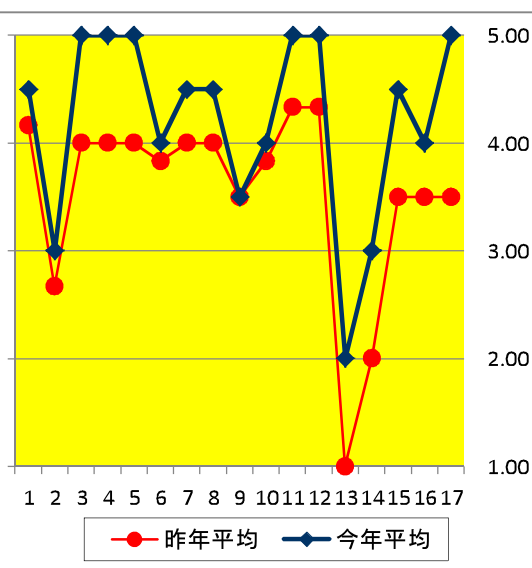
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ソリューションでの授業は基本的に対話形式で行っているが、これはほとんどが私と学生との対話になっているが、できれば、学生同士の対話が多く行われるようにし、それに私が補足を付け加えるという授業ができるように心がけたい。

科 目	アカデミック・ソリューションA（宮本クラス）			
配当年次	1	開講時限	春土1	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.50	4・5	5	4
2	2.67	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	4.00	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	3.83	4.00	3・5	5	3
7	4.00	4.50	4・5	5	4
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	3.50	3.50	3・4	4	3
10	3.83	4.00	4	4	4
11	4.33	5.00	5	5	5
12	4.33	5.00	5	5	5
13	1.00	2.00	1・3	3	1
14	2.00	3.00	2・4	4	2
15	3.50	4.50	4・5	5	4
16	3.50	4.00	3・5	5	3
17	3.50	5.00	5	5	5
回答者数	6	2			



受講生の傾向

今年度のアカデミック・ソリューションでは、ミクロ経済学の講義を行った。受講生は経済学の基礎を理解していた学生と経済学の基礎を理解していなかった学生がいたので、最初は基礎的なレベルから講義を行った。そして、徐々にレベルを上げていき、消費の理論から生産、市場の理論、さらにゲームの理論まで到達した。受講生はよく理解したと考えている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでのアカデミック・ソリューションの授業に関するアンケートでは、授業のやり方については好評であったので、今年度の講義も従来の講義方法を踏襲した。基礎的なレベルからスタートして、受講生の理解度を高め、徐々に内容をレベルアップさせて、高度な内容を理解できる水準にまで到達させるように工夫した。

今後の対応

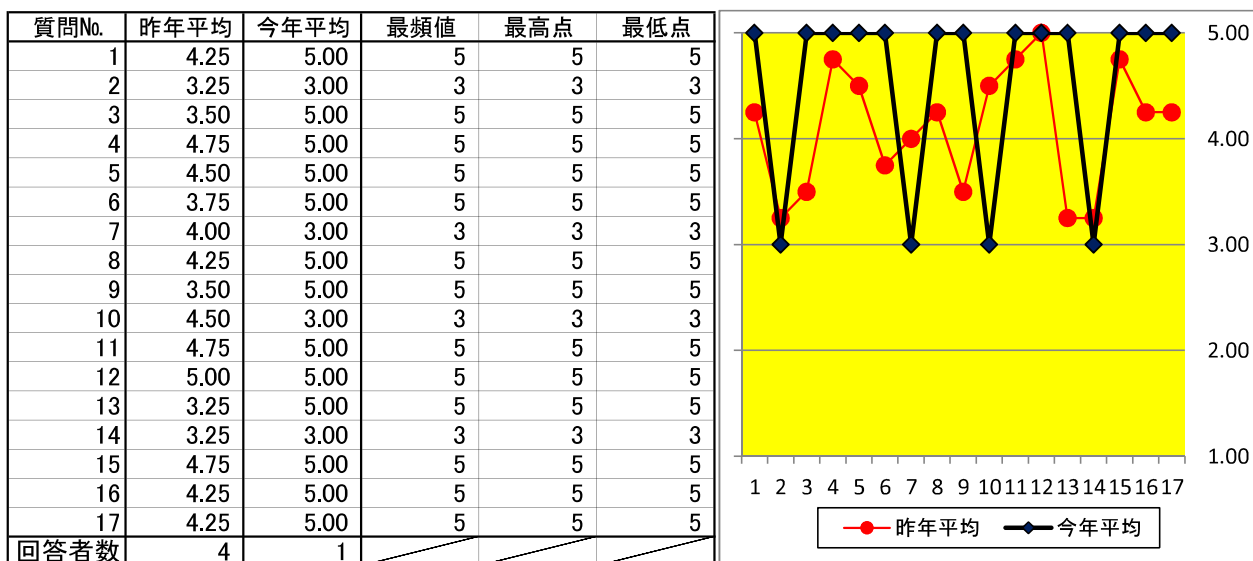
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

これまでの授業は効果があったと考えているので、今後も最初は基礎的、初歩的な授業からスタートし、受講生の理解度を高めて行き、徐々に内容を高度化して、最後は模擬試験レベルの問題が解けるレベルにまで受講生の学力を引き上げるように努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は、「講義で工夫したこと」で述べたように、ミクロ経済学の初歩的な段階から徐々に内容をレベルアップさせて、最後はかなり高い水準の内容まで理解できるように学生の学力を引き上げることに成功したと考えているので、今後もこの方向を踏襲していく計画である。

科目	アカデミック・ソリューションA（宗岡クラス）			
配当年次	1	開講時限	春木5	
受講者数	3	回答者数	1	



受講生の傾向

就職希望、公認会計士受験希望、公務員試験希望等バラエティに富んでいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

国際税務を中心とする、企業等で役立つ専門知識を題材に、ディスカッションを活性化させることに留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

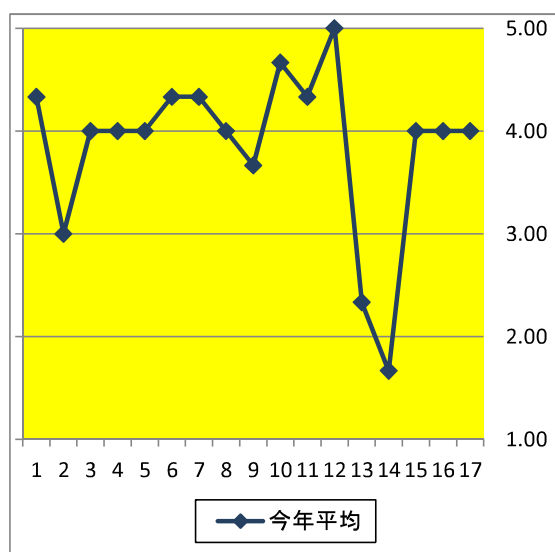
目的意識を踏まえ学習目標を明確化させた上で、発表、ディスカッションの活発化等を通して、企業に有益な人材を育成するということを継続して行いたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

目標意識を明確化させ、それに応じた知識の習得とディスカッションの活性化を通して、企業に有益な人材を育成する。

科 目	アカデミック・ソリューションA(大西クラス)			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	4	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.00	4	4	4
4	—	4.00	3・4・5	5	3
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.33	4	5	4
7	—	4.33	4	5	4
8	—	4.00	3・4・5	5	3
9	—	3.67	4	4	3
10	—	4.67	5	5	4
11	—	4.33	4	5	4
12	—	5.00	5	5	5
13	—	2.33	2	3	2
14	—	1.67	2	2	1
15	—	4.00	3・4・5	5	3
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

受講生はすべての回に出席している。
また、受講態度はまじめである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度の授業では、テキストの文章に丁寧にあたって理解を促進するよう心がけている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

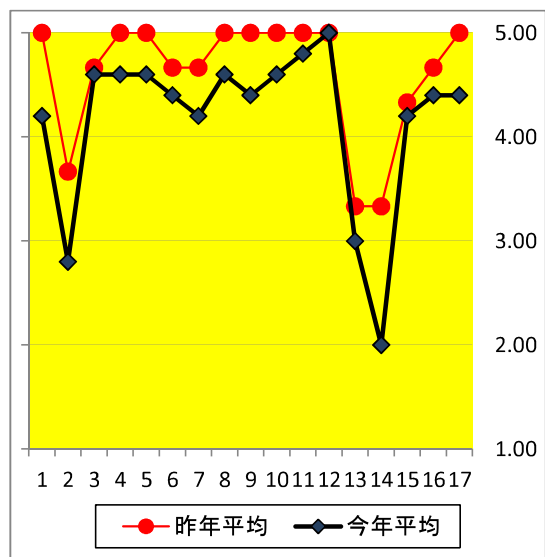
該当なし(昨年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回はテキストの輪読を中心としているが、受講生が相手を意識した発表になるように促すなどの改善が必要と考えている。

科目	アカデミック・ソリューションA（中村クラス）			
配当年次	1	開講時限	春月5	
受講者数	5	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.20	4・5	5	3
2	3.67	2.80	3	3	2
3	4.67	4.60	5	5	4
4	5.00	4.60	5	5	4
5	5.00	4.60	5	5	4
6	4.67	4.40	4	5	4
7	4.67	4.20	4	5	4
8	5.00	4.60	5	5	4
9	5.00	4.40	5	5	3
10	5.00	4.60	5	5	4
11	5.00	4.80	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.33	3.00	2・3	5	2
14	3.33	2.00	2	3	1
15	4.33	4.20	4・5	5	3
16	4.67	4.40	4	5	4
17	5.00	4.40	4	5	4
回答者数	8	5			



受講生の傾向

全体の印象として、昨年度に比べると、ゼミ生間のディスカッションが少なかった。それは、今年度のデータが全て昨年度のそれを下回っていることに表れていると考える。そのうち、授業進度が遅い(質問No. 2)との評価については、その原因が昨年度に比べて受講生の学習時間が少なく(質問No. 13、14)、内容理解のための解説時間が長くなったことにあった。また、受講生には条文集を貸与してレジュメの作成を依頼したが、条文そのものに当たらずインターネットからの情報をコピー＆ペーストしたレジュメが多く散見された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

報告レジュメに関する問題を作成し、受講生にその場で条文集を用いて解答させることを試みた。また、所得税法については、実際に所得金額、所得控除額、税額を受講生に算出させ、所得税額の算定構造に関する理解の向上を目指した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

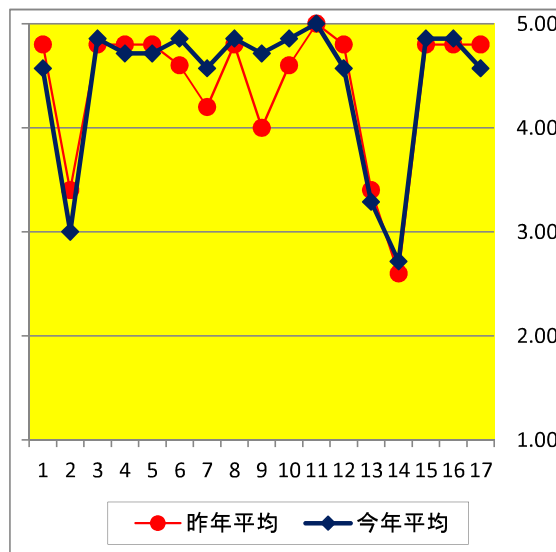
代表的な租税法判例を講義内でできる限り多く取り扱っていきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レジュメ報告者以外にも、各講義に関連する租税判例についてのレポートを提出させる。また、授業理解度の確認、及び、受講生の学習インセンティブの増加を図るため、複数回の小テストを実施し、成績評価にそれを反映させる。

科目	プロフェッショナル・ソリューションA（坂口クラス）			
配当年次	2	開講時限	春金5	
受講者数	8	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.57	5	5	4
2	3.40	3.00	3	3	3
3	4.80	4.86	5	5	4
4	4.80	4.71	5	5	4
5	4.80	4.71	5	5	4
6	4.60	4.86	5	5	4
7	4.20	4.57	5	5	4
8	4.80	4.86	5	5	4
9	4.00	4.71	5	5	4
10	4.60	4.86	5	5	4
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.80	4.57	5	5	3
13	3.40	3.29	2・3・4	5	2
14	2.60	2.71	3	5	1
15	4.80	4.86	5	5	4
16	4.80	4.86	5	5	4
17	4.80	4.57	5	5	4
回答者数	5	7			



受講生の傾向

受講生の習熟度のレベルはおおむね高い水準にある。ただし、将来の進路において違いが見られる（例えば会計士を目指す者や一般企業への就職を目指すものなど）ため、それぞれのニーズが異なっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計学のうち、とくに管理会計の発展的な項目（たとえばBSC、TOC、BFC、MFCA）を中心に議論を進めるとともに、管理会計や会計学の全体像を理解を促進できるように心がけた。また、ディスカッションを盛んに行い、学生の積極的な発言を促すように努力した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

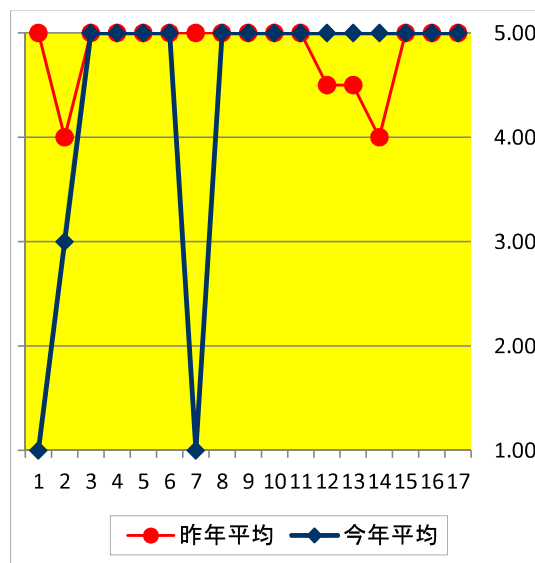
管理会計の発展的な項目（たとえば戦略的コストマネジメント、BSC、TOC、BFC、MFCA）を中心に議論を進めた。これにより、全体像を鳥瞰し受講生の管理会計に関する包括的な理解を促進できたと考える。また、発展的な知識を着実に身に着けるため、問題点を考えることに重点を置いた。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

管理会計の各項目にかかわるディスカッションを実施してきたが、その指導の仕方や教材として利用するもの（架空のケースも含む）でまだ改善の余地がある。そのため、教材選択や授業の組立について、他の教員からのアドバイスも受けながら改善していきたい。

科目	プロフェッショナル・ソリューションA（柴クラス）			
配当年次	2	開講時限	春金5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	1.00	1	1	1
2	4.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	1.00	1	1	1
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	4.50	5.00	5	5	5
13	4.50	5.00	5	5	5
14	4.00	5.00	5	5	5
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

文字通りに真剣に対応する学生による評価である。この講義では、シラバスに書かれた内容を受講生に合わせて変更して講義したので、質問1と7が1点となっている。これに対して質問2が最適の3点、残りがすべて5点となっている。このひとりの学生の評価から一般論を引き出すことは難しいが、質問内容に一考を要することを示唆している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

アカデミック・ソリューションと同様に、本ソリューションでも徹底した対話型（質疑応答）を実施した。さらに、対話型を効果的にする方法として教材を英文にした。こうした工夫は受講生が1名であったのでできたものである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

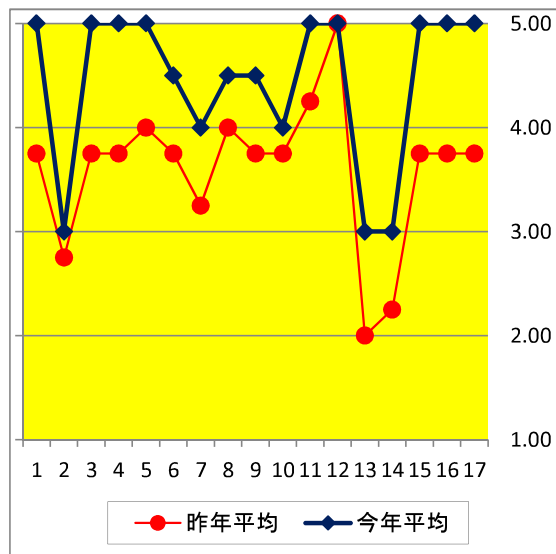
可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

可能な限り負荷を高めることの有効性を維持しつつ、思考力や表現力の改善に努める。

科目	プロフェッショナル・ソリューションA(富田クラス)			
配当年次	2	開講時限	春火5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.75	5.00	5	5	5
2	2.75	3.00	3	3	3
3	3.75	5.00	5	5	5
4	3.75	5.00	5	5	5
5	4.00	5.00	5	5	5
6	3.75	4.50	4・5	5	4
7	3.25	4.00	4	4	4
8	4.00	4.50	4・5	5	4
9	3.75	4.50	4・5	5	4
10	3.75	4.00	4	4	4
11	4.25	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.00	3.00	3	3	3
14	2.25	3.00	3	3	3
15	3.75	5.00	5	5	5
16	3.75	5.00	5	5	5
17	3.75	5.00	5	5	5
回答者数	4	2			



受講生の傾向

受講生の欠席は皆無であった。また、膨大な事前資料に対しても、抵抗がなかったようであり、充分に予習して講義に望んでいるようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度、ディスカッションから雑談気味の状態になり、結果として、シラバスの予定からズレたり、復習・予習が少なくても対応できてしまったりしてしまった。そのため、今年度は、具体的な事象を提示する場合、できるだけ問題点を明確にし、ディスカッションのポイントを絞って行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

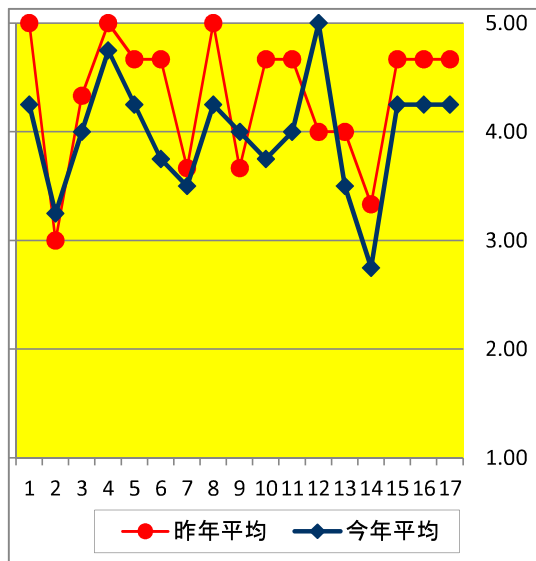
具体的な事象の考察のディスカッションから雑談めいた状態にならないよう意識し、ディスカッションと雑談の違いを受講生に識別させる。その上で、活発なディスカッションを促す。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度は全体として良好であると感じられるので、今後は、受講生により主体的に対象に向き合うような工夫を追加する必要があり、その策を検討する。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションA (松本クラス)			
配当年次	2	開講時限	春金5	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.25	4	5	4
2	3.00	3.25	3	4	3
3	4.33	4.00	4	4	4
4	5.00	4.75	5	5	4
5	4.67	4.25	4	5	4
6	4.67	3.75	4	4	3
7	3.67	3.50	3・4	4	3
8	5.00	4.25	4	5	4
9	3.67	4.00	4	4	4
10	4.67	3.75	4	4	3
11	4.67	4.00	4	5	3
12	4.00	5.00	5	5	5
13	4.00	3.50	3	5	3
14	3.33	2.75	3	3	2
15	4.67	4.25	4	5	4
16	4.67	4.25	4	5	4
17	4.67	4.25	4	5	4
回答者数	3	4			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席しており、受講生のモラルは高い(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自の能力に応じて課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。また随時、質問を受け付けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

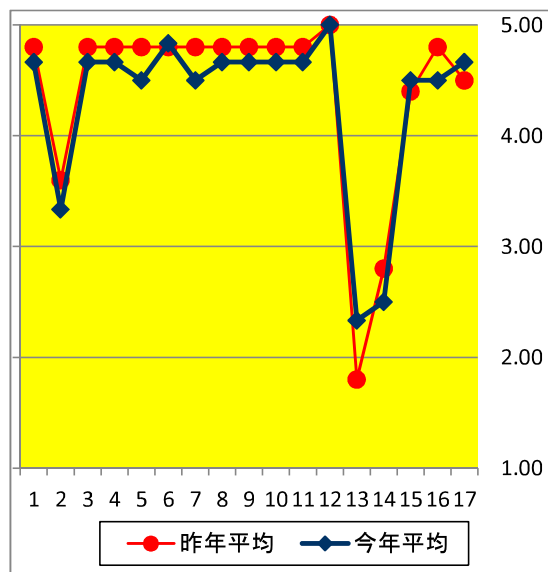
今後も正規の時間外で個別能力に応じた指導を行なう必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個別指導の一環として、質問を受け付けるための時間を予め知らせるようにしたい。

科目	プロフェッショナル・ソリューションA（宮本クラス）			
配当年次	2	開講時限	春土5	
受講者数	6	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.80	4.67	5	5	4
2	3.60	3.33	3	4	3
3	4.80	4.67	5	5	4
4	4.80	4.67	5	5	4
5	4.80	4.50	5	5	3
6	4.80	4.83	5	5	4
7	4.80	4.50	5	5	3
8	4.80	4.67	5	5	4
9	4.80	4.67	5	5	4
10	4.80	4.67	5	5	4
11	4.80	4.67	5	5	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	1.80	2.33	2	3	2
14	2.80	2.50	2・3	3	2
15	4.40	4.50	4・5	5	4
16	4.80	4.50	4・5	5	4
17	4.50	4.67	5	5	4
回答者数	5	6			



受講生の傾向

今年度の受講生全員が、アカデミック・ソリューションA、Bからの引き続いた受講生であったので、学力、気心がよくわかっていたので、講義が非常にしやすかった。全員まじめで学力優秀な受講生であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度のプロフェッショナル・ソリューションAでは、マクロ経済学を講義した。マクロ経済学は、ミクロ経済学と異なり、日常目にする経済専門用語(国民所得、利子率、失業など)を用いるので、理解が早かった。それで、理論的に少し掘り下げて講義を行い、特にIS-LM分析を丁寧に解説した。十分な理解に到達したと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

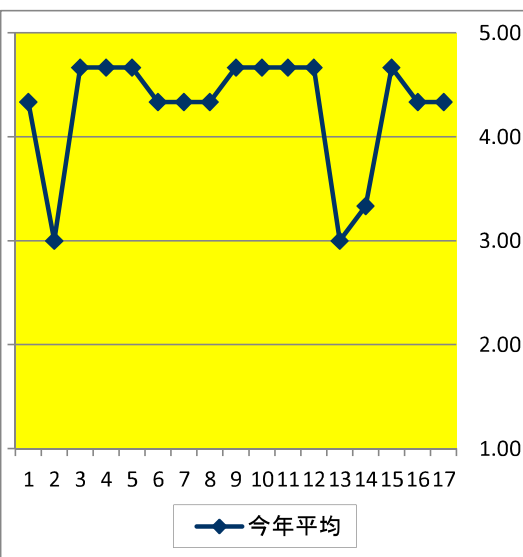
アンケート結果を踏まえて、最初は基礎的、初歩的な授業からスタートし、受講生の理解度を高めて行き、徐々に内容を高度化して、最後は種々の試験問題が解けるレベルにまで受講生の学力を引き上げるように工夫したが、非常に効果があったと考えているので、今後もこの方針で授業を行う。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度については、受講生がマクロ経済学の初歩的な段階はほとんど理解していたので、マクロ経済学の主要ポイントであるIS-LM分析を中心に講義した。次年度は、受講生のレベルを考えてから、講義の内容を工夫することにする。

科目	プロフェッショナル・ソリューションA（宗岡クラス）		
配当年次	2	開講時限	春火5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	4	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.67	5	5	4
4	—	4.67	5	5	4
5	—	4.67	5	5	4
6	—	4.33	4	5	4
7	—	4.33	4	5	4
8	—	4.33	4	5	4
9	—	4.67	5	5	4
10	—	4.67	5	5	4
11	—	4.67	5	5	4
12	—	4.67	5	5	4
13	—	3.00	3	3	3
14	—	3.33	3	4	3
15	—	4.67	5	5	4
16	—	4.33	4	5	4
17	—	4.33	4	5	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

勉強の意欲は高いのだが、就職活動に引きずられて十分な勉強ができない状況の学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

国際税務を中心に企業への就職を意識した専門知識の習得とディスカッション力、文章表現力の醸成を図る。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

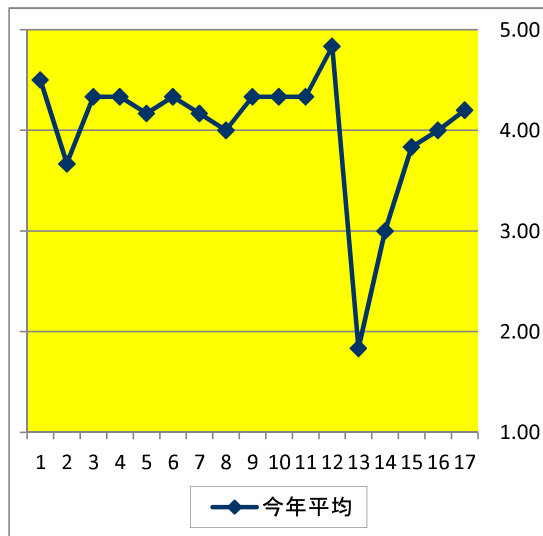
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

就職活動に影響されないよう、複数の担当者による発表を企画するようにしたい。

科 目	特殊講義（IFRS財務報告論）			
配当年次	1	開講時限	春水1	
受講者数	9	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.50	4・5	5	4
2	—	3.67	3	5	3
3	—	4.33	4	5	4
4	—	4.33	5	5	3
5	—	4.17	4	5	3
6	—	4.33	4	5	4
7	—	4.17	4	5	3
8	—	4.00	4	5	2
9	—	4.33	4	5	4
10	—	4.33	4	5	4
11	—	4.33	4	5	4
12	—	4.83	5	5	4
13	—	1.83	1	3	1
14	—	3.00	3	5	2
15	—	3.83	3	5	3
16	—	4.00	3・4・5	5	3
17	—	4.20	4	5	4
回答者数	—	6			



受講生の傾向

欠席・遅刻する受講生がほとんどおらず、熱心に受講していた。ただ、5人の講師によるリレー式の講義であったため、また、講師ひとりひとりの担当範囲が広範であったため、戸惑っている受講生が少なかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度は開講されていなかったため、昨年度の授業評価アンケートを踏まえることはできない。IFRSを様々な角度から講義し、一面的な理解とならないように講義を実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

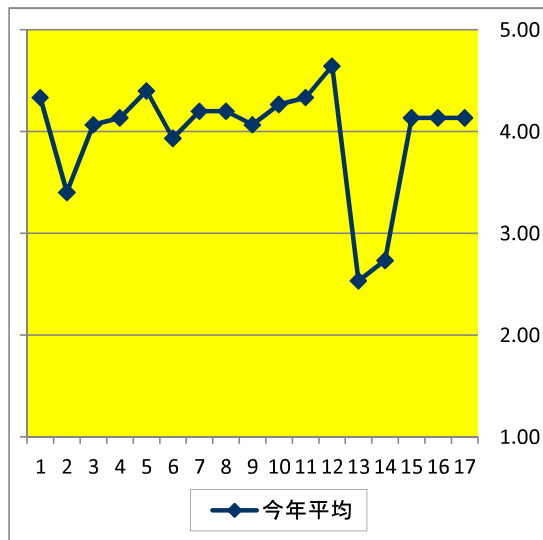
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

単年度開講のため、「今後の対応」は実施できないが、この講義に限らず、リレー形式で講義をする場合、全体の講義バランスや進度について、十分な配慮が必要であり、いくつかの課題が明確となったと思われる。今後、このような形式で講義が実施される場合に備え、教員全体で情報共有をはかりたい。

科 目	会計戦略論		
配当年次	2	開講時限	春火4
受講者数	16	回答者数	15

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.33	4	5	3
2	—	3.40	3	5	3
3	—	4.07	4	5	3
4	—	4.13	4	5	3
5	—	4.40	4・5	5	3
6	—	3.93	4	5	1
7	—	4.20	4	5	1
8	—	4.20	4・5	5	3
9	—	4.07	5	5	2
10	—	4.27	5	5	3
11	—	4.33	4	5	3
12	—	4.64	5	5	3
13	—	2.53	2	5	1
14	—	2.73	2・3	5	1
15	—	4.13	4	5	3
16	—	4.13	4	5	3
17	—	4.13	4	5	3
回答者数	—	15			



受講生の傾向

概ね出席率は高かったと思われる。ただ、就職活動の兼ね合いで、欠席する学生が少なからずいると感じられた。講義に対する姿勢も積極的で、質問や疑問などが多く寄せられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度に当該講義を担当していないので、昨年度の授業評価アンケートを踏まえて工夫したことや留意したことはない。講義は、できるだけ具体例や計算例を示し、受講生がイメージしやすいように努力した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

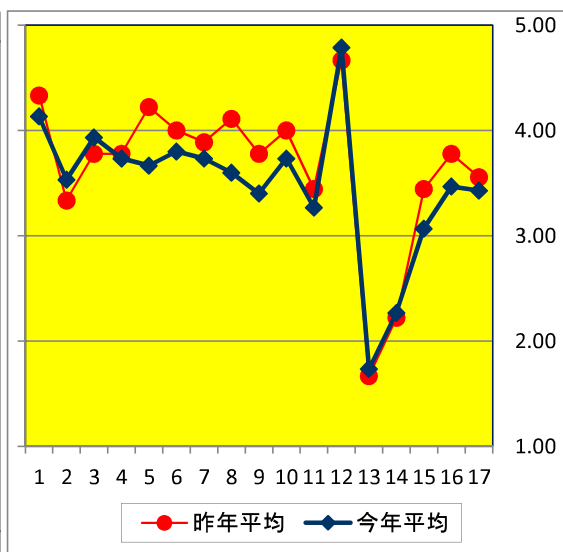
該当なし

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義の進度について、受講生は少し早いと感じているようである。おそらく、講義内容(企業行動)がイメージできないためであろうと考えられる。具体的で身近な例を増やし、早さを感じないように務めるつもりである。

科 目	無形資産会計論			
配当年次	2	開講時限	春火3	
受講者数	20	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.13	4	5	3
2	3.33	3.53	3	5	3
3	3.78	3.93	4	5	2
4	3.78	3.73	4	5	2
5	4.22	3.67	3	5	2
6	4.00	3.80	4	5	2
7	3.89	3.73	4	5	3
8	4.11	3.60	3	5	2
9	3.78	3.40	3	5	2
10	4.00	3.73	4	5	2
11	3.44	3.27	3	5	1
12	4.67	4.79	5	5	3
13	1.67	1.73	1	4	1
14	2.22	2.27	3	5	1
15	3.44	3.07	4	5	1
16	3.78	3.47	4	5	1
17	3.56	3.43	4	5	2
回答者数	9	15			



受講生の傾向

現状の理解と発展的な知識の習得に重点をおいたが、関心のある受講生と、そうではない受講生に分かれたような印象を受ける。熱心に勉強して試験でいつも高得点をとる受講生や、問題意識をもって講義をきく受講生もいた。しかし、一部の受講生は遅刻することが多く、講義中も寝ていたり携帯電話を操作しているなど、受講態度に問題があった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計基準等の原文をもとに内容を説明し、専門用語の意味や使い方も意識してもらうようにした。現行基準の概要を説明するだけでなく、歴史的な論争や基準設定の経緯、国際的な改定動向等を示すことで、現行基準に対する理解が深まるようにした。また、無形資産会計の将来的な展望を示すことで、受講生の興味関心を高めるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

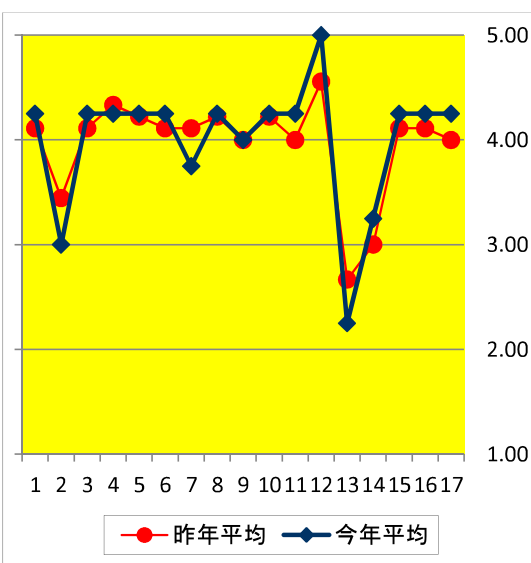
現行基準の改定動向に注視し、受講生に最新の講義内容を提供する。個別指導ではないので限界はあるが、専門用語を正しく使って論理を展開できるようにアドバイスしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

上記の対応を継続する。

科目	金融商品会計論			
配当年次	2	開講時限	春月4	
受講者数	6	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.11	4.25	5	5	3
2	3.44	3.00	3	3	3
3	4.11	4.25	5	5	3
4	4.33	4.25	5	5	3
5	4.22	4.25	5	5	3
6	4.11	4.25	5	5	3
7	4.11	3.75	3	5	3
8	4.22	4.25	5	5	3
9	4.00	4.00	3・5	5	3
10	4.22	4.25	5	5	3
11	4.00	4.25	5	5	3
12	4.56	5.00	5	5	5
13	2.67	2.25	1	5	1
14	3.00	3.25	1・3・4・5	5	1
15	4.11	4.25	5	5	3
16	4.11	4.25	5	5	3
17	4.00	4.25	5	5	3
回答者数	9	5			



受講生の傾向

全体として、学習態度、学習満足度、講義への評価が高くなっている。昨年度低かったことにもよる。一昨年度並みに戻ったということかもしれない。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は受講生の数も少ないので、昨年度効果がでにくかった方法（一昨年度は好評の方法）でも受け入れられたようである。金融商品はとりわけ商品特性を理解しないと意味がないので、この点に重点を置いたのである。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

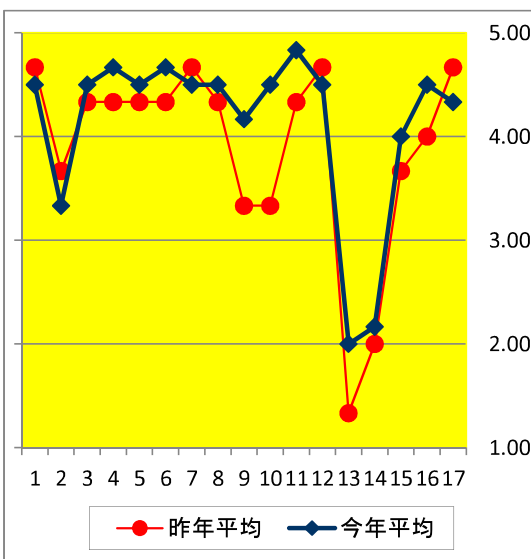
少人数による効果が出るように工夫するため、予習か復習を強制する仕組みを導入する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後も、少人数による効果が出るように工夫するため、予習か復習を強制する仕組みを導入する。

科目	保証業務論			
配当年次	2	開講時限	春水1	
受講者数	7	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.50	4・5	5	4
2	3.67	3.33	3	4	3
3	4.33	4.50	4・5	5	4
4	4.33	4.67	5	5	4
5	4.33	4.50	4・5	5	4
6	4.33	4.67	5	5	4
7	4.67	4.50	4・5	5	4
8	4.33	4.50	4・5	5	4
9	3.33	4.17	4	5	4
10	3.33	4.50	4・5	5	4
11	4.33	4.83	5	5	4
12	4.67	4.50	4・5	5	4
13	1.33	2.00	2	3	1
14	2.00	2.17	2	3	2
15	3.67	4.00	4	5	3
16	4.00	4.50	4・5	5	4
17	4.67	4.33	4	5	4
回答者数	3	6			



受講生の傾向

本科目は、基本科目の「監査制度論」とその他の監査系科目を履修した学生を前提に配置された応用科目であり、監査に対するモラルの高い学生が集まっていることから、配当時限が水曜1限であるにもかかわらず出席率が80%を超えている(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本講義では、わが国の保証業務に関する基準の他、アメリカの基準及び国際監査基準に基づいた保証業務の枠組みや内容を理解することを目的として、前半は座学による講義スタイルを採り、後半は、前半においてなされたはずの保証業務に関する理解度を確認するため、受講生自らが想定する「保証業務の提案」をパワーポイント及び提案書の形で、他の受講生に対してプレゼンテーションをさせ、自らが提案する当該保証業務の魅力を説かせるようにした。他の受講生には、当該受講生が行なったプレゼンテーションと提案書の内容について、5点スケールで幾つかの項目ごとに相互評価させた。

この際の評価方法が直感や単なる印象に終わらないように、予め6つの項目(情報収集の程度や情報分析の程度等)について個別に評価させるとともに、報告者のプレゼンについて修正すべき内容を自由記述させた。報告者には、事後的に当該修正すべき内容のリストを手渡し、将来におけるプレゼン能力の向上を期待した。

最終的に当該業務に関する提案書をレポートの形で提出させ、それを含めて評価した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

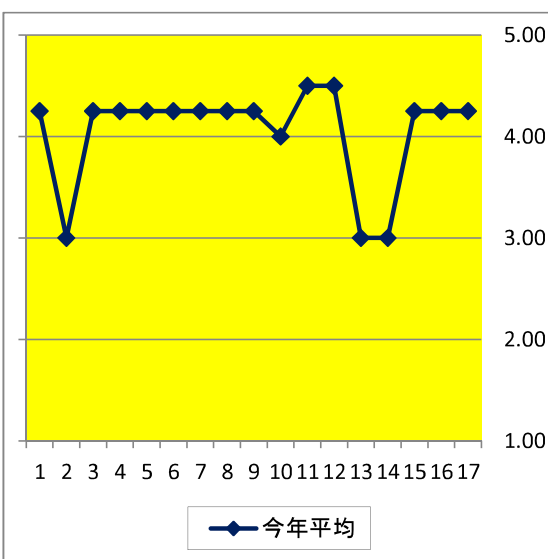
昨年度に続き1限に配置されたことで、応用科目という科目の性質上、極めて少数となっている。時間割上、年度間で連続して1限に配当することについて、一定の配慮が必要と考えられる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

時間割編成に当たっての配慮を今後とも行なう必要がある。

科 目	国際財務戦略論			
配当年次	2	開講時限	春木4	
受講者数	8	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.25	4	5	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	4.25	4	5	4
4	—	4.25	4	5	4
5	—	4.25	4	5	4
6	—	4.25	4	5	4
7	—	4.25	4	5	4
8	—	4.25	4	5	4
9	—	4.25	4	5	4
10	—	4.00	4	5	3
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.50	5	5	3
13	—	3.00	2	5	2
14	—	3.00	2	5	2
15	—	4.25	4	5	4
16	—	4.25	4	5	4
17	—	4.25	4	5	4
回答者数	—	4			



受講生の傾向

国際的な財務戦略について勉強したいという意欲の高い学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

前回は不開講であったが、前々回のアンケート等を踏まえて、専門用語の解説を充実させるとともに、説明における事例を最新で分かりやすものにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

該当なし(昨年度不開講)

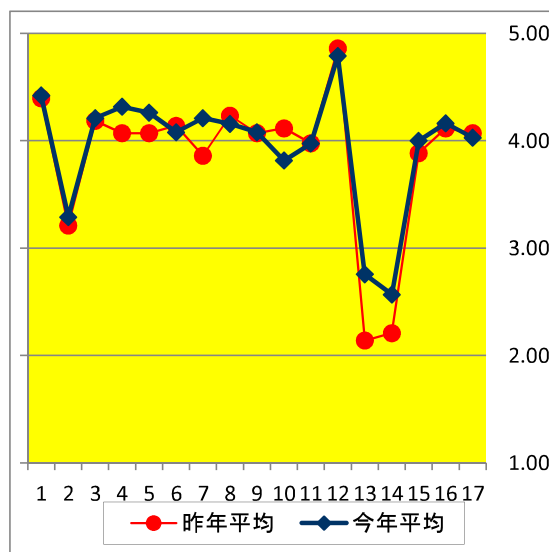
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

国際的な財務戦略について、非常に範囲が広いので、それを網羅的に教えるのではなく、状況に応じて、授業の範囲を絞ることも検討したい。また、学生の発表の機会を作りたい。

Ⅱ－(2)．2012 年度授業評価アンケート(秋学期)結果概要

科 目	会計専門職業倫理(B)			
配当年次	2	開講時限	秋月3	
受講者数	42	回答者数	38	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.42	5	5	3
2	3.21	3.29	3	5	3
3	4.19	4.21	4	5	2
4	4.07	4.32	5	5	3
5	4.07	4.26	5	5	2
6	4.14	4.08	4	5	2
7	3.86	4.21	4	5	2
8	4.23	4.16	5	5	2
9	4.07	4.08	5	5	2
10	4.12	3.82	4	5	1
11	3.98	3.97	4	5	2
12	4.86	4.79	5	5	2
13	2.14	2.76	3	5	1
14	2.21	2.57	3	5	1
15	3.88	4.00	4	5	2
16	4.12	4.16	4・5	5	2
17	4.07	4.03	4	5	2
回答者数	43	38			



受講生の傾向

本年は、42名が秋学期に集中して受講することとなったが、授業は特に問題なく進行した。受講生のアンケートも昨年と概ね同じ結果であり、概ね満足のいくものがあったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

コミュニケーションの機会を増やし、発言者が偏らないようにした。また班編成も留年生が偏らないように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

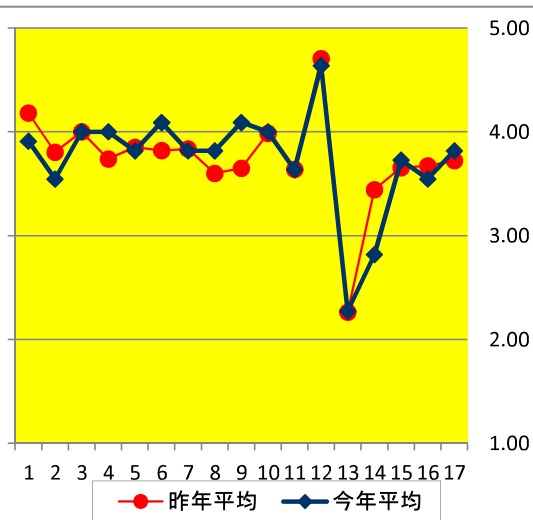
受講生との対話を重要視し、進んで参加したくなるような授業内容となるよう工夫したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生が減ることが予想されるため、授業実施方法等を変更する必要があると考えられる。引き続き受講生との対話を重視しながら、授業内容に理論的な内容を増やし充実させていきたい。

科 目	上級簿記(B)		
配当年次	1	開講時限	秋木2
受講者数	16	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.18	3.91	4	5	2
2	3.80	3.55	3	5	3
3	4.00	4.00	4	5	2
4	3.74	4.00	4	5	3
5	3.85	3.82	4	5	2
6	3.82	4.09	4	5	3
7	3.84	3.82	4	5	2
8	3.60	3.82	4	5	2
9	3.65	4.09	4	5	3
10	3.98	4.00	4	5	3
11	3.64	3.64	4	5	1
12	4.70	4.64	5	5	4
13	2.26	2.27	1・3	5	1
14	3.44	2.82	3	5	1
15	3.66	3.73	4	5	1
16	3.67	3.55	4	5	1
17	3.72	3.82	4	5	1
回答者数	61	11			



受講生の傾向

受講生は、過年度(今年度の春学期を含む)の単位不認定者である。なかには、仕訳の基本原理や財務諸表の基本様式について、習熟度に問題がある受講生もいた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この講義は、以前に単位不認定となった学生を主な対象とするものであり、受講生にとって初めて目にする内容ではない。そのことをある程度前提として、受講生のレベルに見合った講義展開を心がけた。とくに、より基本的な事項を優先的に理解してもらうようにした。基本中の基本となる問題を講義中に解いてもらい、一人ずつ個別に理解を確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

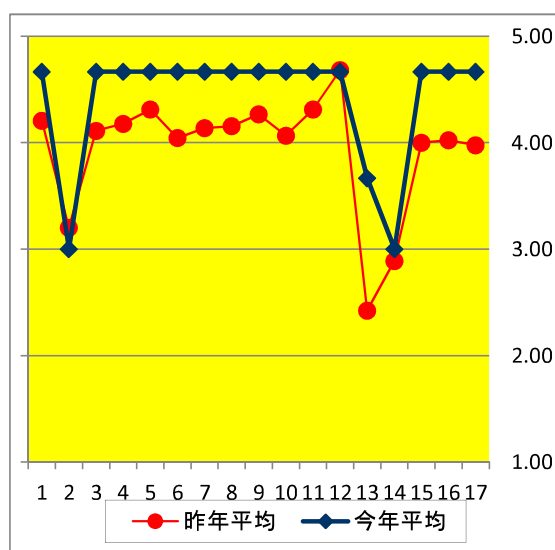
会計基準等の原文を参照して勉強するように指導する。取引の仕訳から財務諸表の作成までを一連の手続として捉えて学習するように指導する。講義で取り扱う論点を増やしたこともあって、問題演習の時間を適切に確保できないことがあった。要領よく説明するように工夫する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生は以前に単位不認定となった学生であり、講義の内容も受講生が初めて目にするものではない。そのことをある程度前提として、今年度の講義を工夫したところ、よい感触を得た。次年度も継続することにしたい。

科 目	上級財務会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火2	
受講者数	7	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.67	5	5	4
2	3.20	3.00	3	3	3
3	4.11	4.67	5	5	4
4	4.18	4.67	5	5	4
5	4.31	4.67	5	5	4
6	4.04	4.67	5	5	4
7	4.14	4.67	5	5	4
8	4.16	4.67	5	5	4
9	4.27	4.67	5	5	4
10	4.07	4.67	5	5	4
11	4.31	4.67	5	5	4
12	4.68	4.67	5	5	4
13	2.42	3.67	3	5	3
14	2.89	3.00	1・3・5	5	1
15	4.00	4.67	5	5	4
16	4.02	4.67	5	5	4
17	3.98	4.67	5	5	4
回答者数	45	3			



受講生の傾向

受講生が少人数であったせいか、一部の受講生を除き、欠席や遅刻する受講生がおらず、熱心に受講していたように思われる。質問番号13/14から判断すると予習・復習に充てる時間が、昨年度より増加しているように思える。とくに、予習時間が増加しており、今年度実施した工夫が功を奏したと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

予習・復習の時間が短いため、講義レジュメに次回講義内容を明記し、講義冒頭で行う小テストには、予習問題を含めて行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

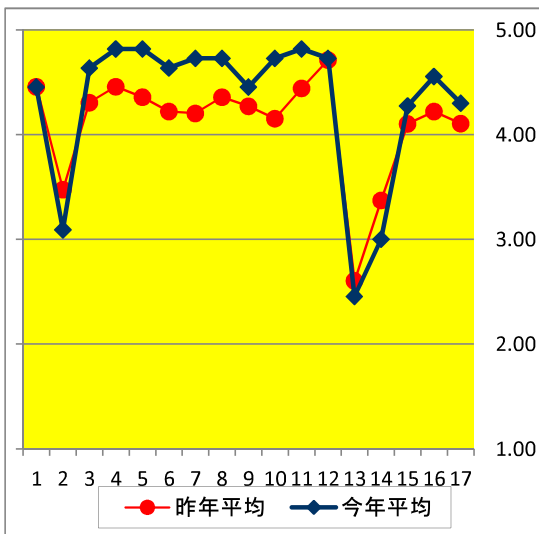
予習・復習の時間が短いことから、講義時間外での学習を促すような課題や小テストといった方策を講じる必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

アンケート結果の多くの項目の平均値が「5」であることから、アンケート結果の信憑性に疑いがもたれるが、予習時間が増加したことは、事実であろう。そのため、予習すべき箇所の明記と予習問題を行うことを継続し、予習・復習の時間がより多くなるよう策を講じる。

科目	上級原価計算論(B)		
配当年次	1	開講時限	秋月3
受講者数	15	回答者数	11

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.46	4.45	5	5	2
2	3.47	3.09	3	5	2
3	4.31	4.64	5	5	4
4	4.46	4.82	5	5	4
5	4.36	4.82	5	5	4
6	4.22	4.64	5	5	4
7	4.20	4.73	5	5	4
8	4.36	4.73	5	5	4
9	4.27	4.45	5	5	3
10	4.15	4.73	5	5	4
11	4.44	4.82	5	5	4
12	4.71	4.73	5	5	4
13	2.60	2.45	3	5	1
14	3.37	3.00	2	5	2
15	4.10	4.27	5	5	2
16	4.22	4.56	5	5	3
17	4.11	4.30	4	5	3
回答者数	59	11			



受講生の傾向

このクラスの学生は、原価計算に対して苦手意識をもつものがほとんどであった。そのため、学生間の習熟度の差がそれほど大きくなく、多様なニーズを無理に組み込む必要性が低かったことから、基本的な論点からスタートしてじっくり授業を実施した。その結果、学生の授業に対する満足度は昨年に比べて概ね好評価になっていると考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

原価計算が苦手な学生が多かったため、昨年度よりも基本的な論点に重点を置いて授業を実施した。その理由は、原価計算の最初の論点である費目別計算(材料費会計、労務費会計、経費会計)を十分に理解していなければ、その後の部門別計算や製品別計算がどのような意味を持つのか理解できないためである。そのため、このクラスでは、基本的な論点の理解にかなりの時間を割り当てることとなった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

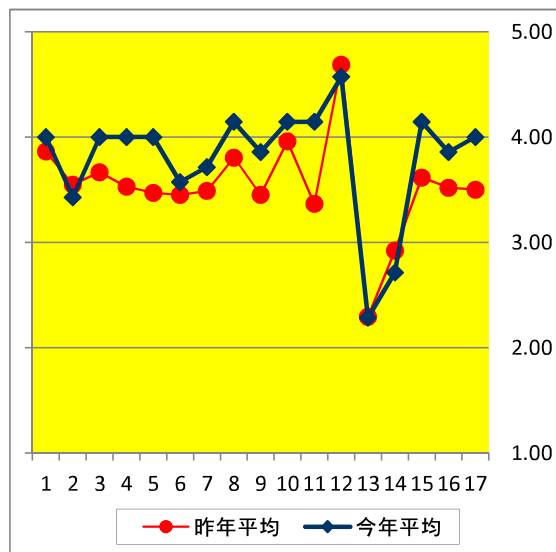
学生間の習熟度の差の拡大を考慮し、一つの授業をいくつかのパートに分けて、それぞれのパートで「初級」、「中級」、「上級」の論点についてレクチャーしていくことを計画している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

対象となる学生の習熟度に大きな差が見られない場合、特定の水準に焦点を絞って授業を組み立てた方が学生の授業の満足度が高くなることが理解できた。それゆえ、今回のクラスと同様のケースの場合には、原価計算の基本的な論点に重点を置いて授業を組み立てることにしたい。

科目	上級管理会計論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋金2	
受講者数	12	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.86	4.00	4	5	3
2	3.55	3.43	3	5	2
3	3.67	4.00	4	5	3
4	3.53	4.00	4	5	3
5	3.47	4.00	4	4	4
6	3.45	3.57	4	4	3
7	3.49	3.71	3・4	5	3
8	3.80	4.14	4	5	4
9	3.45	3.86	4	5	3
10	3.96	4.14	4	5	3
11	3.37	4.14	4	5	3
12	4.69	4.57	5	5	4
13	2.29	2.29	1・3	4	1
14	2.92	2.71	3	4	1
15	3.62	4.14	4	5	4
16	3.52	3.86	4	5	2
17	3.50	4.00	4	5	2
回答者数	52	7			



受講生の傾向

必修科目の再履修という講義の性格から、受講態度は総じてまじめであった。ただし、出席率が低く真剣さに欠ける受講生も一部見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義の全般にわたって、受講生に丁寧に講義することを心がけた。特に、理解の十分ではない学生に対しては、積極的にフォローすることを心がけた。これらの点が評価の改善に寄与したと考えられる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

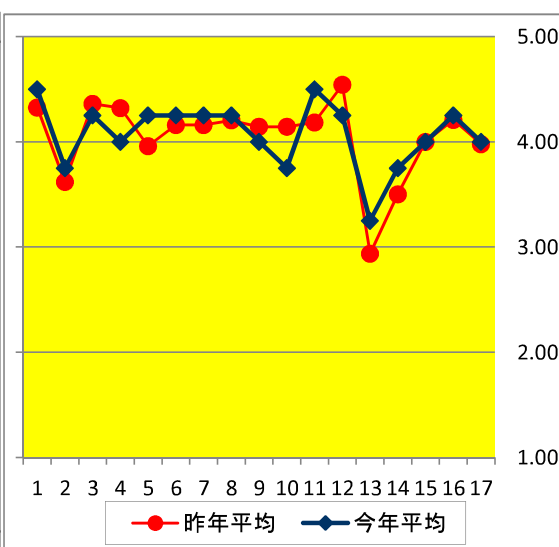
授業評価アンケートを通じて、全般的な改善の必要性を感じた。特に理解の十分ではない学生に対するフォローの必要性があると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度に比べて全般的な改善が見られたとはいえ、今後も検討の余地が残されている項目が複数あるため、さらに工夫を行うつもりである。特に、再履修科目であるにもかかわらず予習および復習の時間が十分ではない点については、意識付けをさらに行う必要性が高いと考えている。

科目	監査制度論(B)			
配当年次	1	開講時限	秋火3	
受講者数	7	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.33	4.50	4・5	5	4
2	3.62	3.75	3	5	3
3	4.36	4.25	5	5	3
4	4.32	4.00	3・5	5	3
5	3.96	4.25	5	5	3
6	4.16	4.25	5	5	3
7	4.16	4.25	5	5	3
8	4.20	4.25	5	5	3
9	4.14	4.00	3・5	5	3
10	4.14	3.75	5	5	2
11	4.18	4.50	4・5	5	4
12	4.54	4.25	5	5	3
13	2.94	3.25	3	5	2
14	3.50	3.75	5	5	2
15	4.00	4.00	3・5	5	3
16	4.21	4.25	5	5	3
17	3.98	4.00	3・4・5	5	3
回答者数	50	4			



受講生の傾向

基本科目(必修科目)群に属するという関係上、受講生の出席率(項目12)は高く80%以上となっており、前期と同様に勉学に対する意欲は相対的に高いように解される。

上記アンケート結果より、授業に対する予習時間(項目13)も昨年度より若干の増加し、また復習時間も若干の増加が見られる(項目14)。受講生のモラルは、例年と同程度と捉えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度は、会計士協会による実務指針の大幅改正があったため、当該資料を協会から取り寄せ全員に配布した。また改正箇所などについて追加的なパワーポイントによるスライドを用意し、監査制度に関する重要論点を確実に講義の中で押さえるようにした。スライドの最後には、従来通り受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するための参考文献を列挙した。これら配布用の資料は、関西大学インフォメーション・システムに授業当日中にアップロードし、WEB配信を前提とした学生の復習に役立つように配慮した。

授業が2回終了するごとに、前2回分の理解度を確認するためのとともに、復習を動機付けるために小テストを授業時間の最初15分程度で実施し、添削後、返却した。また優秀答案を指名を伏せた上で全員に配布し解説を加えた。最終的に、小テスト実施→添削→返却(講評)を繰り返すことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるように、去年以上に心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

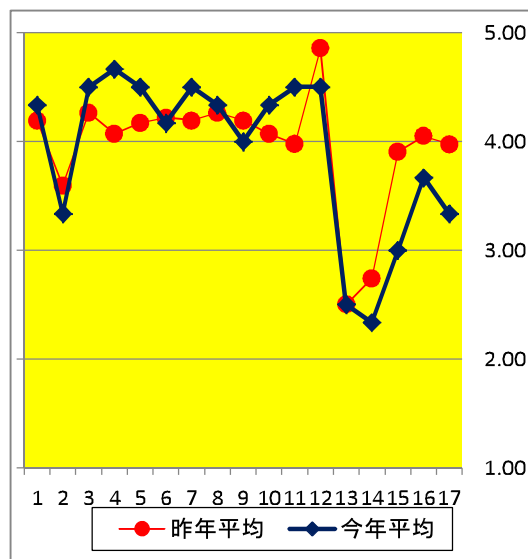
復習課題の強制提出ではなく、希望者からの提出を受け付け再添削とコメントを行なった。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

復習課題の任意提出は、秋学期は全くなかった。この原因としては、秋学期開講のクラスB履修学生が一桁と相対的に少ないため、それに対応した措置が今後必要になると思われる。

科目	監査基準(B)			
配当年次	1	開講時限	秋水2	
受講者数	8	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.19	4.33	5	5	3
2	3.60	3.33	3	4	3
3	4.26	4.50	5	5	3
4	4.07	4.67	5	5	4
5	4.17	4.50	4・5	5	4
6	4.21	4.17	5	5	3
7	4.19	4.50	4・5	5	3
8	4.26	4.33	5	5	3
9	4.19	4.00	3・5	5	3
10	4.07	4.33	5	5	3
11	3.98	4.50	5	5	3
12	4.86	4.50	5	5	3
13	2.50	2.50	1・3	5	1
14	2.74	2.33	1	5	1
15	3.90	3.00	3	5	1
16	4.05	3.67	4・5	5	1
17	3.97	3.33	3・4	5	1
回答者数	42	6			



受講生の傾向

受講生の人数が少なく(8人)、このうち2人は春学期の不合格者で2人は公認会計士試験の合格者ということで、レベル感がつかみにくいところがあった。考査の答案をみると基本的なところが書けていないところも見受けられた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(授業担任者変更)

今後の対応

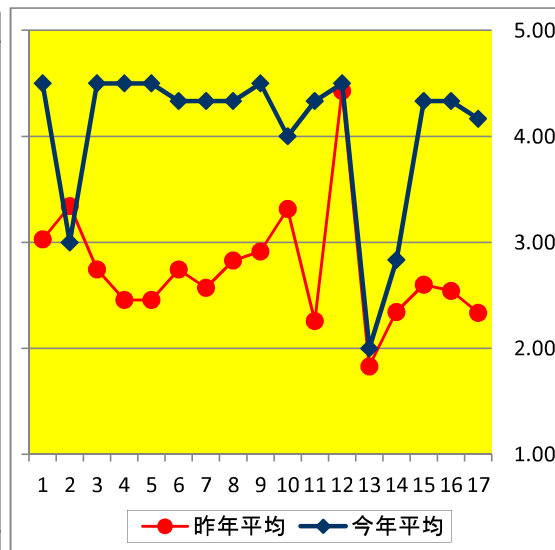
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義にあたっては、ポイントを整理して、理解すべき事項を体系的に示すことに重点を置きたい。受講生の理解度を把握しながら講義をすすめられるような工夫をしたい。

科目	企業法(B)			
配当年次	1	開講時限	秋月2	
受講者数	8	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.03	4.50	4・5	5	4
2	3.34	3.00	3	4	2
3	2.74	4.50	4・5	5	4
4	2.46	4.50	4・5	5	4
5	2.46	4.50	4・5	5	4
6	2.74	4.33	4	5	4
7	2.57	4.33	4	5	4
8	2.83	4.33	4	5	4
9	2.91	4.50	4・5	5	4
10	3.31	4.00	4	5	3
11	2.26	4.33	4	5	4
12	4.43	4.50	4・5	5	4
13	1.83	2.00	1	5	1
14	2.34	2.83	3	5	1
15	2.60	4.33	4	5	4
16	2.54	4.33	4	5	4
17	2.33	4.17	4	5	3
回答者数	35	6			



受講生の傾向

この科目は、春学期開講の企業法の再履修としての位置づけであるから、企業法が理解できていなかった学生が前提となる。しかし、基本的にはまじめな学生が多く、出席や授業態度は良好であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

再履修であることを考慮して、学生との対話をできるだけ増やし、どこが理解できなかったのかまたは難しかったかなど、把握するように努めた。また、企業法という科目は、法的な説得力を持った文章を作成する必要がある、むしろこの点を苦手とする学生が多かったので、文章作成の練習をできるだけ多く行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

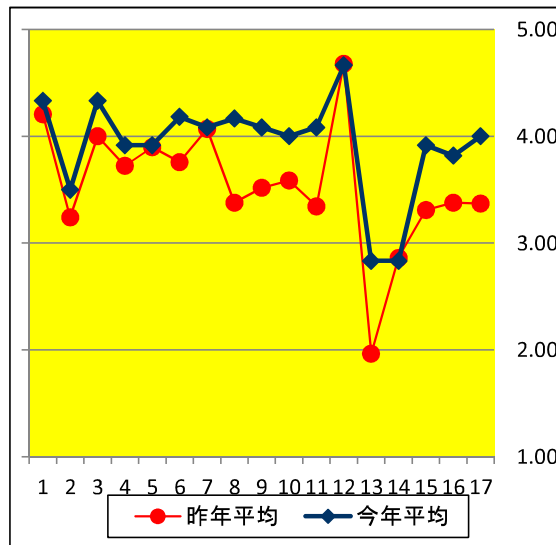
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

対話および文章作成練習を多く取り込むことによって、学生の論理的な思考能力を養うことができるし、さらにそれを表現する能力も鍛えることができると考えられるので、今後は、よりいっそう対話のおよび文章作成の機会を増やしていきたい。

科 目	財表作成簿記			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	15	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.21	4.33	4	5	4
2	3.24	3.50	3	5	3
3	4.00	4.33	4	5	4
4	3.72	3.92	4	5	3
5	3.90	3.92	4	5	2
6	3.76	4.18	4	5	3
7	4.07	4.08	4	5	3
8	3.38	4.17	4	5	3
9	3.52	4.08	4	5	3
10	3.59	4.00	4	5	3
11	3.34	4.08	4	5	3
12	4.68	4.67	5	5	3
13	1.97	2.83	3	4	1
14	2.86	2.83	3	5	1
15	3.31	3.92	4	5	1
16	3.38	3.82	3	5	3
17	3.37	4.00	4	5	3
回答者数	29	12			



受講生の傾向

席が近い受講生どおしで疑問点を解消し合ったり、分からない部分は講義中に質問するなど、積極的な受講生が多かった。とくに、連結財務諸表を作成する場面になると、計算問題としては解けるが、仕訳として示すことは難しい様子であった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度と同様に、パワーポイントと確認問題を配布して、講義内容の理解と復習を促した。講義中の説明は、テクニカルな解法ではなく、簿記一巡の手続や原理・原則に従って説明することを心がけた。今年度は新たに、基本例題を講義中に配布して解いてもらい、一人ずつ個別に理解を確認して回った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

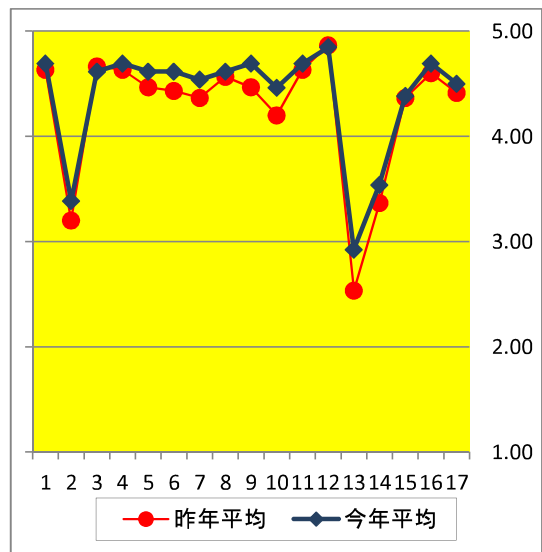
仕訳の意味と財務諸表の作成手順をしっかりと学習するように指導する。講義で取り扱う論点を増やしたこともあって、問題演習の時間を適切に確保できないことがあった。要領よく説明するように工夫する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

問題演習の時間は、基本例題を中心に解いてもらい、確認問題は宿題とすることが多かった。受講人数が少ないこともあって、問題演習の時間は一人ずつ個別に対応することができ、よい感触を得た。次年度も継続することにしたい。

科目	戦略管理会計論			
配当年次	1	開講時限	秋金3	
受講者数	16	回答者数	13	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.63	4.69	5	5	4
2	3.20	3.38	3	5	3
3	4.67	4.62	5	5	4
4	4.63	4.69	5	5	4
5	4.47	4.62	5	5	4
6	4.43	4.62	5	5	4
7	4.37	4.54	5	5	4
8	4.57	4.62	5	5	4
9	4.47	4.69	5	5	3
10	4.20	4.46	4	5	4
11	4.63	4.69	5	5	4
12	4.87	4.85	5	5	4
13	2.53	2.92	2	5	1
14	3.37	3.54	4	5	2
15	4.37	4.38	5	5	3
16	4.60	4.69	5	5	4
17	4.41	4.50	4・5	5	4
回答者数	31	13			



受講生の傾向

昨年よりも受講生が少なく、管理会計に対して知識を持つ学生の割合が相対的に多かったことから、学習意欲のある学生に限定されていた。そのため、クラスの運営は、例年よりもスムーズであったと思われる。また、授業中に指示する文献を丹念に復習する学生もいくつか見受けられたことから、管理会計と戦略とのかわりについて深く学びたいという意欲が伝わるが多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

このクラスでは、授業中に管理会計のツール(ABC、BSC、原価企画、MPCS、TOCなど)を数多く紹介するため、学生が混乱することも想定される。そこで、それぞれのツールの重要なポイントを端的に指摘し、このツールはどのような状況で利用されることを前提としているのかを概説し、そのツールの貢献と限界についてできる限り平易に説明することを心がけた。また、授業中に指示する文献のポイントを前もっていくつか指摘するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

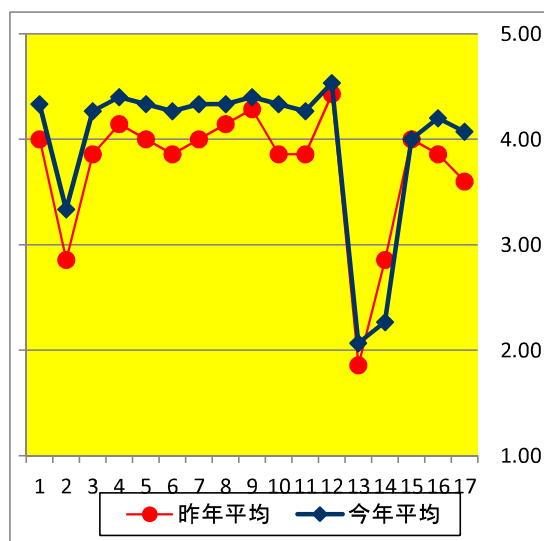
文献などで各項目が概括的に記述されていることが多いことや、文献そのものを読むことに慣れていない学生が多いことから、それぞれの項目について何が重要か(ポイントは何か)ということを絞り、中心となるポイントから派生させる形で授業を組み立て、それに基づいて実施した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年と比べて管理会計に対して知識を持つ学生の割合が相対的に多かったにもかかわらず、昨年度と同様におおむね良好な評価であったことから、授業において学習する種々の管理会計ツールや、そこで指示する文献について、前もってポイントをいくつか指摘するように心がけたい。

科 目	租税法会計論			
配当年次	1	開講時限	秋火1	
受講者数	18	回答者数	15	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.33	4	5	4
2	2.86	3.33	3	5	3
3	3.86	4.27	4	5	4
4	4.14	4.40	4	5	4
5	4.00	4.33	4	5	4
6	3.86	4.27	4	5	4
7	4.00	4.33	4	5	4
8	4.14	4.33	4	5	4
9	4.29	4.40	4	5	4
10	3.86	4.33	4	5	3
11	3.86	4.27	4	5	3
12	4.43	4.53	5	5	4
13	1.86	2.07	2	4	1
14	2.86	2.27	2	4	1
15	4.00	4.00	3・4・5	5	3
16	3.86	4.20	4	5	3
17	3.60	4.07	4	5	2
回答者数	7	15			



受講生の傾向

前年度に比べ、受講生の予習時間は増加したが(質問No.13)、復習時間は減少した(質問No.14)。これは、第1回講義で、テキストの該当ページ、及び、小テストのスケジュール等を受講生に告知した結果、今年度の受講生は予習にウエイトを置いて対応した結果と思われる。印象として、今年度の受講生は税額計算のうち、消費税法に強い関心をもって学習しているようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

課題レポートを課す代わりに、毎回配布するレジュメに過去の公認会計士試験で出題された問題をアレンジした問題を数多く列挙し、講義内に解答させるようにした。また、講義に使用するテキストについては、理論と計算の2冊を併用し、主に計算テキストは、受講生の自宅学習用として利用するよう指導した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

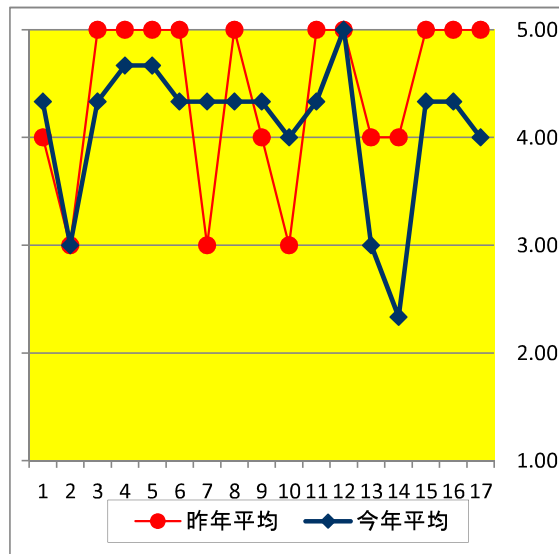
講義の進度を上げるために、受講生の自宅学習時間を増やす必要がある。その方法の1つとして、課題レポートを提出させることを検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

税務会計の全体の学習範囲として、この2年間、法人税法と消費税法のみを取り扱ってきた。しかし、直近の公認会計士試験をみると、一定レベルの所得税法の問題が課されるようになってきている。そこで、春学期開講の「上級税務会計論」と連係させて、これら三法をまんべんなく学習できるよう、学習範囲及び科目間の分担範囲を見直す。「上級税務会計論」は法人税法を、「租税法会計論」は所得税法と消費税法を取り扱う。

科 目	公会計理論			
配当年次	1	開講時限	秋木4	
受講者数	7	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.33	5	5	3
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	4.33	5	5	3
4	5.00	4.67	5	5	4
5	5.00	4.67	5	5	4
6	5.00	4.33	5	5	3
7	3.00	4.33	5	5	3
8	5.00	4.33	5	5	3
9	4.00	4.33	5	5	3
10	3.00	4.00	5	5	2
11	5.00	4.33	5	5	3
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	3.00	1・3・5	5	1
14	4.00	2.33	3	3	1
15	5.00	4.33	5	5	3
16	5.00	4.33	5	5	3
17	5.00	4.00	3・5	5	3
回答者数	1	3			



受講生の傾向

優秀な学生が多く、資料や発表についてレベルが高いものが提出された。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

内地研修に伴う本年だけの担当であり、前年度を踏まえるのではなく、独自の方法で行った。具体的には、教科書を章ごとに担当者を決め、レジュメ、発表、ディスカッションを行わせて、最後に解説を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

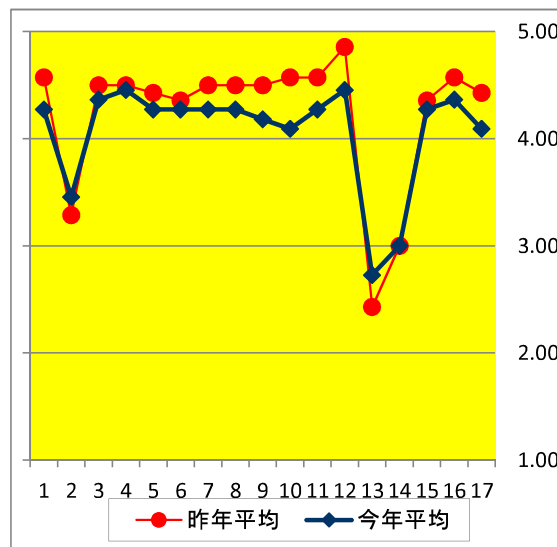
例年、受講者が多くないので、このところの講義方式を踏襲する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今期だけの担当であり、従前の例に従えば良いと思う。

科目	監査報告論			
配当年次	1	開講時限	秋金1	
受講者数	14	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.57	4.27	4	5	3
2	3.29	3.45	3	5	3
3	4.50	4.36	4・5	5	3
4	4.50	4.45	5	5	3
5	4.43	4.27	4	5	4
6	4.36	4.27	4	5	3
7	4.50	4.27	4	5	3
8	4.50	4.27	4	5	3
9	4.50	4.18	4	5	3
10	4.57	4.09	4	5	2
11	4.57	4.27	4	5	4
12	4.86	4.45	5	5	3
13	2.43	2.73	1	5	1
14	3.00	3.00	1・3・5	5	1
15	4.36	4.27	4	5	4
16	4.57	4.36	4・5	5	3
17	4.43	4.09	4	5	3
回答者数	14	11			



受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況(項目12)は平均85%以上を確保しており、極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも去年に比べて相対的に高くなっている。しかし、公認会計士試験に直接関係する重要科目であるにもかかわらず、受講者数が減少している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度も監査基準及び実務指針の改訂があったため、昨年以上に、毎回、パワーポイントによるスライドを追加的に用意・配布するとともに、必要に応じて各種の基準・実務指針・意見書等を配布した。またスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列挙した。さらにこれら配付資料の全ては、授業当日中に関西大学インフォメーション・システムにアップロードし、WEB配信を前提とした復習に役立つよう配慮した。

前回の理解度を確認するための小テストを授業時間の最初に15分程度で実施し、添削して返却した。また成績優秀者数名の答案を氏名と学生番号を伏せた上で、コピーし全員に配布した。さらに返却時に講評を行なうことで、各自にエッセイの書き方(重要論点の抽出と一貫した論旨の展開)を習得できるよう心懸けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

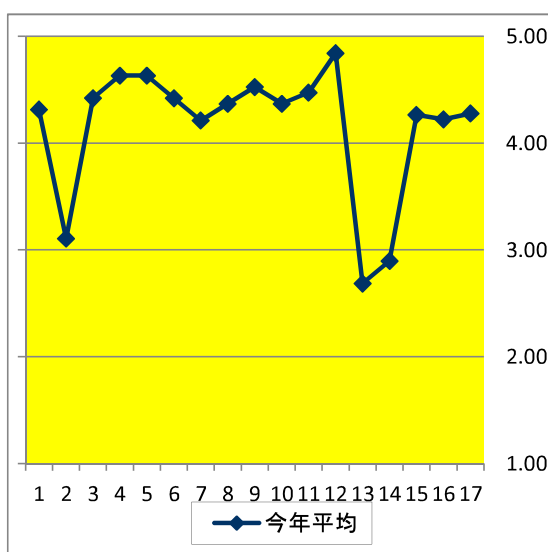
公認会計士試験にとって重要科目であるため、今年度のように金曜1限に配置することが受講生の履修選択にどのように影響したかを把握した上で、一定の見直しが必要と思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の履修動向を反映する配当年限及び小テストの実施方法を改善する。

科目	中級会社法			
配当年次	1	開講時限	秋月4	
受講者数	28	回答者数	19	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.32	4	5	4
2	—	3.11	3	5	2
3	—	4.42	4	5	4
4	—	4.63	5	5	4
5	—	4.63	5	5	4
6	—	4.42	4・5	5	3
7	—	4.21	4	5	2
8	—	4.37	4	5	3
9	—	4.53	5	5	4
10	—	4.37	4・5	5	2
11	—	4.47	4	5	4
12	—	4.84	5	5	4
13	—	2.68	1・2	5	1
14	—	2.89	2	5	1
15	—	4.26	4	5	3
16	—	4.22	4	5	3
17	—	4.28	4	5	3
回答者数	—	19			



受講生の傾向

基本科目である企業法とは異なり、発展科目ではあるが受講生が比較的多かった。公認会計士試験を意識していることがうかがえる。ただし、学生の学習意欲および理解度にはばらつきが見られた。ほとんどの学生は毎回出席し熱心かつまじめに授業に取り組んでいたが、一部は休みがちで必ずしも熱心とはいえなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

この授業は、1年春学期の「企業法」から発展する科目であり、かつ2年春学期の「上級会社法」へと続く科目である。よって、それらの連続性を意識した授業を行った。企業法の復習を簡単に行い、そこから発展する内容に重点を移して学習する。さらに、深く追求する点ないし難易度の高い点については、あえてここでは扱わずに「上級会社法」で学習する旨を告げて、これら複数の科目を段階的に有機的に結合させることを心がけた。

今後の対応

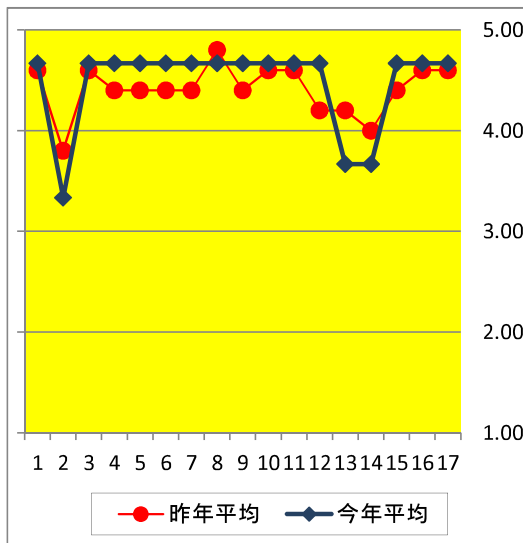
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学生の理解度を見る限りにおいては、中級会社法はやや難しいようである。2年次に上級会社法という授業があることを配慮して、中級会社法では理解が中途半端にならないよう、もう少し基本的な部分を重点に取り扱いたいと思う。企業法で学習したことを定着させ、さらに会社法に関する一通りの重要な点について理解させるよう心がけたい。

科 目	コーポレート・ファイナンス論			
配当年次	1	開講時限	秋金3	
受講者数	8	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.67	5	5	4
2	3.80	3.33	3	4	3
3	4.60	4.67	5	5	4
4	4.40	4.67	5	5	4
5	4.40	4.67	5	5	4
6	4.40	4.67	5	5	4
7	4.40	4.67	5	5	4
8	4.80	4.67	5	5	4
9	4.40	4.67	5	5	4
10	4.60	4.67	5	5	4
11	4.60	4.67	5	5	4
12	4.20	4.67	5	5	4
13	4.20	3.67	2・4・5	5	2
14	4.00	3.67	2・4・5	5	2
15	4.40	4.67	5	5	4
16	4.60	4.67	5	5	4
17	4.60	4.67	5	5	4
回答者数	6	3			



受講生の傾向

ファイナンスの勉強に対する意欲が高く、前向きな学生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

体系的な学習と成功体験を付けてもらうべく、講義と並行して、「証券アナリスト基礎講座」の学習と資格取得を従容した。その結果、実質的な受講者全員が試験に合格した。このことは、体系的な学習を進めることと成功体験に基づく、学習意欲を高めることに成功したのではないかと思う。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

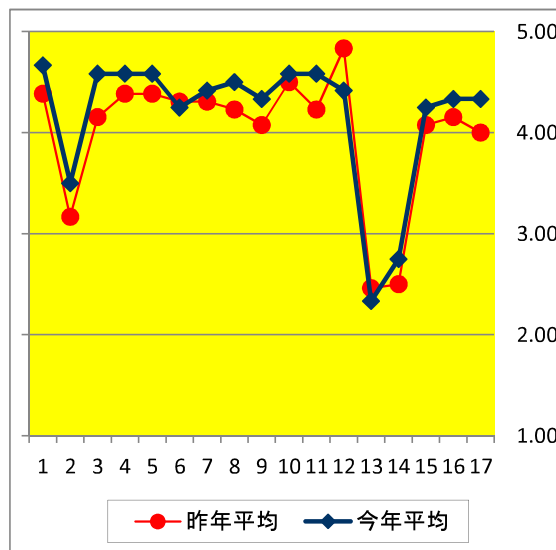
当科目はファイナンス科目であり、基本的に数学が必要である。しかし、受講生には数学が得意な学生も苦手な学生もいるため、数学が苦手な学生には考え方を教授する等、学生の資質を見ながら対応したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

当科目はファイナンス科目であり、基本的に数学が必要である。しかし、受講生には数学が得意な学生も苦手な学生もいるため、数学が苦手な学生には考え方を教授する等、学生の資質を見ながら対応したい。さらに、「証券アナリスト基礎講座」の受講と資格取得を勧めて、体系的な学習と成功体験からの学習意欲の増大を図りたい。

科目	ミクロ経済学			
配当年次	1	開講時限	秋土2	
受講者数	18	回答者数	12	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.38	4.67	5	5	4
2	3.17	3.50	3	5	3
3	4.15	4.58	5	5	4
4	4.38	4.58	5	5	4
5	4.38	4.58	5	5	4
6	4.31	4.25	5	5	3
7	4.31	4.42	5	5	3
8	4.23	4.50	4・5	5	4
9	4.08	4.33	5	5	3
10	4.50	4.58	5	5	4
11	4.23	4.58	5	5	4
12	4.83	4.42	5	5	3
13	2.46	2.33	1	5	1
14	2.50	2.75	2	5	1
15	4.08	4.25	4	5	3
16	4.15	4.33	4	5	3
17	4.00	4.33	4	5	4
回答者数	13	12			



受講生の傾向

今年度の受講生は、真面目でおとなしい院生が多かった。この授業では、消費の理論、生産の理論、市場の理論、厚生経済学の理論、ゲームの理論の基礎をわかり易く説明したので、よく理解してくれたものと考えている。受講生は、公認会計士を目指す院生のみならず、公務員、国税官、民間企業を目指す院生も多く、幅広い視野を備えた受講生が多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

これまでの授業評価では、「授業は、面白く、理解できた。経済例は興味深かったが、練習問題は少し難しかった」との意見もあったので、今年度は練習問題を増やし、丁寧に回答例を説明した。その結果、受講生の理解度は上がったと考えている。事実、試験の結果も非常にレベルアップしている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

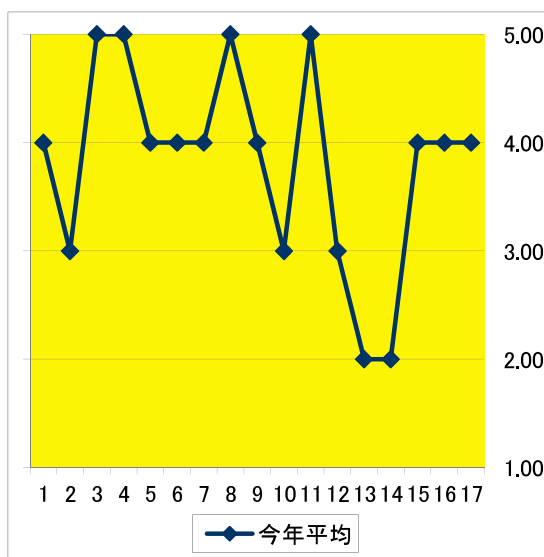
今年度の授業は成功であったと考えている。試験の成績もよかったので、基礎的な内容の授業に重点を置いた講義を今後も続けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

難易度の高い授業や問題を解くよりも、基礎的な内容の授業や問題を取り扱うように工夫したいと考えている。

科目	統計学			
配当年次	2	開講時限	秋木1	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.00	4	4	4
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	4.00	4	4	4
6	—	4.00	4	4	4
7	—	4.00	4	4	4
8	—	5.00	5	5	5
9	—	4.00	4	4	4
10	—	3.00	3	3	3
11	—	5.00	5	5	5
12	—	3.00	3	3	3
13	—	2.00	2	2	2
14	—	2.00	2	2	2
15	—	4.00	4	4	4
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	1			



受講生の傾向

2年生配当科目で、1名が登録。ただし、すでに会計事務所で仕事をしながら通っている学生で、講義期間中に海外出張が入ったこともあり、その学生がアンケートで自己申告しているように、出席率は50%を少し超える程度であった。他方で、1年生が1名、学年の都合で登録できないが、監査の基礎知識として統計学を学びたいとの理由で聴講を希望し、登録者の成績評価をした最終講義日を除き、毎回出席していた。そのため、毎回出席していた学生に合わせて講義を進めつつ、できるだけ2人の学生の要望を確認しながら題材を選んだ。たとえば、登録学生は「株式投資などを題材に選んでほしい」と希望したので、希望に合わせた題材を追加した。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(授業担任者変更)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

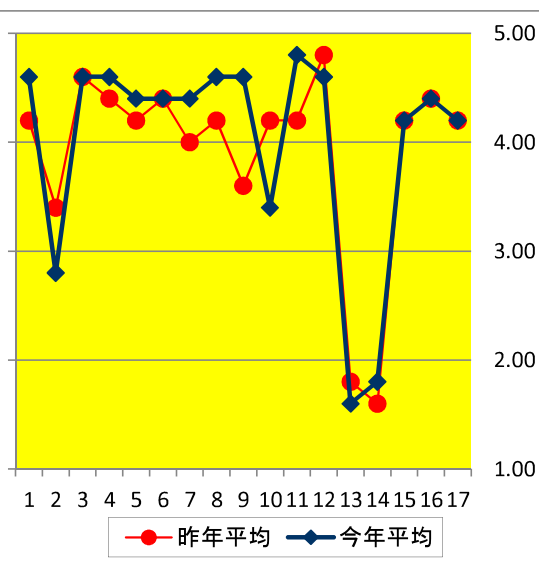
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の人数と個人的な都合のために、変則的な講義となったが、毎回出席していた非登録の聴講学生の反応はよかったので、来年度も基本的に同じ構成で講義をすることにしたい。

科目	コストマネジメント論			
配当年次	2	開講時限	秋金1	
受講者数	7	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.20	4.60	5	5	4
2	3.40	2.80	3	3	2
3	4.60	4.60	5	5	4
4	4.40	4.60	5	5	4
5	4.20	4.40	4	5	4
6	4.40	4.40	5	5	3
7	4.00	4.40	4	5	4
8	4.20	4.60	5	5	4
9	3.60	4.60	5	5	4
10	4.20	3.40	3	5	2
11	4.20	4.80	5	5	4
12	4.80	4.60	5	5	4
13	1.80	1.60	1	3	1
14	1.60	1.80	1・2	3	1
15	4.20	4.20	4・5	5	3
16	4.40	4.40	4	5	4
17	4.20	4.20	4・5	5	3
回答者数	5	5			



受講生の傾向

2年次配当科目の性格上、受講生により出席率にはばらつきがあったが、出席した学生は真剣に受講していた。また、講義内容についても積極的な質問が見られた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年度はテキストの変更に伴って、原価管理の方法について、計算の側面をより意識した講義を行った。講義に際してはテキスト上の論点に関する質問形式の講義資料を配付することによって、受講者の各自が講義を通じて何を知らなければならないかについての意識付けを行うことができるよう留意した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

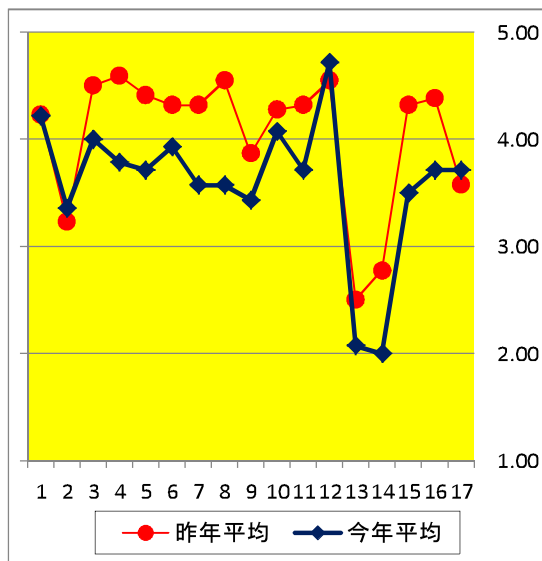
今年度のアンケート結果をもとに、講義中に配付する資料および提出課題の形式等について改善の必要があると考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

全般的な数字は改善傾向にあるといえるが、アンケート結果より、各受講生に対して予習および復習の意識付けをすることができていない。そのため、今後は講義中と講義前後のそれぞれの段階における受講生が学習する時間配分の設計を再検討する必要があると考えている。また、それ以外の項目についても改善の余地を探索することが必要である。

科目	会計事例研究		
配当年次	1	開講時限	秋水1
受講者数	17	回答者数	14

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.23	4.21	4	5	3
2	3.23	3.36	3	5	3
3	4.50	4.00	4	5	3
4	4.59	3.79	4	5	3
5	4.41	3.71	4	5	2
6	4.32	3.93	4	5	3
7	4.32	3.57	4	5	2
8	4.55	3.57	3	5	3
9	3.86	3.43	3・4	5	1
10	4.27	4.07	4	5	3
11	4.32	3.71	3・4	5	3
12	4.55	4.71	5	5	4
13	2.50	2.07	1	5	1
14	2.77	2.00	1	5	1
15	4.32	3.50	3	5	2
16	4.38	3.71	3・4	5	3
17	3.57	3.71	3・4	5	3
回答者数	22	14			



受講生の傾向

レポート、考査とも前向きに取り組んでくれた受講生が多かったように思う。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(授業担任者変更)

今後の対応

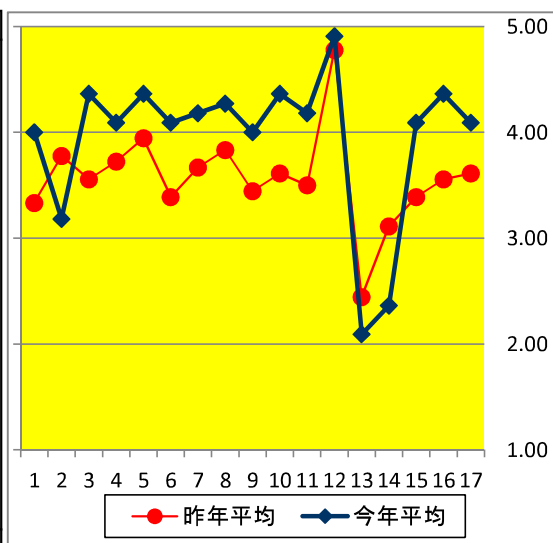
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レポートは調べること、考えることを経験してもらうためのよいトレーニングになると思うので、その目的に合うような題材のレポートを出題したい。試験についても有価証券報告書の作成を体感できるような内容のものを出题して、受講生の今後の学習の足がかりになるようなものにしたい。

科 目	基本会計プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	秋火4	
受講者数	12	回答者数	11	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	3.33	4.00	4・5	5	2
2	3.78	3.18	3	4	2
3	3.56	4.36	5	5	2
4	3.72	4.09	4・5	5	3
5	3.94	4.36	4・5	5	3
6	3.39	4.09	4	5	3
7	3.67	4.18	4	5	3
8	3.83	4.27	4	5	4
9	3.44	4.00	3・5	5	3
10	3.61	4.36	4・5	5	3
11	3.50	4.18	4	5	2
12	4.78	4.91	5	5	4
13	2.44	2.09	1	5	1
14	3.11	2.36	2・3	4	1
15	3.39	4.09	4	5	3
16	3.56	4.36	4・5	5	3
17	3.61	4.09	4	5	3
回答者数	19	11			



受講生の傾向

ほとんどの受講生が、遅刻・欠席することなく受講した。就職活動等のため、欠席を余儀なくさせられるケースがあり、当該学生はとくに積極的に講義に参加しているようであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

単に、公認会計士業務や経理業務と本講義の内容との関係を伝えるだけでなく、講義内容の実施順序を変更し、学生の理解度に応じ、講義速度を調整した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

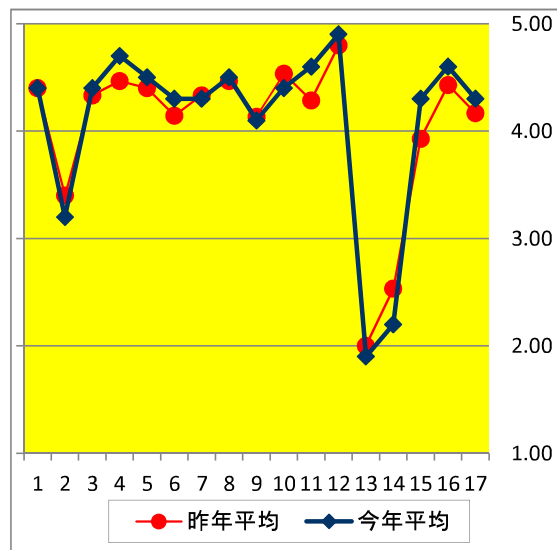
公認会計士試験と直接にはつながらないが公認会計士業務と本講義の内容との会計を伝え、意義を理解させる努力を講じる。予習用の教材が未だできていないため、鋭意作成に努める。次年度の講義シラバスを見直し、より効果的な講義展開となるような策を講じる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

講義順序を変更し、学生の理解度に応じて講義速度を調整した結果、講義速度は学生にとってちょうどよいように感じられるようになったが、その分、教授する側として、講義内容が不十分に感じる部分も生じている。今後は、講義速度と学生の理解度とのバランスだけでなく、講義内容とのバランスにも留意したい。

科目	基本監査プログラム演習			
配当年次	1	開講時限	秋金4	
受講者数	10	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.40	4.40	5	5	3
2	3.40	3.20	3	4	3
3	4.33	4.40	4	5	4
4	4.47	4.70	5	5	4
5	4.40	4.50	4・5	5	4
6	4.14	4.30	4	5	3
7	4.33	4.30	4	5	3
8	4.47	4.50	4・5	5	4
9	4.13	4.10	4	5	3
10	4.53	4.40	5	5	3
11	4.29	4.60	5	5	4
12	4.80	4.90	5	5	4
13	2.00	1.90	1・2	4	1
14	2.53	2.20	2	4	1
15	3.93	4.30	4	5	3
16	4.43	4.60	5	5	4
17	4.17	4.30	4	5	3
回答者数	15	10			



受講生の傾向

選択科目である本科目について、受講生の出席状況(項目12)は平均90%以上を確保しており、極めて高い出席率となっており、受講生のモラルも去年に比べて相対的に高くなっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度は監査実施に関する監査基準及び実務指針の改訂があったため、当該改訂を反映したパワーポイントによるスライドと、必要に応じて監査基準や実務指針、意見書等を用意し、配布した上で、監査実施に関する重要論点を確実に講義の前半で押さえるようにした。このように前半においては、監査実施プロセスについてテキストに基づいて授業を行ない、後半に、監査プログラムを用いたコンピュータ監査を実体験させた。これら前半の資料については、授業の都度、関西大学インフォメーション・システムにアップロードし復習のように供した。

前半の講義で監査プログラムを動かすための基本的な用語や概念、内容を理解させたことで、後半の実践的なプログラム運用が効果的に行なえた。また去年通り、前半の授業段階では、各自の理解度を確認するために、質疑応答を導入し、回答回数に応じた成績評価を導入した。同時に前半に用いたスライドの最後には、受講生に復習を促すための復習課題と、当該課題を遂行するために必要となる参考文献を列举した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

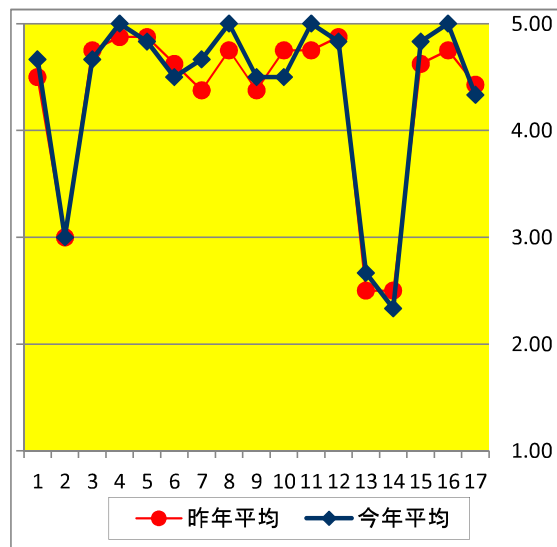
演習に当たっての机間巡回を増やすことで、より一層の個別指導と発言機会の増加を図る必要があるかもしれない。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習に用いる課題の早期確定と演習時間内での机間巡回指導をより一層徹底し、学生参加型の演習時間を相対的に増やす。

科 目	アカデミック・ソリューションB(坂口クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	6	回答者数	6	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.50	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.75	4.67	5	5	4
4	4.88	5.00	5	5	5
5	4.88	4.83	5	5	4
6	4.63	4.50	5	5	3
7	4.38	4.67	5	5	3
8	4.75	5.00	5	5	5
9	4.38	4.50	5	5	3
10	4.75	4.50	5	5	3
11	4.75	5.00	5	5	5
12	4.88	4.83	5	5	4
13	2.50	2.67	2	4	2
14	2.50	2.33	2	3	2
15	4.63	4.83	5	5	4
16	4.75	5.00	5	5	5
17	4.43	4.33	4	5	4
回答者数	8	6			



受講生の傾向

管理会計の基本的な知識の習熟度について学生間で大きな差があった。また、管理会計を学習する目的も学生間でさまざまであった。しかし、学習に対する態度はおおむね良好であり、授業中に指示する文献を精読し授業に臨む学生も見受けることができた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

架空の企業のケースや実際の企業のケースを利用したディスカッションを実施した。また、学生間の知識の習熟度に差があることから、できる限りディスカッションに参加するように促した(例えば、基本概念に関する疑問、関連概念に関する疑問、単純な提案など、思ったことは発言するように指導した)。その結果、学生間のディスカッションが徐々に活発化し、教員が指導しなくても自然に発言することが多くなった。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

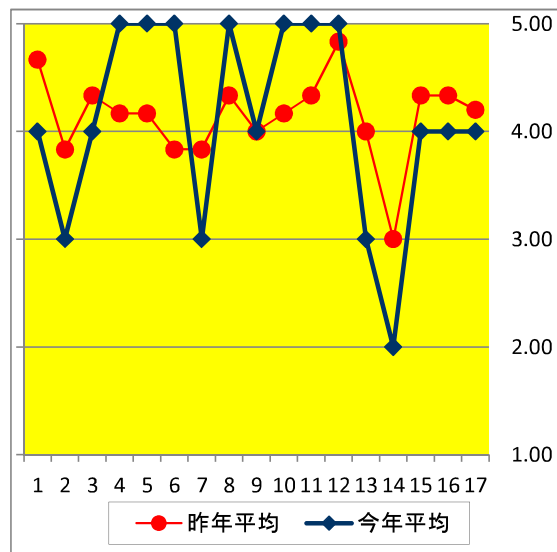
基本理論、企業事例だけでなく、実際に企業で実務に従事している人から事例を聞くことが必要であるため、今後そうした機会を探索していきたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後もディスカッションを基礎としたクラスの運営に取り組むたい。加えて、管理会計に関する知識を深めるために、実際に企業で実務に従事している人から事例を聞く機会を引き続き探索していきたい。

科 目	アカデミック・ソリューションB(清水クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.00	4	4	4
2	3.83	3.00	3	3	3
3	4.33	4.00	4	4	4
4	4.17	5.00	5	5	5
5	4.17	5.00	5	5	5
6	3.83	5.00	5	5	5
7	3.83	3.00	3	3	3
8	4.33	5.00	5	5	5
9	4.00	4.00	4	4	4
10	4.17	5.00	5	5	5
11	4.33	5.00	5	5	5
12	4.83	5.00	5	5	5
13	4.00	3.00	3	3	3
14	3.00	2.00	2	2	2
15	4.33	4.00	4	4	4
16	4.33	4.00	4	4	4
17	4.20	4.00	4	4	4
回答者数	6	1			



受講生の傾向

1名の受講であったため、受講生の希望に応じた授業内容となった。その結果、アンケート結果は満足したというものが多かった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

- ①授業内容を受講生と十分検討した。
- ②1週間の課題を前週に与え、それに対する準備をさせるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

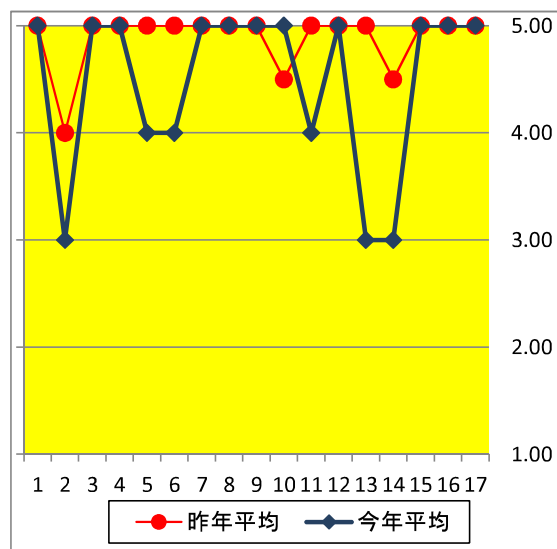
学習意欲を持続させる工夫が必要だと認識した。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

個人の希望と適切なアドバイスにより、学習内容を設定していく予定である。

科目	アカデミック・ソリューションB(富田クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	5.00	5	5	5
2	4.00	3.00	3	3	3
3	5.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	4.00	4	4	4
6	5.00	4.00	4	4	4
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	4.50	5.00	5	5	5
11	5.00	4.00	4	4	4
12	5.00	5.00	5	5	5
13	5.00	3.00	3	3	3
14	4.50	3.00	3	3	3
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	1			



受講生の傾向

受講生がひとりであったため、遅刻も欠席もなく、結果的に十分なディスカッションも行うことができ、積極的に受講していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

春学期に続き、「マン・ツー・マン」状態であり、できる限りその利点を活かすよう意識したつもりである。とくに小テストは実施せず、受講生の希望に応じて、題材を設定することにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

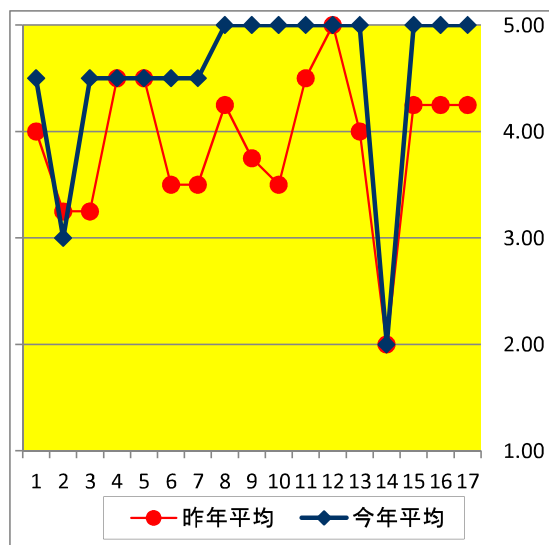
学生が積極的に参加しつつあるように思えるが、より一層の工夫を講じたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生がアンケート結果に「配慮」したようであり、アンケート結果そのものの信頼性は高いとは言えない。そのため、アンケート結果ではなく、受講生の反応から検討することになるが、題材を可能な限り受講生の希望に応ずるようにし、積極的に参加できるような工夫を講じたいと思う。

科 目	アカデミック・ソリューションB(松本クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.50	4・5	5	4
2	3.25	3.00	3	3	3
3	3.25	4.50	4・5	5	4
4	4.50	4.50	4・5	5	4
5	4.50	4.50	4・5	5	4
6	3.50	4.50	4・5	5	4
7	3.50	4.50	4・5	5	4
8	4.25	5.00	5	5	5
9	3.75	5.00	5	5	5
10	3.50	5.00	5	5	5
11	4.50	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	4.00	5.00	5	5	5
14	2.00	2.00	1・3	3	1
15	4.25	5.00	5	5	5
16	4.25	5.00	5	5	5
17	4.25	5.00	5	5	5
回答者数	4	2			



受講生の傾向

全員が真面目にほぼ100%出席している(項目12)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自一人一人に課題を課すと同時に、正規の時間外で計算科目に関する次週を促すと同時に、理論科目については個別課題を課すようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

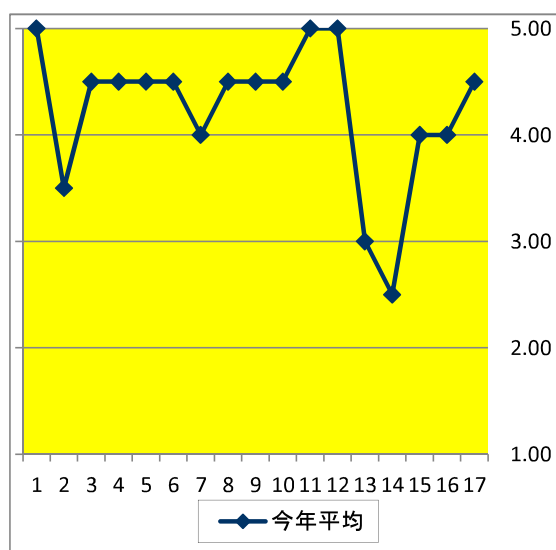
今後も個々の能力差に応じて、正規の時間外で指導を行なう必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

履修学生のレベルに応じ、今後も正規の時間外で、個別能力に応じた指導を導入する必要がある。

科 目	アカデミック・ソリューションB(三島クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋火5
受講者数	2	回答者数	2

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.50	3・4	4	3
3	—	4.50	4・5	5	4
4	—	4.50	4・5	5	4
5	—	4.50	4・5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.00	3・5	5	3
8	—	4.50	4・5	5	4
9	—	4.50	4・5	5	4
10	—	4.50	4・5	5	4
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	3.00	3	3	3
14	—	2.50	2・3	3	2
15	—	4.00	4	4	4
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.50	4・5	5	4
回答者数	—	2			



受講生の傾向

受業生は2人であったが、2人とも授業には熱心かつまじめに取り組んでいた。学生の理解度および学力には若干の差は見られるものの、授業の進行に差し支えるほどではなかった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習科目であるからほとんどは対話による授業形態になるが、今回はさらに学生に長く発言させる機会を与えた。質問に対しても、単純な一行の解答ではなく、意義や趣旨、要件、効果等を織り交ぜて、ボリュームのある解答を求めた。これによって、自分の理解度を確認できるとともに、自らの理解を相手に伝える能力もまた身につけることができることを目指した。加えて、この授業を受けている学生は、講義科目(「企業法」等)も同時に履修しているので、これと関連させながら授業を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

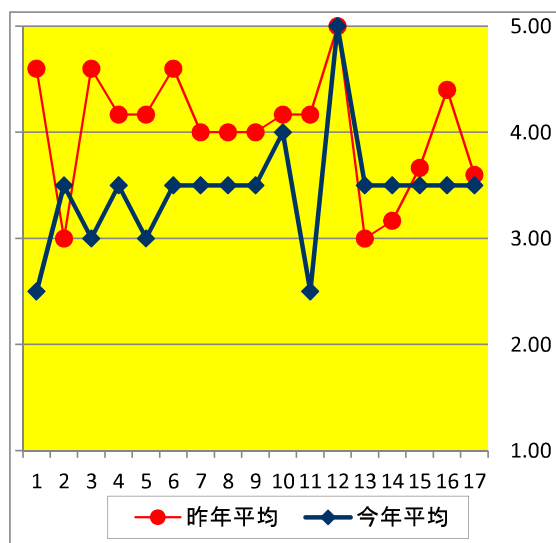
該当なし(2011年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回のこの授業は受講生が2人と人数が少なかったことから、ほとんどが教員との対話という形式になってしまったが、このような場合であっても、学生同士の討論ができれば望ましいと思われるので、今後の対応としては、少人数であっても、教員との対話のみならず、学生同士の討論ができるように心がけたい。

科 目	アカデミック・ソリューションB(宮本クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋土1	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	2.50	1・4	4	1
2	3.00	3.50	3・4	4	3
3	4.60	3.00	2・4	4	2
4	4.17	3.50	2・5	5	2
5	4.17	3.00	1・5	5	1
6	4.60	3.50	2・5	5	2
7	4.00	3.50	2・5	5	2
8	4.00	3.50	2・5	5	2
9	4.00	3.50	2・5	5	2
10	4.17	4.00	3・5	5	3
11	4.17	2.50	1・4	4	1
12	5.00	5.00	5	5	5
13	3.00	3.50	2・5	5	2
14	3.17	3.50	2・5	5	2
15	3.67	3.50	2・5	5	2
16	4.40	3.50	2・5	5	2
17	3.60	3.50	2・5	5	2
回答者数	6	2			



受講生の傾向

今年度の受講生は、公認会計士志望と公務員志望の学生であった。2人とも真面目な院生で、1回の欠席もなかった。学力は最初はあまり高いとは言えなかったが、授業を続けるにつれて、真面目に勉強した結果、かなり能力がついてきたと言える。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的には、授業内容は初歩的なレベルから徐々にレベルをあげて、最後は公認会計士や公務員、国税官の試験を解けるレベルにまで実力を高めることができたと考えている。少人数であったので、非常に効果的な授業ができたと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

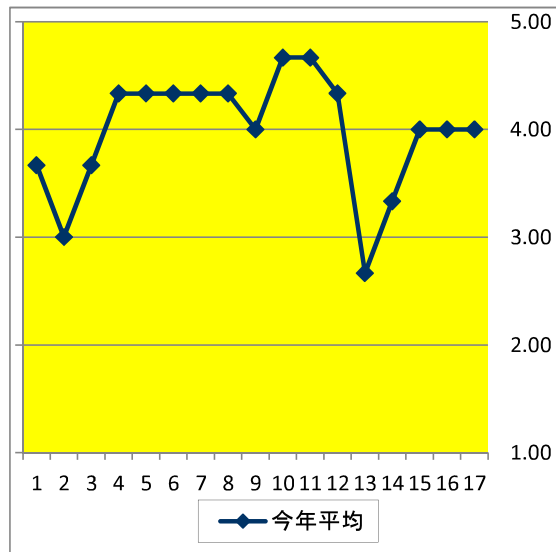
最初は基礎的な内容の分かりやすい授業を行い、その後経済学の考え方に慣れてくれば徐々にレベルを上げて、最後には模擬試験の問題が解けるレベルまで受講生の学力を引き上げる方針でやってきて非常に効果があったと考えている。したがって、今後もこの方向で授業を行う方針である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度の授業方針は成功であったと考えているので、次年度も最初は初歩的なレベルの問題を解いて、徐々にレベルを上げて行き、最後は公認会計士や公務員、国税官の模擬試験問題などのレベルが解けるような方針で授業を行う予定である。

科 目	アカデミック・ソリューションB(大西クラス)		
配当年次	1	開講時限	秋月5
受講者数	3	回答者数	3

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	3.67	4	4	3
2	—	3.00	3	3	3
3	—	3.67	4	4	3
4	—	4.33	4	5	4
5	—	4.33	4	5	4
6	—	4.33	4	5	4
7	—	4.33	5	5	3
8	—	4.33	4	5	4
9	—	4.00	4	4	4
10	—	4.67	5	5	4
11	—	4.67	5	5	4
12	—	4.33	5	5	3
13	—	2.67	1・3・4	4	1
14	—	3.33	4	4	2
15	—	4.00	4	4	4
16	—	4.00	4	4	4
17	—	4.00	4	4	4
回答者数	—	3			



受講生の傾向

いずれの受講生も熱心に出席するとともに、発表準備をしっかりと行っていた。また、演習における質問に対しても真摯な受け答えをしていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

本年が初開講であるため昨年度の比較はできないが、テキストを精読することによって、原文の表現に触れるよう留意するとともに、テキストの論点に関連する研究動向を解説するように務めた。

今後の対応

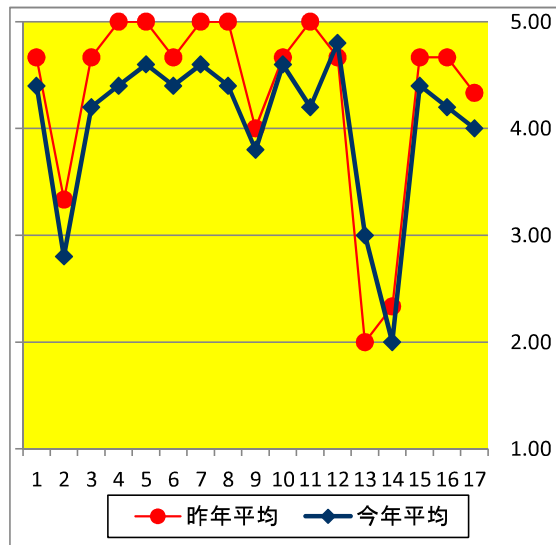
該当なし(2011年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年度との比較はできないが、今回のアンケートでは予習時間が十分ではなかったという回答であったため、この点についての意識付けを行うようにしたいと考えている。また、全般的な運用についても改善の余地があると思われるため、この点についても適宜対応したい。

科 目	アカデミック・ソリューションB(中村クラス)			
配当年次	1	開講時限	秋月5	
受講者数	5	回答者数	5	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.67	4.40	4	5	4
2	3.33	2.80	3	3	2
3	4.67	4.20	4・5	5	3
4	5.00	4.40	4	5	4
5	5.00	4.60	5	5	4
6	4.67	4.40	4	5	4
7	5.00	4.60	5	5	4
8	5.00	4.40	4	5	4
9	4.00	3.80	3	5	3
10	4.67	4.60	5	5	4
11	5.00	4.20	4・5	5	3
12	4.67	4.80	5	5	4
13	2.00	3.00	3	5	1
14	2.33	2.00	2	3	1
15	4.67	4.40	4	5	4
16	4.67	4.20	4	5	4
17	4.33	4.00	4	5	3
回答者数	3	5			



受講生の傾向

授業進度が遅い(質問No.2)という評価は、春学期のアカデミック・ソリューションAと同様である。この原因としては、受講生の予習時間は増加したが(質問No.13)、法人税法を理解することが困難な様子につき、説明時間を多くとったためである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生への質問を法人税法の条文解釈に集中させた。また、解釈にあたり、参考となる判例も報告させた。さらに、公認会計士試験の理論問題も講義時間内で解答させた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

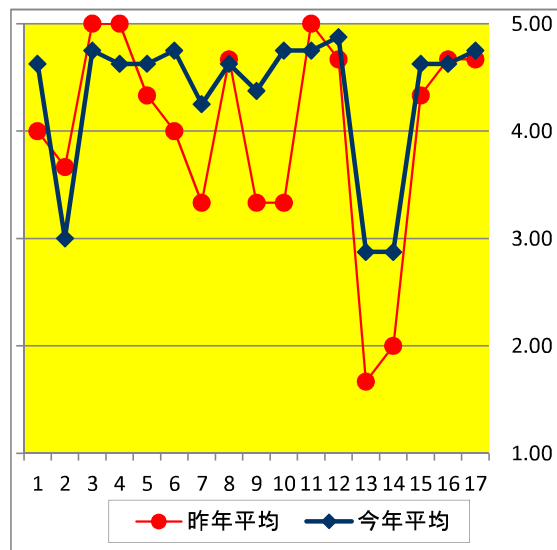
法人税法の条文を十分に読むことなく、報告レジュメを作成しているところが散見された。すべての条文を読むことはできないが、重要な条文については、講義内でフォローしていきたいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

授業進度が遅い(質問No.2)という評価は、受講生の学習時間の不足に起因する。そこで、受講生に対しては、租税判例に関するレポートの提出を求め、小テストも複数回実施する。当然ながら、これらは全て成績評価に反映させることにしたい。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(坂口クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋金5	
受講者数	8	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	4.63	5	5	3
2	3.67	3.00	3	3	3
3	5.00	4.75	5	5	4
4	5.00	4.63	5	5	4
5	4.33	4.63	5	5	4
6	4.00	4.75	5	5	4
7	3.33	4.25	5	5	3
8	4.67	4.63	5	5	4
9	3.33	4.38	5	5	3
10	3.33	4.75	5	5	4
11	5.00	4.75	5	5	4
12	4.67	4.88	5	5	4
13	1.67	2.88	2・5	5	1
14	2.00	2.88	2・5	5	1
15	4.33	4.63	5	5	4
16	4.67	4.63	5	5	4
17	4.67	4.75	5	5	4
回答者数	3	8			



受講生の傾向

学生間の習熟度の差がそれほど大きくなく、また、管理会計についての基本的な知識を有するものが多かった。しかし、管理会計を学習する目的は異なっていた(公認会計士試験受験、企業実務での利用、研究論文への反映など)ため、それぞれの学生の興味や関心はさまざまであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

架空の企業のケースや実際の企業のケースを利用して、特定の管理会計のツール(ABC、個別原価計算、BSC、設備投資など)の貢献や限界などについてディスカッションした。これを通じて、管理会計を学習する目的が異なる学生が、それぞれの立場から自由に自己の意見を述べることができるように工夫した。また、学生間の意見に教員が参加することにより、学生がなぜその意見を主張するのかを明らかにさせるようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

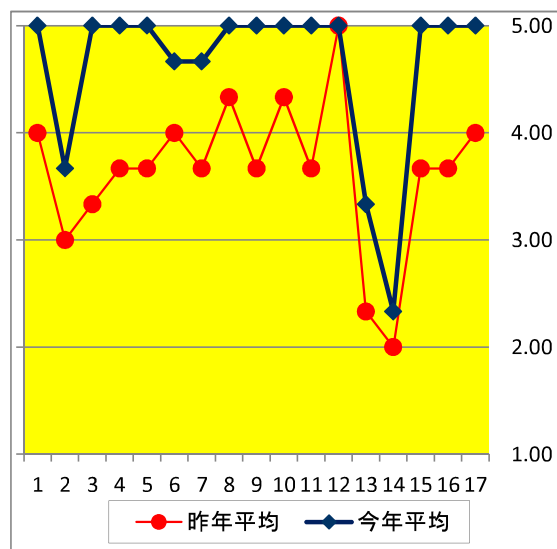
習熟度に圧倒的な差がある場合は、個別にレベルの異なるタスクを設定することを計画している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

習熟度の差が大きい場合でも、管理会計を学習する目的が大きく異なれば、クラスの運営上の工夫が必要であることを実感した。それゆえ、今後も、こうした事態に備えるべく、架空の企業のケース実際の企業のケースを基礎に、教員も能動的に参加してディスカッションを活性化していければと考えている。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(富田クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋火5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.00	5.00	5	5	5
2	3.00	3.67	3	5	3
3	3.33	5.00	5	5	5
4	3.67	5.00	5	5	5
5	3.67	5.00	5	5	5
6	4.00	4.67	5	5	4
7	3.67	4.67	5	5	4
8	4.33	5.00	5	5	5
9	3.67	5.00	5	5	5
10	4.33	5.00	5	5	5
11	3.67	5.00	5	5	5
12	5.00	5.00	5	5	5
13	2.33	3.33	1・4・5	5	1
14	2.00	2.33	1	5	1
15	3.67	5.00	5	5	5
16	3.67	5.00	5	5	5
17	4.00	5.00	5	5	5
回答者数	3	3			



受講生の傾向

欠席者は皆無であった。春学期の受講生メンバーにひとり受講生が増え、これがよい意味での刺激になったようであり、一層積極的に参加していた。ただ、具体的な考察対象によって、準備の程度にムラがあったように感じる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

単なる雑談になることなく、論点を明確にしつつ、ディスカッションを実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

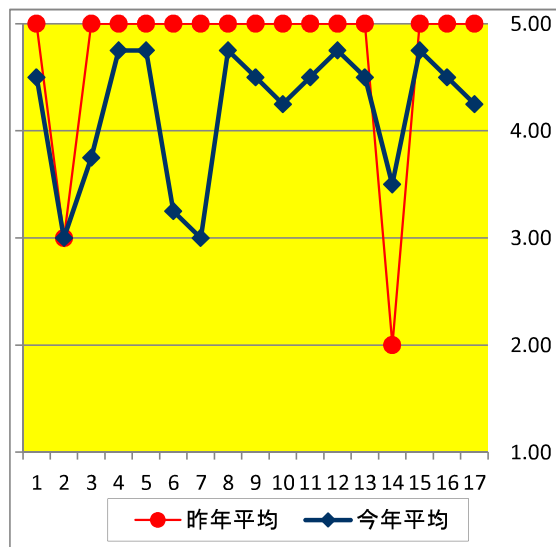
具体的な事象の考察のディスカッションから雑談めいた状態にならないよう意識し、ディスカッションと雑談の違いを受講生に識別させる。その上で、活発なディスカッションを促す。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

ディスカッションのための準備にムラがでないよう、学生の関心を事前に高め、より活発な議論ができるよう工夫を講じるつもりである。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(松本クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋金5	
受講者数	4	回答者数	4	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	5.00	3.75	4	4	3
4	5.00	4.75	5	5	4
5	5.00	4.75	5	5	4
6	5.00	3.25	3	4	3
7	5.00	3.00	3	3	3
8	5.00	4.75	5	5	4
9	5.00	4.50	4・5	5	4
10	5.00	4.25	5	5	3
11	5.00	4.50	4・5	5	4
12	5.00	4.75	5	5	4
13	5.00	4.50	5	5	3
14	2.00	3.50	3・4	4	3
15	5.00	4.75	5	5	4
16	5.00	4.50	4・5	5	4
17	5.00	4.25	4	5	4
回答者数	1	4			



受講生の傾向

全員がまじめに100%出席しており、受講生のモラルは高い(項目12)。

2年次になると、公認会計士を志望するものと一般企業への就職を志望するものの演習に対する参加意欲が異なっている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

会計大学院の設置趣旨に則り、情報収集能力、分析能力、プレゼン能力、ディベート能力を養うため、各自の能力に応じて課題を課すと同時に、正規の時間外で個別課題を課すようにした。また随時、質問を受け付けた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

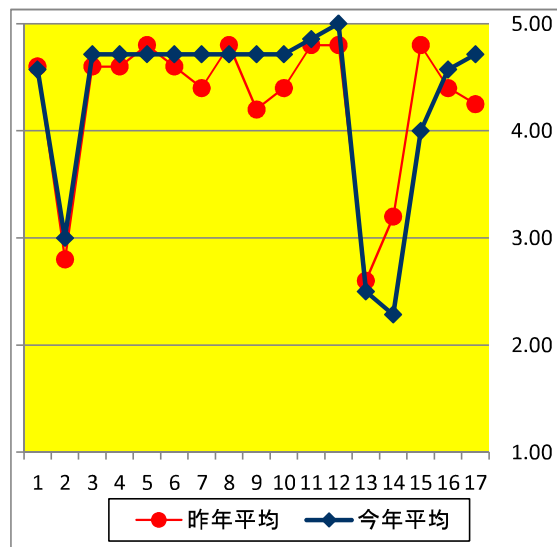
今後も正規の時間外で個別能力に応じた指導を行なう必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今年度から顕著な動向として、会計士志望者と一般企業志望者との行動に明らかな差が出た点にあることから、学生ごとのレベルだけでなく、志望先についても考慮に入れた指導が必要である。

科 目	プロフェッショナル・ソリューションB(宮本クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋土1	
受講者数	6	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.60	4.57	5	5	3
2	2.80	3.00	3	3	3
3	4.60	4.71	5	5	4
4	4.60	4.71	5	5	4
5	4.80	4.71	5	5	4
6	4.60	4.71	5	5	4
7	4.40	4.71	5	5	4
8	4.80	4.71	5	5	4
9	4.20	4.71	5	5	4
10	4.40	4.71	5	5	4
11	4.80	4.86	5	5	4
12	4.80	5.00	5	5	5
13	2.60	2.50	2・3	3	2
14	3.20	2.29	2・3	3	1
15	4.80	4.00	5	5	1
16	4.40	4.57	5	5	4
17	4.25	4.71	5	5	4
回答者数	5	7			



受講生の傾向

この授業では、アカデミックソリューションからの継続の学生ばかりであったので、気心や能力をよく理解できていたので、非常にスムーズに授業ができた。公認会計士、税理士、民間企業、国税官志望の能力が高く、真面目で明るい学生ばかりであった。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

基本的には、基礎能力があるので、マクロ経済学の練習問題を中心に授業を行った。毎回、院生に宿題を提出し、それを次回の授業の時に回答をさせて、それをきちんと説明した。基礎的な練習問題から、徐々にレベルの高い問題にあげて行き、院生の能力を高めていった。非常に効果のあった授業方法であったと考えている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

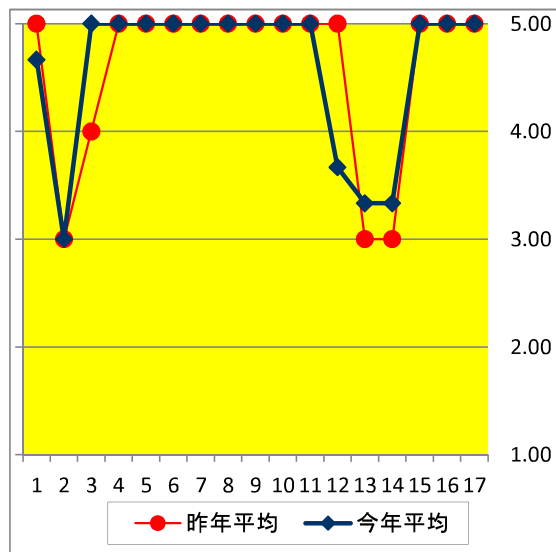
今後は、受講生のレベルの向上をはかるために、多くの練習問題を取り上げて、全員で分析する。最初は初歩的・基礎的な内容の問題から、最後は難問であっても自分の力で解けるレベルまで受講生の学力を引き上げる方針である。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

昨年の「今後の対応」を踏まえて、今年度はその方向で授業を行った。来年度も基本的にはこの方針、つまり、基礎的な練習問題からレベルの高い練習問題の解答と説明を行う予定である。

科目	プロフェッショナル・ソリューションB(宗岡クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋火5	
受講者数	3	回答者数	3	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.67	5	5	4
2	3.00	3.00	3	3	3
3	4.00	5.00	5	5	5
4	5.00	5.00	5	5	5
5	5.00	5.00	5	5	5
6	5.00	5.00	5	5	5
7	5.00	5.00	5	5	5
8	5.00	5.00	5	5	5
9	5.00	5.00	5	5	5
10	5.00	5.00	5	5	5
11	5.00	5.00	5	5	5
12	5.00	3.67	2・4・5	5	2
13	3.00	3.33	2・3・5	5	2
14	3.00	3.33	2・3・5	5	2
15	5.00	5.00	5	5	5
16	5.00	5.00	5	5	5
17	5.00	5.00	5	5	5
回答者数	2	3			



受講生の傾向

厳しい就職活動の後で、気が抜けたような状態が見られ、必ずしも学習意欲が高いとは言えなかった。そのため、自宅学習等については、必ずしも十分とは言えなかった。ただし、ディスカッションには積極的に参加していた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

国際税務等に係る事例について、その内容を説明し、論点を提示した上で、それについてディスカッションを行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

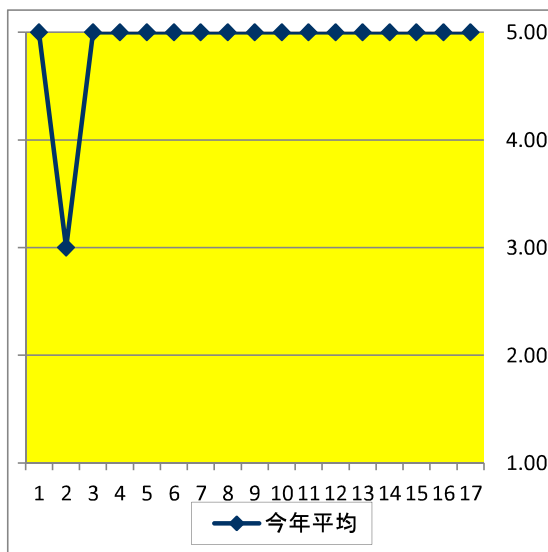
将来の武器となるようなことを学習するきっかけとなるように授業すること。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

将来の武器となるようなことを学習するきっかけとなるように授業すること。自主的に家庭学習等を行っていくようにテーマの提示を工夫するとともに動機付けを行ってきたい。

科 目	論文指導・修士論文(坂口クラス)			
配当年次	2	開講時限	秋土5	
受講者数	1	回答者数	1	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	5.00	5	5	5
2	—	3.00	3	3	3
3	—	5.00	5	5	5
4	—	5.00	5	5	5
5	—	5.00	5	5	5
6	—	5.00	5	5	5
7	—	5.00	5	5	5
8	—	5.00	5	5	5
9	—	5.00	5	5	5
10	—	5.00	5	5	5
11	—	5.00	5	5	5
12	—	5.00	5	5	5
13	—	5.00	5	5	5
14	—	5.00	5	5	5
15	—	5.00	5	5	5
16	—	5.00	5	5	5
17	—	5.00	5	5	5
回答者数	—	1			



受講生の傾向

昨年度からアカデミック・ソリューションを受講している学生であり、管理会計について深く学びたいという意欲のある学生であった。また、大学や大学院での学習から、基本的な管理会計の知識、およびその周辺領域の知識(経営学、経済学、統計学)を備えていた。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

早期の段階から研究テーマ(設備投資マネジメント)を設定し、これに関する文献を精力的に調査し収集した。また、研究の現状把握(設備投資マネジメントについて、どこまで研究がわが国で進展し、今後どのような研究が必要なのか)を行い、学生自身の学術論文の新規性を明確に主張できるように指導した。さらに、設定したテーマに沿って、収集した文献が学生自身の学術論文の主張とどのように関連するのかを徹底的に議論した。

今後の対応

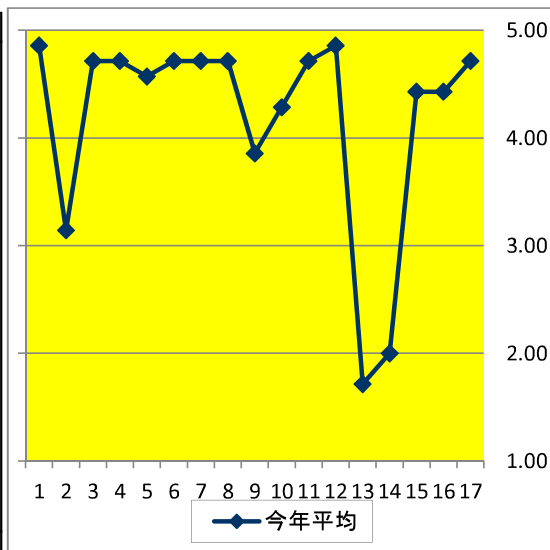
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(2011年度不開講)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今回は、研究方法として文献レビューという方法を用いたことや、既存研究の関連性の整理に学生が不慣れであったことから、文献相互の関連性に重点を置いて徹底的に議論した。その結果、学生からの評価はおおむね良好であったと考える。それゆえ、論文指導という科目の特性から、今後も、研究方法として採用する方法論や学生のキャラクターに合わせた指導を行っていきたい。

科目	特殊講義(経営と会計)			
配当年次	1	開講時限	秋木3	
受講者数	13	回答者数	7	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.86	5	5	4
2	—	3.14	3	4	3
3	—	4.71	5	5	4
4	—	4.71	5	5	4
5	—	4.57	5	5	4
6	—	4.71	5	5	4
7	—	4.71	5	5	4
8	—	4.71	5	5	4
9	—	3.86	3	5	3
10	—	4.29	4・5	5	3
11	—	4.71	5	5	4
12	—	4.86	5	5	4
13	—	1.71	1・2	3	1
14	—	2.00	2	3	1
15	—	4.43	5	5	3
16	—	4.43	5	5	3
17	—	4.71	5	5	4
回答者数	—	7			



受講生の傾向

受講予定者13人中2人はそれぞれ就職先の英語研修と休学で授業に参加せず、2人は途中から欠席した(勤務先の事情等?)が、他の9人は概ね良好な出席で、質問についても延べ約40回(1人平均4~5回)、うち8人はレポート作成支援のため特別に設定したオフィスアワーにも参加している。レポートについては、少数名を除いて問題意識、理解力、論理性および努力ともに認められる内容であった。なお、自由論題としていることもあったためか、作成に着手する時期や時間のかけ方により内容に差が出ていたように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(2012年度新設科目)

今後の対応

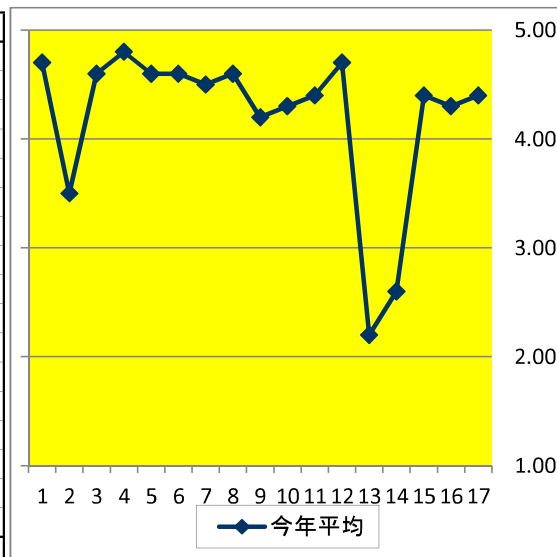
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(2012年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レポート作成の支援と内容の充実を目的に最後の2回の授業に「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間を設ける。それにより各人のレポートの内容充実を図り、全体の底上げを目指したい。

科 目	特殊講義(海外経営事例研究)			
配当年次	1	開講時限	秋水3	
受講者数	11	回答者数	10	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.70	5	5	4
2	—	3.50	3	5	3
3	—	4.60	5	5	4
4	—	4.80	5	5	4
5	—	4.60	5	5	3
6	—	4.60	5	5	3
7	—	4.50	5	5	3
8	—	4.60	5	5	4
9	—	4.20	4・5	5	3
10	—	4.30	4	5	3
11	—	4.40	5	5	3
12	—	4.70	5	5	4
13	—	2.20	1	5	1
14	—	2.60	2	5	1
15	—	4.40	5	5	3
16	—	4.30	5	5	3
17	—	4.40	5	5	3
回答者数	—	10			



受講生の傾向

受講予定者11人中1人は受講登録のミスということで授業に参加しなかったが、他の10人は15日全て出席した3人のほか概ね良好な出席であり、質疑応答への参加も比較的積極的であった。うち7人はレポート作成支援のため特別に設定したオフィスアワーにも参加している。レポートについては、全体として問題意識は読み取れたが、理解力、論理性および努力にはバラツキがあった。また、自由論題としていることもあったためか、作成に着手する時期や時間のかけ方により内容に差が出ていたように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと
該当なし(2012年度新設科目)

今後の対応

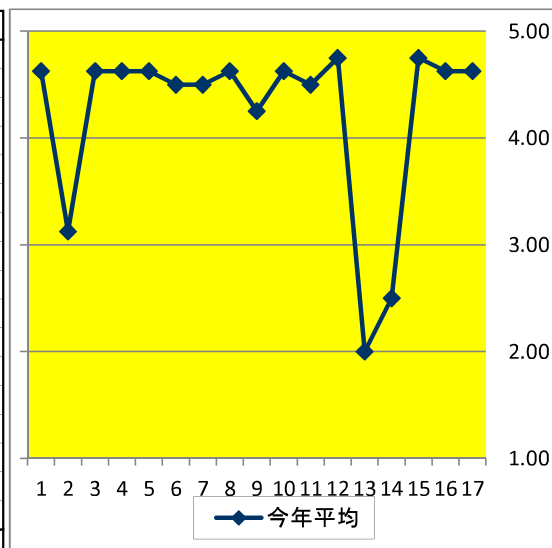
○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」
該当なし(2012年度新設科目)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

レポート作成の支援と内容の充実を目的に最後の2回の授業に「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間を設ける。それにより各人のレポートの内容充実を図り、全体の底上げを目指したい。また、それにともない各回の時間配分を見直し、一部について分割または統合を行う。

科目	会計情報システム			
配当年次	2	開講時限	秋火3	
受講者数	9	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	—	4.63	5	5	4
2	—	3.13	3	4	3
3	—	4.63	5	5	4
4	—	4.63	5	5	4
5	—	4.63	5	5	4
6	—	4.50	4・5	5	4
7	—	4.50	4・5	5	4
8	—	4.63	5	5	4
9	—	4.25	4	5	3
10	—	4.63	5	5	4
11	—	4.50	4・5	5	4
12	—	4.75	5	5	4
13	—	2.00	2	3	1
14	—	2.50	2・3	4	1
15	—	4.75	5	5	4
16	—	4.63	5	5	4
17	—	4.63	5	5	4
回答者数	—	8			



受講生の傾向

受講予定者9人中1人は4回目以降は欠席であった(勤務先の事情?)が、他の8人は概ね良好な出席であった。うち5人はレポート作成支援のため特別に設定したオフィスアワーにも参加している。レポートについては、各人の理解力は1人を除いてまずまずであったが、自由論題としていることもあったためか、作成に着手する時期や時間のかけ方により内容に差が出ていたように思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

該当なし(授業担任者変更)

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

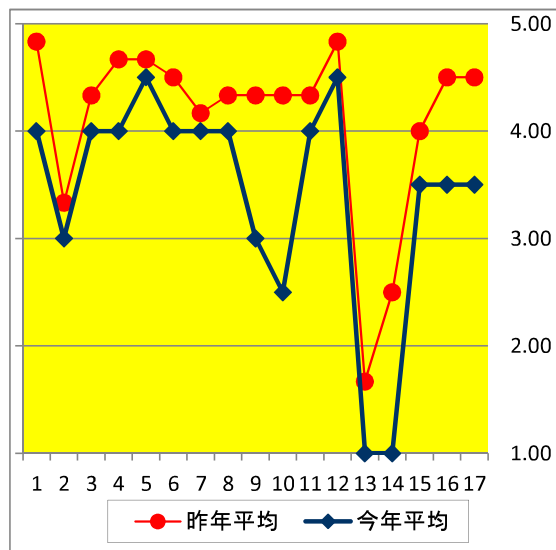
該当なし(授業担任者変更)

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

会計情報システムは今年度限りで、新年度からもう少しERPに軸足を置いた内容で特殊講義「ERPと会計」を開講する。その授業において、レポート作成の支援と内容の充実を目的に最後の2回の授業に「受講者によるレポートテーマ・構想の発表」の時間を設ける。それにより各人のレポートの内容充実を図り、全体の底上げを目指したい。

科目	非営利会計論			
配当年次	2	開講時限	秋金4	
受講者数	3	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.83	4.00	3・5	5	3
2	3.33	3.00	3	3	3
3	4.33	4.00	3・5	5	3
4	4.67	4.00	3・5	5	3
5	4.67	4.50	4・5	5	4
6	4.50	4.00	3・5	5	3
7	4.17	4.00	3・5	5	3
8	4.33	4.00	3・5	5	3
9	4.33	3.00	3	3	3
10	4.33	2.50	2・3	3	2
11	4.33	4.00	3・5	5	3
12	4.83	4.50	4・5	5	4
13	1.67	1.00	1	1	1
14	2.50	1.00	1	1	1
15	4.00	3.50	3・4	4	3
16	4.50	3.50	3・4	4	3
17	4.50	3.50	3・4	4	3
回答者数	6	2			



受講生の傾向

- ①2名のみの受講であったことから、質問No.10「規模の適正性」は評価が低かった。
 ②授業内容に対しては概ね満足が行ったという結果となっているが、予習・復習の時間がほとんどとられていないことから(質問No.13、14)も、理解度は低いことが伺われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

非営利法人会計の横断的な比較などを講義中に話す、あるいは学生に問うなどして全体としての非営利法人会計の傾向を掴ませる工夫を行った。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

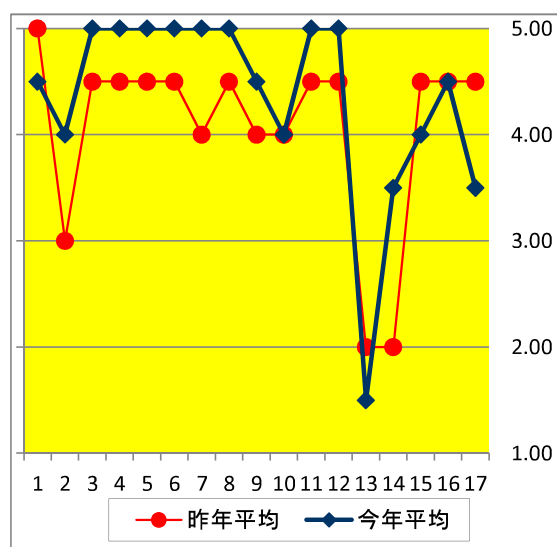
非営利法人会計の大きな潮流を少しずつ教えることができるようになってきたと感じるが、この傾向を続けたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生に自ら予習させる工夫をしたい(担当を決め発表させるなど)。

科 目	国際公会計制度論			
配当年次	2	開講時限	秋月4	
受講者数	2	回答者数	2	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	5.00	4.50	4・5	5	4
2	3.00	4.00	3・5	5	3
3	4.50	5.00	5	5	5
4	4.50	5.00	5	5	5
5	4.50	5.00	5	5	5
6	4.50	5.00	5	5	5
7	4.00	5.00	5	5	5
8	4.50	5.00	5	5	5
9	4.00	4.50	4・5	5	4
10	4.00	4.00	3・5	5	3
11	4.50	5.00	5	5	5
12	4.50	5.00	5	5	5
13	2.00	1.50	1・2	2	1
14	2.00	3.50	2・5	5	2
15	4.50	4.00	4	4	4
16	4.50	4.50	4・5	5	4
17	4.50	3.50	3・4	4	3
回答者数	2	2			



受講生の傾向

- ①受講生は2名のみで、1名には授業進行上障害が多かった(基本資料を携帯しない、コミュニケーションができない等)。
 ②①のことから、アンケート結果は概ね良好となっているが、殆ど授業の効果は上がっていないものと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

「受講生の傾向」で述べたように、授業実施が円滑に進まなかったため、基本的な国際公会計の流れを話すにとどめた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

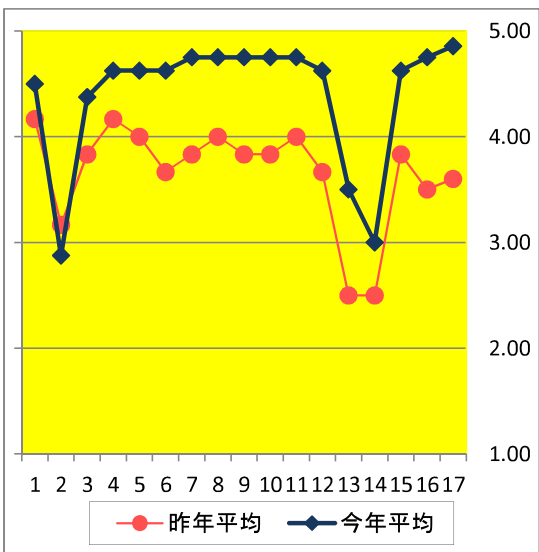
国際的な潮流をさらにわかりやすく教える必要があると感じたため、この半年間の研修を生かして内容を工夫する。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生に応じた対応が必要と考えらえる。これまで英語の基本資料を使っていたが、それを継続するのは受講生のレベルを見て判断する予定である。また、受講生に発表させる機会を設けることを検討する。

科目	法人税法			
配当年次	2	開講時限	秋木3	
受講者数	11	回答者数	8	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.17	4.50	5	5	3
2	3.17	2.88	3	3	2
3	3.83	4.38	4	5	4
4	4.17	4.63	5	5	4
5	4.00	4.63	5	5	4
6	3.67	4.63	5	5	4
7	3.83	4.75	5	5	4
8	4.00	4.75	5	5	4
9	3.83	4.75	5	5	4
10	3.83	4.75	5	5	4
11	4.00	4.75	5	5	4
12	3.67	4.63	5	5	3
13	2.50	3.50	3	5	2
14	2.50	3.00	2	5	1
15	3.83	4.63	5	5	4
16	3.50	4.75	5	5	4
17	3.60	4.86	5	5	4
回答者数	6	8			



受講生の傾向

質問No.13、14に示されている通り、今年度の受講生については、予習・復習の時間がいずれも増加している。その結果として、講義内での受講生との質疑応答は充実したものであった。また、受講生からの評価も前年を大きく上回った(質問No.1、No.3～11)。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義内で小テストを実施する代わりとして、判例のレポートを毎回提出させ、講義内では公認会計士試験の過去問を受講生に解答させ、質疑応答を繰り返した。また、最終評価を課題レポートによる評価から期末試験に切り替えた。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

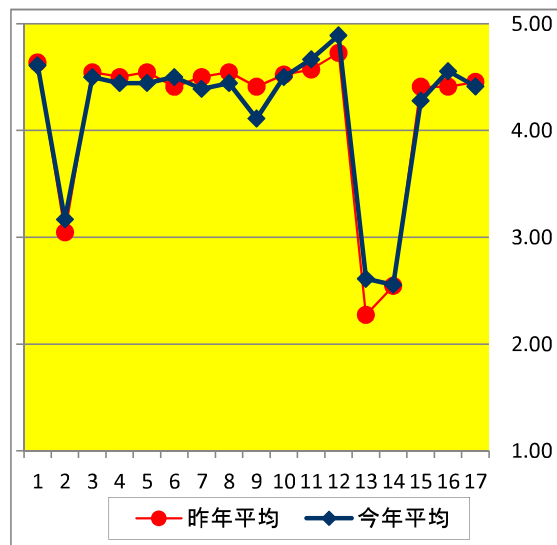
法人税法をきちんと理解してもらうため、講義内で小テストを実施する必要がある。また、最終評価を課題レポートで行うことを改め、期末試験により判定する必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

質問No.2が前年度を下回っている(授業進度が遅い)。その原因の1つとして、取引図をホワイトボードに何度も記載して講義を進めている点が考えられる。講義レジュメに必要な図を記載しておき、時間の節約を図りたい。

科目	公共経済学			
配当年次	2	開講時限	秋土4	
受講者数	25	回答者数	21	

質問No.	昨年平均	今年平均	最頻値	最高点	最低点
1	4.64	4.61	5	5	4
2	3.05	3.17	3	5	3
3	4.55	4.50	4・5	5	4
4	4.50	4.44	4	5	4
5	4.55	4.44	4	5	4
6	4.41	4.50	4・5	5	4
7	4.50	4.39	4	5	3
8	4.55	4.44	4	5	4
9	4.41	4.11	5	5	3
10	4.52	4.50	4・5	5	4
11	4.57	4.67	5	5	4
12	4.73	4.89	5	5	4
13	2.27	2.61	1・3	5	1
14	2.55	2.56	2	5	1
15	4.41	4.28	4・5	5	2
16	4.41	4.56	5	5	4
17	4.45	4.41	4	5	4
回答者数	22	21			



受講生の傾向

今年度の受講生は数多く、将来の方向も、公認会計士、国税官、地方自治体の公務員、税理士、民間企業などを希望する多彩な学生が居た。そして、現在の日本や世界の経済や経営に関して興味を持つ学生が多く、公共経済学の理論のみならず、現実の経済に関して有意義な議論を行った。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今年度の受講生は、現実の経済に関心がある学生が多かったので、公共経済学の税や財政支出の理論的問題のみならず、日本の政府や地方自治体の財政状況の現実的問題も解説した。これは、昨年度までの授業評価アンケートでも好評であったもので、今年度も引き続いて解説を試みたものである。今後も理論と現実の財政を講義していく予定である。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

昨今の日本財政では、税収の健全化が叫ばれているので、今後はまず日本の財政の状況を分析し、さらに日本の税の種類を詳しく説明する。それから理論分析では数式を少なくして、すべて図を用いてわかり易く解説する。

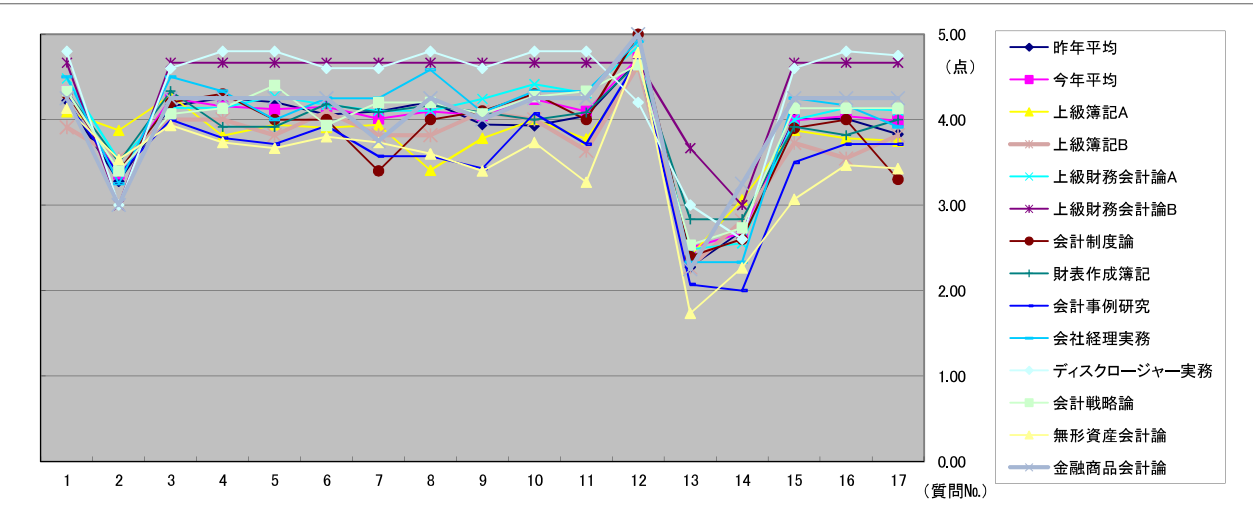
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後は、今年度の授業で好評であった公共経済学の理論と自治体の財政的現実を並行して講義していく予定である。

Ⅱ－(3)．2012 年度授業評価アンケート(系平均)結果概要

系： 財務会計
受講者数：195 回答者数：163

質問No.	昨年平均	今年平均	上級簿記A	上級簿記B	上級財務会計論A	上級財務会計論B	会計制度論	財表作成簿記	会計事例研究	会社経理実務	ディスクロージャー実務	会計戦略論	無形資産会計論	金融商品会計論
1	4.22	4.33	4.09	3.91	4.48	4.67	4.30	4.33	4.21	4.50	4.80	4.33	4.13	4.25
2	3.28	3.36	3.88	3.55	3.52	3.00	3.40	3.50	3.36	3.25	3.00	3.40	3.53	3.00
3	4.15	4.25	4.28	4.00	4.14	4.67	4.20	4.33	4.00	4.50	4.60	4.07	3.93	4.25
4	4.25	4.16	3.81	4.00	4.14	4.67	4.30	3.92	3.79	4.33	4.80	4.13	3.73	4.25
5	4.21	4.12	3.94	3.82	4.28	4.67	4.00	3.92	3.71	4.00	4.80	4.40	3.67	4.25
6	4.06	4.15	3.91	4.09	4.17	4.67	4.00	4.18	3.93	4.25	4.60	3.93	3.80	4.25
7	4.09	4.01	3.94	3.82	4.10	4.67	3.40	4.08	3.57	4.25	4.60	4.20	3.73	3.75
8	4.21	4.10	3.41	3.82	4.10	4.67	4.00	4.17	3.57	4.58	4.80	4.20	3.60	4.25
9	3.94	4.05	3.78	4.09	4.24	4.67	4.10	4.08	3.43	4.08	4.60	4.07	3.40	4.00
10	3.93	4.24	4.00	4.00	4.41	4.67	4.30	4.00	4.07	4.33	4.80	4.27	3.73	4.25
11	4.04	4.10	3.77	3.64	4.31	4.67	4.00	4.08	3.71	4.33	4.80	4.33	3.27	4.25
12	4.69	4.73	4.63	4.64	4.86	4.67	5.00	4.67	4.71	4.92	4.20	4.64	4.79	5.00
13	2.27	2.50	2.41	2.27	2.48	3.67	2.40	2.83	2.07	2.33	3.00	2.53	1.73	2.25
14	2.70	2.67	3.06	2.82	2.55	3.00	2.60	2.83	2.00	2.33	2.60	2.73	2.27	3.25
15	4.00	3.99	3.88	3.73	4.00	4.67	3.90	3.92	3.50	4.25	4.60	4.13	3.07	4.25
16	4.01	4.04	3.78	3.55	4.14	4.67	4.00	3.82	3.71	4.17	4.80	4.13	3.47	4.25
17	3.83	3.99	3.75	3.82	4.11	4.67	3.30	4.00	3.71	3.92	4.75	4.13	3.43	4.25
回答者数	252	163	32	11	29	3	10	12	14	12	5	15	15	5



受講生の傾向

各科目のコメントから、概ね積極的に受講していることが推測できる。質問11～17(授業への取組み)の回答結果をみても、一部の科目を除き、質問12、13の平均値が2～3、すなわち、予習も復習も30分～1時間程度ということがわかる。また、復習時間の方が予習時間より若干長いようである。一方、これも一部科目を除き、質問15～17の回答平均値は4付近であり、一応、講義の効果はあるように思われる。これらから、教員が講義中に得る感触よりも、実情は幾分受け身的な傾向であると推測される。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

今回の講義で工夫したこと・留意したことについて、各科目個別に取り上げること避けたい。ただ、その工夫・留意が、実際に功を奏しているかは別の問題であるが、それぞれ、科目特性に応じて、担当教員が感じたことに従って、策を講じているように思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

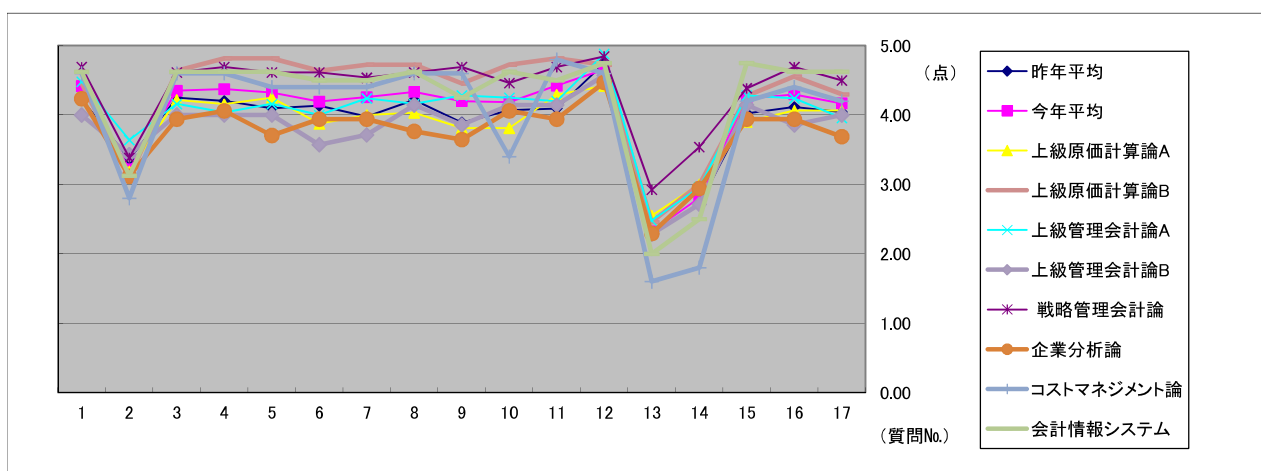
科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

科目特性があるので、科目の担当者自身による記述を参照されたい。相対的に低評価の基礎的、理論的科目の「今後の対応」を注意されたい。また、今後の対応(工夫や留意した点)が、受講生のニーズに当てはまっているのかや学習効果を向上させるものであるかなどの点も、注意されたい。

系： 管理会計
 受講者数:150 回答者数： 118

質問No.	昨年平均	今年平均	上級原価計算論A	上級原価計算論B	上級管理会計論A	上級管理会計論B	戦略管理会計論	企業分析論	コストマネジメント論	会計情報システム
1	4.23	4.42	4.25	4.45	4.48	4.00	4.69	4.24	4.60	4.63
2	3.36	3.22	3.19	3.09	3.64	3.43	3.38	3.12	2.80	3.13
3	4.25	4.35	4.22	4.64	4.16	4.00	4.62	3.94	4.60	4.63
4	4.20	4.37	4.16	4.82	4.04	4.00	4.69	4.06	4.60	4.63
5	4.10	4.32	4.25	4.82	4.16	4.00	4.62	3.71	4.40	4.63
6	4.13	4.19	3.88	4.64	4.00	3.57	4.62	3.94	4.40	4.50
7	3.98	4.26	4.00	4.73	4.24	3.71	4.54	3.94	4.40	4.50
8	4.22	4.33	4.03	4.73	4.16	4.14	4.62	3.76	4.60	4.63
9	3.89	4.20	3.81	4.45	4.28	3.86	4.69	3.65	4.60	4.25
10	4.07	4.18	3.81	4.73	4.25	4.14	4.46	4.06	3.40	4.63
11	4.09	4.42	4.29	4.82	4.20	4.14	4.69	3.94	4.80	4.50
12	4.75	4.66	4.42	4.73	4.88	4.57	4.85	4.47	4.60	4.75
13	2.28	2.32	2.55	2.45	2.48	2.29	2.92	2.29	1.60	2.00
14	2.72	2.81	3.00	3.00	2.96	2.71	3.54	2.94	1.80	2.50
15	4.02	4.23	3.90	4.27	4.28	4.14	4.38	3.94	4.20	4.75
16	4.11	4.30	4.06	4.56	4.24	3.86	4.69	3.94	4.40	4.63
17	4.04	4.17	4.06	4.30	3.96	4.00	4.50	3.69	4.20	4.63
回答者数	153	118	32	11	25	7	13	17	5	8



受講生の傾向

各科目の担当者から、受講生の態度はおおむね良好であることが報告されている。一方で、受講生間で学習の程度に大きな差があること(おもに計算科目)や、1年生と2年生との間で授業に対する接し方が異なること(おもに理論科目)なども見受けられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

受講生の雰囲気は各年で異なることから、担当者間で積極的に連絡を取り、受講生の傾向に関する情報について共有した。また、授業の進め方についての意見交換も実施した。その結果、管理会計系のアンケート結果は、各科目を通じて同様の傾向を示しているとともに、昨年度と比較して受講生の満足度も高いものとなっている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今後も、担当者同士で授業にかかわる意見交換を継続し、それぞれの授業に活用することを予定している。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

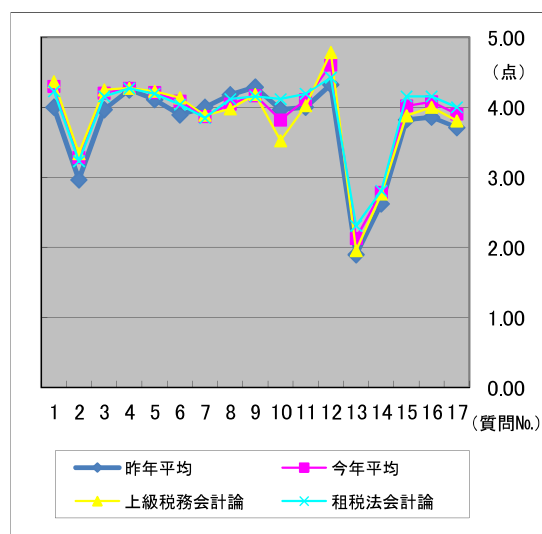
本年度のアンケート結果から、担当者間同士で授業にかかわる意見交換を実施し、現状認識や問題意識を共有することが効果的であることが部分的に理解できた。そのため、今後も、こうした意見交換を継続的にやり、授業水準の維持に努めていきたい。

系： 税務会計

受講者数:41

回答者数: 33

質問No.	昨年平均	今年平均	上級税務会計論	租税法会計論
1	4.00	4.39	4.44	4.33
2	2.96	3.28	3.22	3.33
3	3.96	4.24	4.22	4.27
4	4.25	4.37	4.33	4.40
5	4.11	4.33	4.33	4.33
6	3.89	4.24	4.22	4.27
7	4.00	4.25	4.17	4.33
8	4.18	4.33	4.33	4.33
9	4.29	4.34	4.28	4.40
10	3.96	4.28	4.22	4.33
11	4.00	4.22	4.17	4.27
12	4.32	4.60	4.67	4.53
13	1.89	2.09	2.11	2.07
14	2.62	2.30	2.33	2.27
15	3.82	4.03	4.06	4.00
16	3.86	4.25	4.29	4.20
17	3.71	4.01	3.94	4.07
回答者数	21	33	18	15



受講生の傾向

昨年との対比を見ると、質問No.14(復習時間)を除き、全ての質問項目で昨年平均を上回る結果となった。このデータが示す通り、受講生は税務会計系の講義に対して、十分満足していたと考えられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年と同様、「上級税務会計論」と「租税法会計論」を連動させ、学習難易度を徐々に引き上げる方式を採用した。なお、課題レポートを課す代わりに、講義時に配布するレジュメに公認会計士試験の過去問を一部アレンジした問題を数多く取り入れ、講義内に解答させるようにした。また、受講生の学習モチベーションの維持、向上のため、中間試験を実施した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

「上級税務会計論」と「租税法会計論」とを組み合わせ、難易度を徐々に引き上げる方式は、本年度において有効であったと実感しているため、次年度も継続して採用したい。また、受講生に学習時間を多くとってもらうため、新たに課題レポートを課す必要がある。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

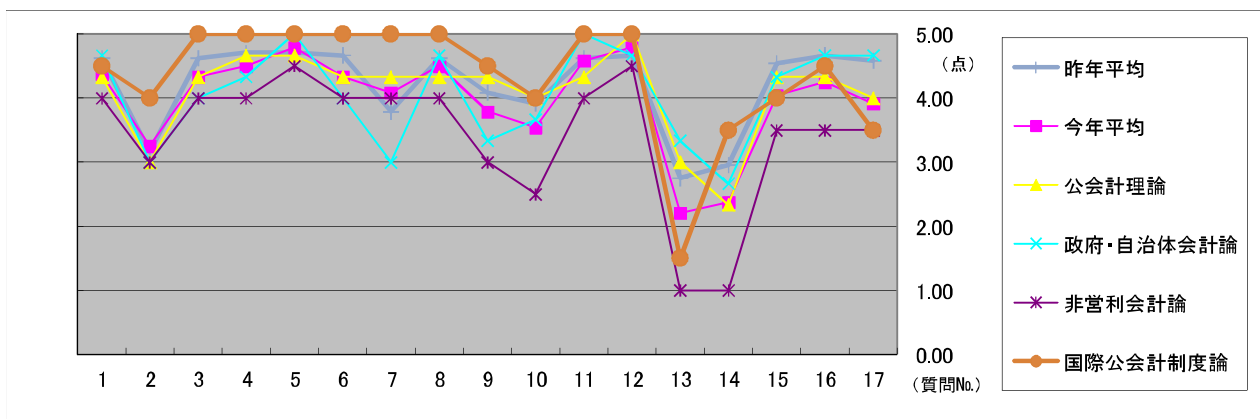
次年度も引き続き、「上級税務会計論」と「租税法会計論」を連動させることによって、受講生のレベルをスムーズに引き上げる。中間試験も受講生の学習モチベーションの維持、向上のため継続して実施する。また、近年の公認会計士試験では一定レベルの所得税法の計算問題が出題されるようになったことに対応し、学習範囲に所得税法の計算を新たに加える。

系： 公会計

受講者数：15

回答者数：10

質問No.	昨年平均	今年平均	公会計理論	政府・自治体会計論	非営利会計論	国際公会計制度論
1	4.63	4.38	4.33	4.67	4.00	4.50
2	3.17	3.25	3.00	3.00	3.00	4.00
3	4.63	4.33	4.33	4.00	4.00	5.00
4	4.71	4.50	4.67	4.33	4.00	5.00
5	4.71	4.79	4.67	5.00	4.50	5.00
6	4.67	4.33	4.33	4.00	4.00	5.00
7	3.79	4.08	4.33	3.00	4.00	5.00
8	4.63	4.50	4.33	4.67	4.00	5.00
9	4.08	3.79	4.33	3.33	3.00	4.50
10	3.92	3.54	4.00	3.67	2.50	4.00
11	4.63	4.58	4.33	5.00	4.00	5.00
12	4.67	4.79	5.00	4.67	4.50	5.00
13	2.75	2.21	3.00	3.33	1.00	1.50
14	2.96	2.38	2.33	2.67	1.00	3.50
15	4.54	4.04	4.33	4.33	3.50	4.00
16	4.67	4.25	4.33	4.67	3.50	4.50
17	4.58	3.92	4.00	4.67	3.50	3.50
回答者数	12	10	3	3	2	2



受講生の傾向

受講生総数は昨年の12名をさらに下回って10名となった。傾向としては、授業内容には満足(QA全般)、さらに深掘りしたい(QA15)との回答が大勢を占める一方、予復習に時間を割いていない(QA13,14)といえ、これらはこれまでの傾向とほぼ同じといえる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

2012年度の春学期(政府・自治体会計論)、秋学期(公会計理論)は担当教員が研修期間であったため一時的に担当者が変わった。そのような事情から、昨年の結果を踏まえた対応が十分であったかどうかさだかではない。しかし、受講生に担当を割り当て、発表させる形式が採られたことから、「予復習に時間を割いていない」率は多少改善したと思われる。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

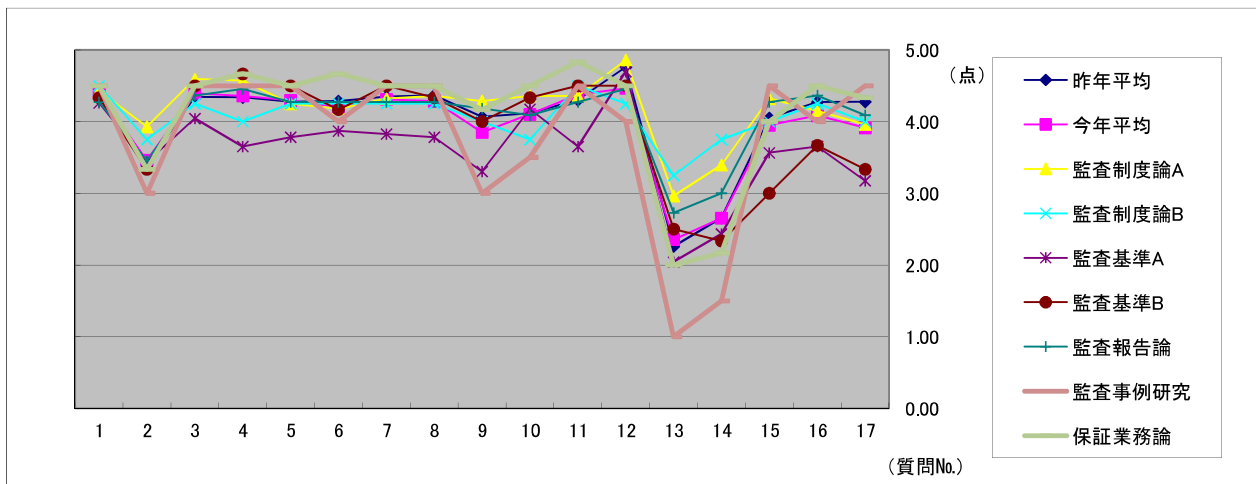
受講者の興味を引き付ける講義内容とする努力は継続する。一方、それを切り口として理論的、体系的に公会計が学べるよう理論的枠組みを作る工夫をしたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

受講生の満足度を維持するとともに、積極的に授業に参加させる工夫をする。担当の割り当て、発表のみならず、前回の受講内容の要旨を発表させること等を検討していく。

系： 監査
 受講者数：102 回答者数：80

質問No.	昨年平均	今年平均	監査制度論A	監査制度論B	監査基準A	監査基準B	監査報告論	監査事例研究	保証業務論
1	4.45	4.40	4.43	4.50	4.26	4.33	4.27	4.50	4.50
2	3.39	3.46	3.93	3.75	3.43	3.33	3.45	3.00	3.33
3	4.35	4.39	4.59	4.25	4.04	4.50	4.36	4.50	4.50
4	4.34	4.36	4.57	4.00	3.65	4.67	4.45	4.50	4.67
5	4.28	4.29	4.25	4.25	3.78	4.50	4.27	4.50	4.50
6	4.29	4.20	4.18	4.25	3.87	4.17	4.27	4.00	4.67
7	4.35	4.31	4.32	4.25	3.83	4.50	4.27	4.50	4.50
8	4.37	4.29	4.36	4.25	3.78	4.33	4.27	4.50	4.50
9	4.07	3.85	4.29	4.00	3.30	4.00	4.18	3.00	4.17
10	4.12	4.10	4.36	3.75	4.17	4.33	4.09	3.50	4.50
11	4.30	4.37	4.36	4.50	3.65	4.50	4.27	4.50	4.83
12	4.76	4.47	4.86	4.25	4.70	4.50	4.45	4.00	4.50
13	2.26	2.36	2.96	3.25	2.04	2.50	2.73	1.00	2.00
14	2.66	2.65	3.39	3.75	2.43	2.33	3.00	1.50	2.17
15	4.05	3.95	4.32	4.00	3.57	3.00	4.27	4.50	4.00
16	4.27	4.08	4.15	4.25	3.65	3.67	4.36	4.00	4.50
17	4.27	3.91	3.96	4.00	3.17	3.33	4.09	4.50	4.33
回答者数	162	80	28	4	23	6	11	2	6



受講生の傾向

受講生の出席状況(項目12)は、最も低いもので70%、それを除くとほぼ80～100%を確保しており、「監査制度」及び「監査基準」という基本科目(必修科目)以外の科目でも、受講生の参加意欲は非常に高かったと評価できる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

講義に際して必要な資料を用意・配布するとともに、学生のモラルを向上させるための措置を、全ての科目で講じており、これは2012年度版「出講の手引き」に沿った講義方式といえる。また2つの基本科目以外は発展科目および応用科目であるため、「監査事例研究」をはじめとして学生によるケース・スタディやプレゼンテーションとディスカッションで行なわれている。但し、「監査基準A・B」と「監査事例研究」については、今年度担当者交代科目のため、その点を考慮に入れる必要がある。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今年度対応された履修学生の質の違いに応じた講義計画のみならず、極端に履修登録者数が少なくなったケースを想定し、出席人数の相違による柔軟な授業運営が必要であると思われる。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

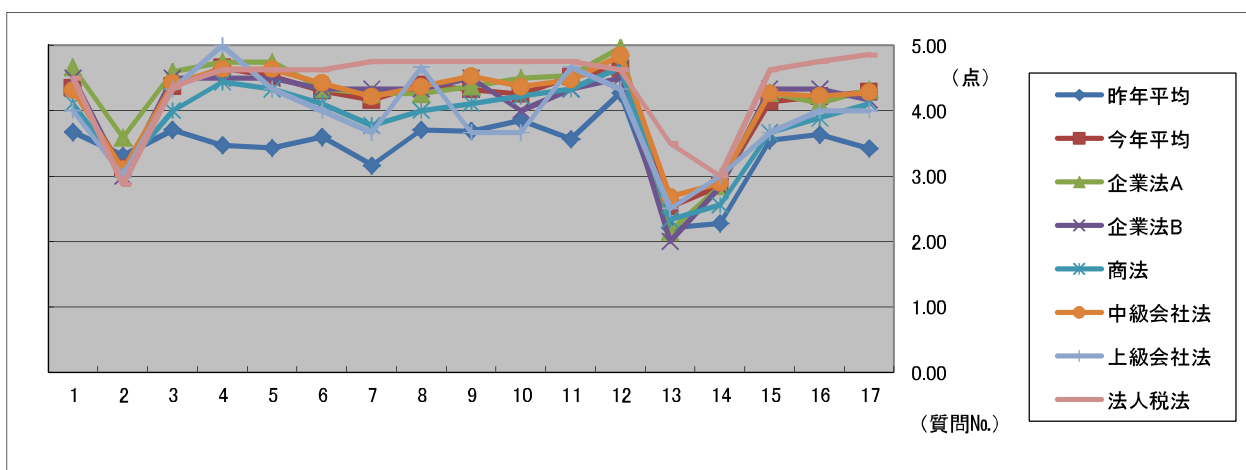
極端に履修登録者数が少なくなった科目について、配当時間の他、その理由を検討する必要がある。
 事例研究に該当する科目については、本研究科の趣旨に沿うプロセス教育を達成するという観点から、出席率が低下することのないような措置を講じる必要がある。

系： 法律

受講者数:96

回答者数: 73

質問No.	昨年平均	今年平均	企業法A	企業法B	商法	中級会社法	上級会社法	法人税法
1	3.67	4.35	4.67	4.50	4.11	4.32	4.00	4.50
2	3.31	3.11	3.59	3.00	3.11	3.11	3.00	2.88
3	3.71	4.37	4.59	4.50	4.00	4.42	4.33	4.38
4	3.47	4.66	4.74	4.50	4.44	4.63	5.00	4.63
5	3.43	4.53	4.74	4.50	4.33	4.63	4.33	4.63
6	3.60	4.30	4.33	4.33	4.11	4.42	4.00	4.63
7	3.16	4.17	4.26	4.33	3.78	4.21	3.67	4.75
8	3.71	4.40	4.26	4.33	4.00	4.37	4.67	4.75
9	3.69	4.32	4.37	4.50	4.11	4.53	3.67	4.75
10	3.85	4.25	4.50	4.00	4.22	4.37	3.67	4.75
11	3.56	4.52	4.54	4.33	4.33	4.47	4.67	4.75
12	4.27	4.65	4.96	4.50	4.67	4.84	4.33	4.63
13	2.21	2.53	2.15	2.00	2.33	2.68	2.50	3.50
14	2.27	2.85	2.85	2.83	2.56	2.89	3.00	3.00
15	3.55	4.14	4.27	4.33	3.67	4.26	3.67	4.63
16	3.64	4.22	4.12	4.33	3.89	4.22	4.00	4.75
17	3.42	4.29	4.32	4.17	4.11	4.28	4.00	4.86
回答者数	47	73	28	6	9	19	3	8



受講生の傾向

企業法は必修科目ということもあり受講生が多いのは当然であるが、他の科目については中級会社法を除いて受講生は少なかった。会計科目には属さないものの、いずれも公認会計士試験科目である点を考慮すると、もう少し多くの学生に受講してもらいたい。アンケートの結果を全体的に見ると、昨年度よりも評価が上回っている点は望ましい。各授業において、昨年度の反省を踏まえて改良した点に成果があったと思われる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

いずれの授業においても、学生の消化不良を避けるべく工夫を行った。たとえば、全範囲を網羅的にこなすのではなく、全体を把握するための根幹となるポイントに絞った授業を行ったり、質疑応答や文章を書かせたりすることによって、学生の理解度をその都度チェックしながら、学生が苦手とする点など（理解力、説明力、文章力を含めて）を重点的に扱うなどの工夫をした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

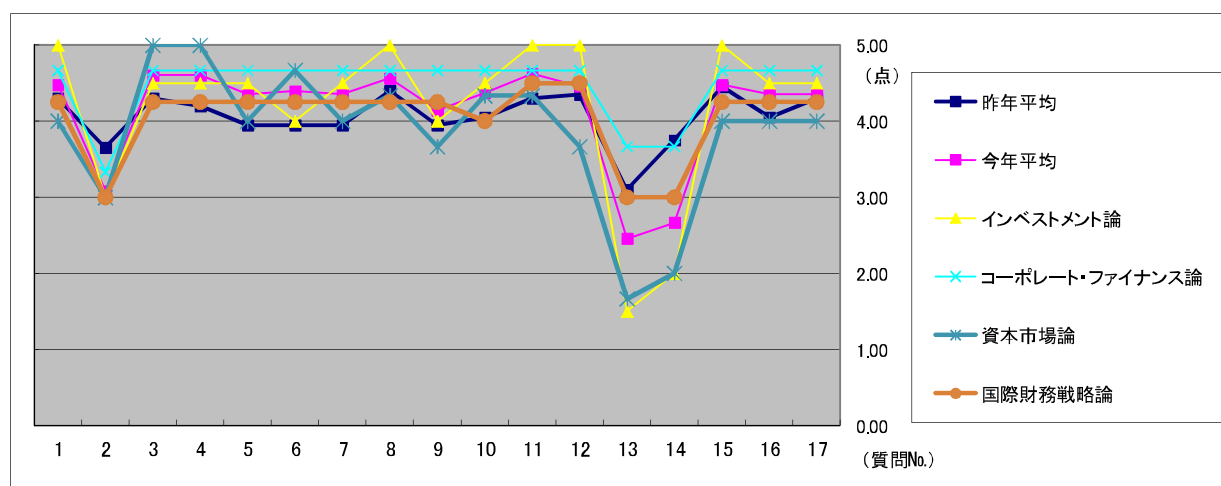
学習すべきボリュームは多いが、できる限りポイントを絞り込むこと、そして、質疑応答を取り入れることによって、受講生の消化不良を解消していきたい。また、学習時間を増やすため、課題レポートを課すことも検討したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

学習する範囲が広くかつ法学になじみのない学生が多いことから、特に1年次の科目については、苦手意識を持たないよう心がけたい。むしろ法学は理解するコツをおさえれば難しくないということを伝えたい。また、学生との対話と学生による文章作成は、時間がかかるというデメリットはあるが、個々の学生の理解度や弱点を知ることができ、それに合わせた指導ができるので、時間が許す限りはより積極的に行っていきたい。

系： ファイナンス
 受講者数：30 回答者数：12

質問No.	昨年平均	今年平均	インベストメント論	コーポレート・ファイナンス論	資本市場論	国際財務戦略論
1	4.30	4.48	5.00	4.67	4.00	4.25
2	3.65	3.08	3.00	3.33	3.00	3.00
3	4.30	4.60	4.50	4.67	5.00	4.25
4	4.20	4.60	4.50	4.67	5.00	4.25
5	3.95	4.35	4.50	4.67	4.00	4.25
6	3.95	4.40	4.00	4.67	4.67	4.25
7	3.95	4.35	4.50	4.67	4.00	4.25
8	4.40	4.56	5.00	4.67	4.33	4.25
9	3.95	4.15	4.00	4.67	3.67	4.25
10	4.05	4.38	4.50	4.67	4.33	4.00
11	4.30	4.63	5.00	4.67	4.33	4.50
12	4.35	4.46	5.00	4.67	3.67	4.50
13	3.10	2.46	1.50	3.67	1.67	3.00
14	3.75	2.67	2.00	3.67	2.00	3.00
15	4.45	4.48	5.00	4.67	4.00	4.25
16	4.05	4.35	4.50	4.67	4.00	4.25
17	4.30	4.35	4.50	4.67	4.00	4.25
回答者数	8	12	2	3	3	4



受講生の傾向

受講生は、まじめに取り組む学生が多かった。しかし、一部に意欲の低い学生や登録だけして授業には来なかった学生がいて、両極端に分かれる傾向がある。一般的に、数学を用いたり、経済学的なアプローチを行う等、抽象的な議論について、あまり興味を示さないようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

証券アナリスト基礎講座の受講を勧めたり、専門用語の解説を充実させるとともに、身近な事例を取り入れて解説するようにした。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

当科目はファイナンス科目であり、基本的に数学が必要である。しかし、受講生には数学が得意な学生も苦手な学生もいるため、数学が苦手な学生には考え方を教授する等、学生の資質を見ながら対応したい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

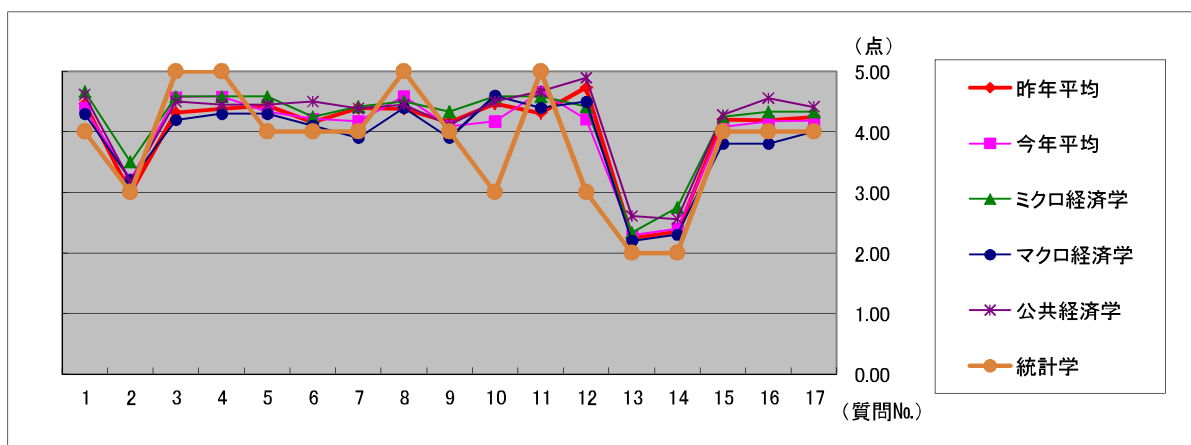
抽象的な議論をできる限り身近な事例で説明する等、学生が興味を持つような授業を行う。さらに、証券アナリストの基礎講座受講を勧めて、成功体験を持たせて、ファイナンスや数学等に対する苦手意識を払拭するようにする。

系： 経済・統計

受講者数：58

回答者数： 44

質問No.	昨年平均	今年平均	ミクロ経済学	マクロ経済学	公共経済学	統計学
1	4.47	4.39	4.67	4.30	4.61	4.00
2	2.99	3.22	3.50	3.20	3.17	3.00
3	4.32	4.57	4.58	4.20	4.50	5.00
4	4.38	4.58	4.58	4.30	4.44	5.00
5	4.44	4.33	4.58	4.30	4.44	4.00
6	4.16	4.21	4.25	4.10	4.50	4.00
7	4.39	4.18	4.42	3.90	4.39	4.00
8	4.38	4.59	4.50	4.40	4.44	5.00
9	4.16	4.09	4.33	3.90	4.11	4.00
10	4.47	4.17	4.58	4.60	4.50	3.00
11	4.31	4.66	4.58	4.40	4.67	5.00
12	4.73	4.20	4.42	4.50	4.89	3.00
13	2.24	2.29	2.33	2.20	2.61	2.00
14	2.35	2.40	2.75	2.30	2.56	2.00
15	4.20	4.08	4.25	3.80	4.28	4.00
16	4.19	4.17	4.33	3.80	4.56	4.00
17	4.25	4.19	4.33	4.00	4.41	4.00
回答者数	43	44	12	10	21	1



受講生の傾向

経済・統計系の授業を受講する学生は、基本的に数学や統計学に興味を持つ学生が多いので、論理的思考や分析に優れている。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

高校、大学学部時代に受講した数学や統計のレベルに個人差があるので、授業の1～2回目までは初歩的な講義を行い、数学や統計学に慣れてくるに従って、レベルと上げて行き、最後はかなり高い内容の授業を行うように工夫した。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

今年度の授業方針、つまり最初は徹底的に基礎学力をつける授業を行い、次に受講生の理解度を確認する練習問題、中間テストなどを実施し、授業内容を十分理解していることがわかれば、さらにステップアップする授業を行う授業方針は効果があったと考えているので、今後も踏襲したいと考えている。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

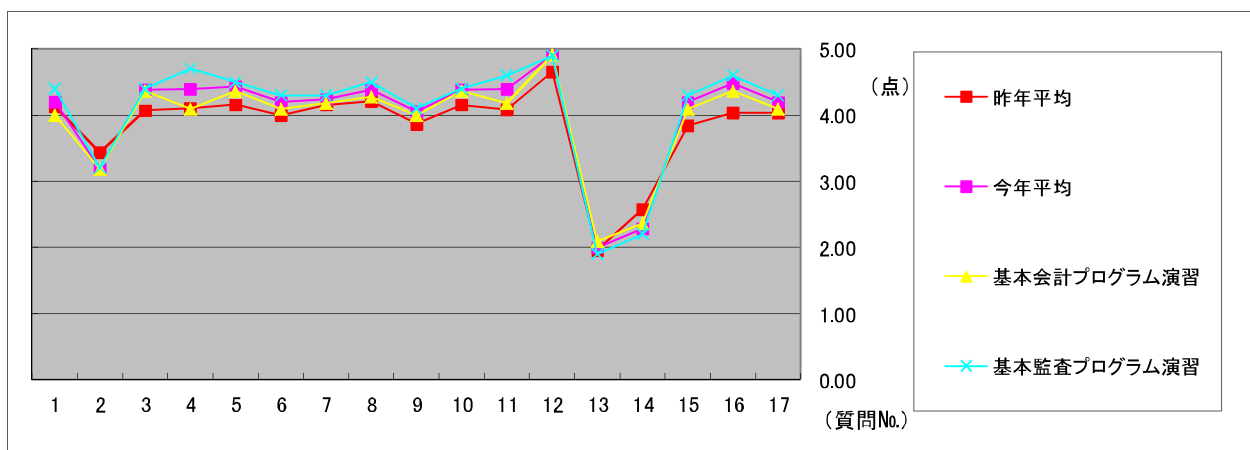
授業の内容については、基礎→中級→高度な内容、という順序で順調な講義を行うことができたと考えている。そして、毎回の宿題である練習問題、小テスト、学期末試験とさまざまな実力をチェックするシステムを実施してきている。これは、受講生の学力を高めるのに非常に効果があったと評価しているため、今後もこの方針で授業を行いたいと考えている。

系: IT・ビジネススキル

受講者数:22

回答者数:21

質問No.	昨年平均	今年平均	基本会計プログラム演習	基本監査プログラム演習
1	4.13	4.20	4.00	4.40
2	3.43	3.19	3.18	3.20
3	4.07	4.38	4.36	4.40
4	4.10	4.40	4.09	4.70
5	4.16	4.43	4.36	4.50
6	4.00	4.20	4.09	4.30
7	4.15	4.24	4.18	4.30
8	4.21	4.39	4.27	4.50
9	3.87	4.05	4.00	4.10
10	4.15	4.38	4.36	4.40
11	4.08	4.39	4.18	4.60
12	4.65	4.90	4.91	4.90
13	1.95	2.00	2.09	1.90
14	2.58	2.28	2.36	2.20
15	3.84	4.20	4.09	4.30
16	4.04	4.48	4.36	4.60
17	4.04	4.20	4.09	4.30
回答者数	79	21	11	10



受講生の傾向

概ね参加意欲も高く、まじめにとりこんでいるようである。今回は、「基本会計プログラム演習」「基本監査プログラム演習」の2科目のみであるので、前回との比較を直接行うことはできない。としても、予習時間と復習時間(とくに予習時間)が極端に短いことから、講義内で完結させているようである。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

昨年度の授業評価アンケートの結果や、実際の講義での感触を受けて、科目特性や担当者の感触に応じて、工夫が講じられている。「基本会計プログラム演習」と「基本監査プログラム演習」の2科目は、ともに専任教員が実施しており、講義で使用する素材については調整を行い、受講しやすい工夫を講じている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

講義順序を変更し、学生の理解度に応じて講義速度を調整した結果、講義速度は学生にとってちょうどよいように感じられるようになったが、その分、教授する側として、講義内容が不十分に感じる部分も生じている。今後は、講義速度と学生の理解度とのバランスだけでなく、講義内容とのバランスにも留意したい。

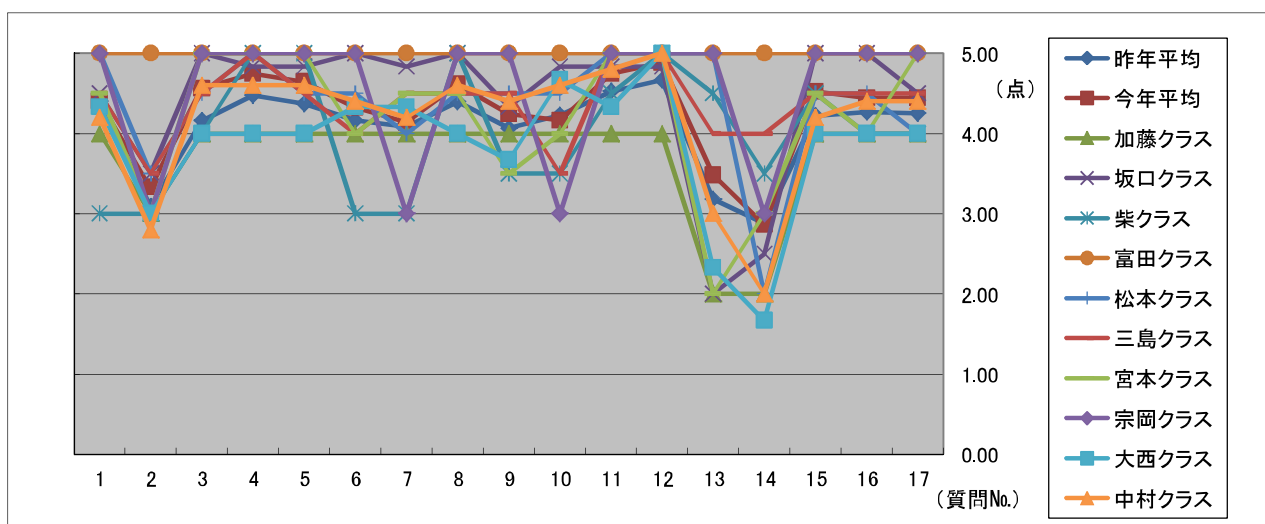
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

より一層の机間巡回を行い、受講生の理解度を正確に把握しつつ、より基礎的な部分に重点を置いた講義を実施できるよう工夫する。

系：個別演習科目（アカデミック・ソリューションA）

受講者数：25 回答者数 25

質問No.	昨年平均	今年平均	加藤クラス	坂口クラス	柴クラス	富田クラス	松本クラス	三島クラス	宮本クラス	宗岡クラス	大西クラス
1	4.41	4.40	4.00	4.50	3.00	5.00	5.00	4.50	4.50	5.00	4.33
2	3.09	3.33	3.00	3.50	3.00	5.00	3.50	3.50	3.00	3.00	3.00
3	4.16	4.56	4.00	5.00	4.00	5.00	4.50	4.50	5.00	5.00	4.00
4	4.48	4.74	4.00	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.00
5	4.37	4.64	4.00	4.83	5.00	5.00	4.50	4.50	5.00	5.00	4.00
6	4.16	4.32	4.00	5.00	3.00	5.00	4.50	4.00	4.00	5.00	4.33
7	4.09	4.14	4.00	4.83	3.00	5.00	4.00	4.50	4.50	3.00	4.33
8	4.40	4.61	4.00	5.00	5.00	5.00	4.50	4.50	4.50	5.00	4.00
9	4.07	4.24	4.00	4.33	3.50	5.00	4.50	4.50	3.50	5.00	3.67
10	4.23	4.16	4.00	4.83	3.50	5.00	4.50	3.50	4.00	3.00	4.67
11	4.52	4.75	4.00	4.83	4.50	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.33
12	4.67	4.88	4.00	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
13	3.18	3.48	2.00	2.00	4.50	5.00	5.00	4.00	2.00	5.00	2.33
14	2.88	2.87	2.00	2.50	3.50	5.00	2.00	4.00	3.00	3.00	1.67
15	4.22	4.52	4.00	5.00	4.50	5.00	4.50	4.50	4.50	5.00	4.00
16	4.27	4.44	4.00	5.00	4.00	5.00	4.50	4.50	4.00	5.00	4.00
17	4.25	4.44	4.00	4.50	4.00	5.00	4.00	4.50	5.00	5.00	4.00
回答者数	41	25	1	6	2	1	2	2	2	1	3



受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率（項目12）において、1科目を除き90～100%を達成しているため、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

全ての演習科目において、2012年度版「出講の手引き」に沿った、分析・プレゼンテーション・ディスカッションの涵養が図られている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

「扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい」を引き続き、継続していくとともに、アカデミック・ソリューションの役割を明確にして、担当者間で共通認識としていきたい。

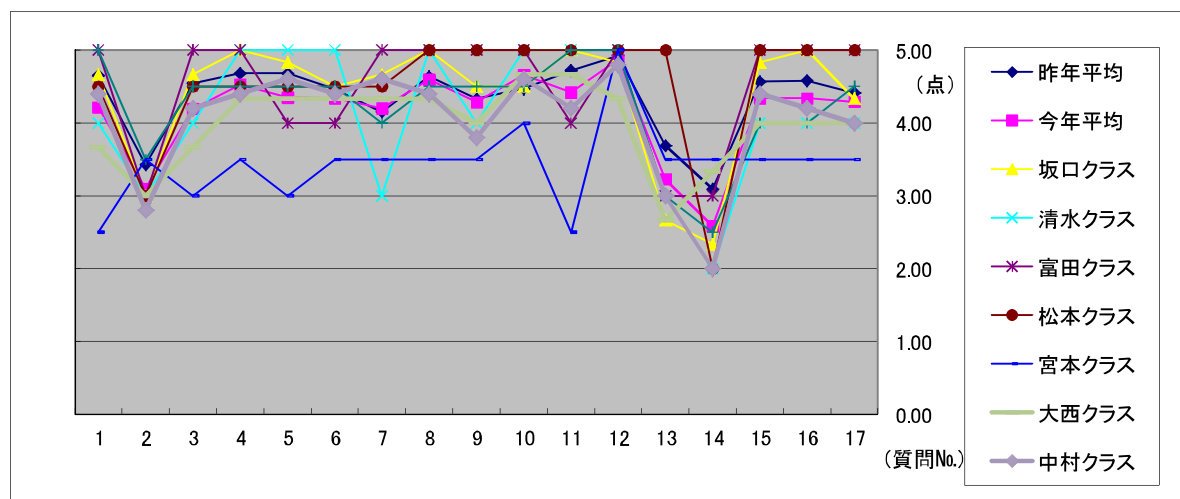
○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

今後、個別演習科目の共通の属性から、教育のための素材を異にしたとしても、その目的や趣旨を徹底するため共通シラバスとすることが考えられる。

演習科目としての性質上、出席率が80%を下回らないような措置が必要である。

系：個別演習科目（アカデミック・ソリューションB）
 受講者数 22 回答者数 22

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	清水クラス	富田クラス	松本クラス	三島クラス	宮本クラス	大西クラス	中村クラス
1	4.65	4.22	4.67	4.00	5.00	4.50	5.00	2.50	3.67	4.40
2	3.43	3.10	3.00	3.00	3.00	3.00	3.50	3.50	3.00	2.80
3	4.54	4.19	4.67	4.00	5.00	4.50	4.50	3.00	3.67	4.20
4	4.68	4.53	5.00	5.00	5.00	4.50	4.50	3.50	4.33	4.40
5	4.68	4.35	4.83	5.00	4.00	4.50	4.50	3.00	4.33	4.60
6	4.47	4.34	4.50	5.00	4.00	4.50	4.50	3.50	4.33	4.40
7	4.15	4.20	4.67	3.00	5.00	4.50	4.00	3.50	4.33	4.60
8	4.64	4.59	5.00	5.00	5.00	5.00	4.50	3.50	4.33	4.40
9	4.33	4.29	4.50	4.00	5.00	5.00	4.50	3.50	4.00	3.80
10	4.47	4.66	4.50	5.00	5.00	5.00	4.50	4.00	4.67	4.60
11	4.72	4.42	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	2.50	4.67	4.20
12	4.92	4.87	4.83	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.33	4.80
13	3.69	3.23	2.67	3.00	3.00	5.00	3.00	3.50	2.67	3.00
14	3.09	2.58	2.33	2.00	3.00	2.00	2.50	3.50	3.33	2.00
15	4.57	4.34	4.83	4.00	5.00	5.00	4.00	3.50	4.00	4.40
16	4.58	4.34	5.00	4.00	5.00	5.00	4.00	3.50	4.00	4.20
17	4.41	4.29	4.33	4.00	5.00	5.00	4.50	3.50	4.00	4.00
回答者数	35	22	6	1	1	2	2	2	3	5



受講生の傾向

受講生の授業参加度あるいは熱心度を測る出席率（項目12）において、1科目を除き90～100%を達成しているため、非常に熱心な受講生の傾向が見受けられる。しかし、演習によっては、評価が相対的に低くなっているものもある。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

演習ごとに個々の受講者による分析とプレゼンテーション、ならびにディスカッションが活発に行なわれるように措置している。

今後の対応

Q昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

「扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、アカデミック・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい」を引き続き、継続していくとともに、アカデミック・ソリューションの役割を明確にして、担当者間で共通認識としていきたい。

Q上記の内容を踏まえた「今後の対応」

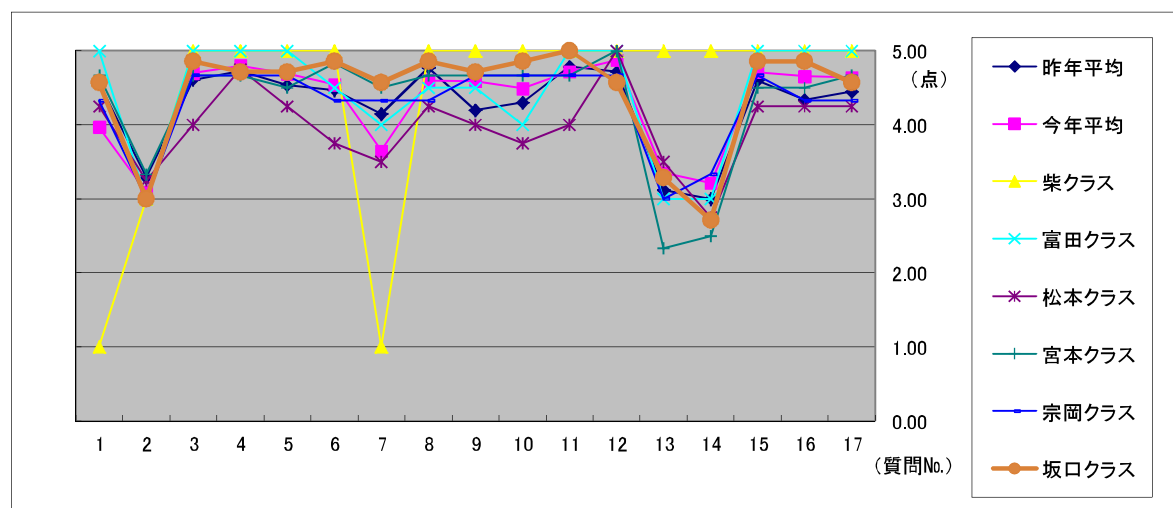
演習のために使用する教材や素材に違いはあるにしても、到達すべき目標は個別演習科目として共通しているため、シラバスの共通化が必要である。但し、当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が1桁になってしまっているものもあり、演習趣旨の徹底が求められる。もし1桁のままとなれば、授業評価それ自体の信頼性にも影響する。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションA)

受講者数 24

回答者数 23

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	柴クラス	富田クラス	松本クラス	宮本クラス	宗岡クラス
1	4.56	3.97	4.57	1.00	5.00	4.25	4.67	4.33
2	3.29	3.10	3.00	3.00	3.00	3.25	3.33	3.00
3	4.61	4.70	4.86	5.00	5.00	4.00	4.67	4.67
4	4.73	4.80	4.71	5.00	5.00	4.75	4.67	4.67
5	4.54	4.69	4.71	5.00	5.00	4.25	4.50	4.67
6	4.47	4.55	4.86	5.00	4.50	3.75	4.83	4.33
7	4.15	3.65	4.57	1.00	4.00	3.50	4.50	4.33
8	4.77	4.60	4.86	5.00	4.50	4.25	4.67	4.33
9	4.20	4.59	4.71	5.00	4.50	4.00	4.67	4.67
10	4.30	4.49	4.86	5.00	4.00	3.75	4.67	4.67
11	4.79	4.72	5.00	5.00	5.00	4.00	4.67	4.67
12	4.72	4.87	4.57	5.00	5.00	5.00	5.00	4.67
13	3.12	3.35	3.29	5.00	3.00	3.50	2.33	3.00
14	3.00	3.22	2.71	5.00	3.00	2.75	2.50	3.33
15	4.60	4.71	4.86	5.00	5.00	4.25	4.50	4.67
16	4.34	4.66	4.86	5.00	5.00	4.25	4.50	4.33
17	4.45	4.64	4.57	5.00	5.00	4.25	4.67	4.33
回答者数	20	23	7	1	2	4	6	3



受講生の傾向

項目12から判るように、出席率は非常に高く、受講生は熱心に履修している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

それぞれの担当者が、個別演習の趣旨に則り、受講生による分析・プレゼンテーション・ディスカッションの能力向上に努めている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

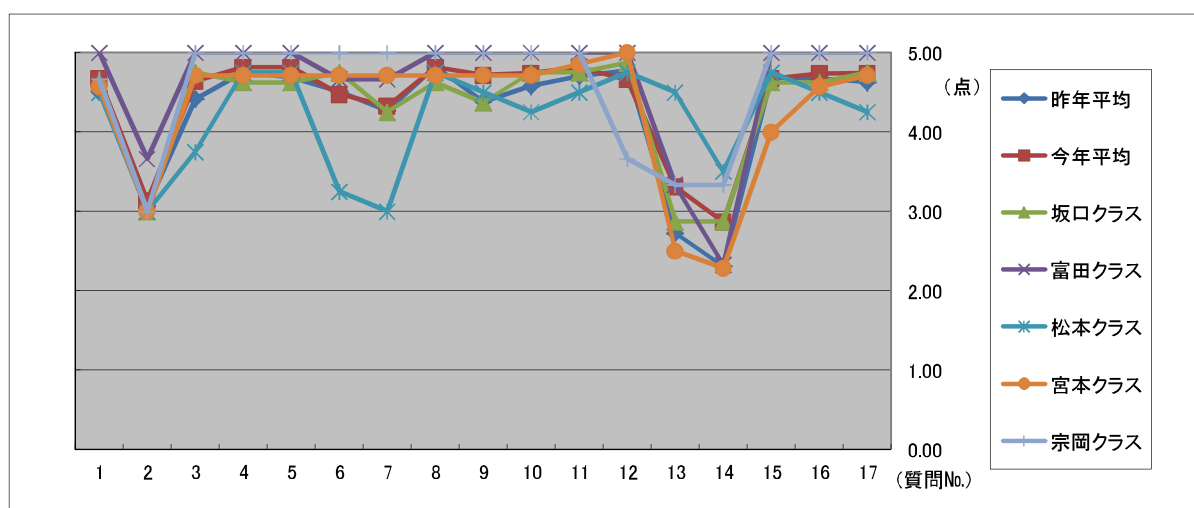
引き続き、「受講生が積極的に学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい」をより一層の対応としたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習のために使用する教材や素材に違いはあるにしても、到達すべき目標は個別演習科目として共通しているため、シラバスの共通化が必要である。但し、当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が1桁になってしまっているものもあり、演習趣旨の徹底が求められる。もし1桁のままとなれば、授業評価それ自体の信頼性にも影響する。

系:個別演習科目(プロフェッショナル・ソリューションB)
 受講者数:25 回答者数:25

質問No.	昨年平均	今年平均	坂口クラス	富田クラス	松本クラス	宮本クラス	宗岡クラス
1	4.51	4.67	4.63	5.00	4.50	4.57	4.67
2	3.07	3.13	3.00	3.67	3.00	3.00	3.00
3	4.42	4.64	4.75	5.00	3.75	4.71	5.00
4	4.75	4.82	4.63	5.00	4.75	4.71	5.00
5	4.69	4.82	4.63	5.00	4.75	4.71	5.00
6	4.51	4.48	4.75	4.67	3.25	4.71	5.00
7	4.27	4.33	4.25	4.67	3.00	4.71	5.00
8	4.83	4.82	4.63	5.00	4.75	4.71	5.00
9	4.39	4.72	4.38	5.00	4.50	4.71	5.00
10	4.58	4.74	4.75	5.00	4.25	4.71	5.00
11	4.71	4.82	4.75	5.00	4.50	4.86	5.00
12	4.78	4.66	4.88	5.00	4.75	5.00	3.67
13	2.73	3.31	2.88	3.33	4.50	2.50	3.33
14	2.31	2.87	2.88	2.33	3.50	2.29	3.33
15	4.69	4.68	4.63	5.00	4.75	4.00	5.00
16	4.68	4.74	4.63	5.00	4.50	4.57	5.00
17	4.63	4.74	4.75	5.00	4.25	4.71	5.00
回答者数	17	25	8	3	4	7	3



受講生の傾向

項目12から判るように、一部の演習を除き、出席率は非常に高く、受講生は熱心に履修している。

昨年度の授業評価アンケートを踏まえて、今回の講義で工夫したこと・留意したこと

それぞれの担当者が、個別演習の趣旨に則り、受講生による分析・プレゼンテーション・ディスカッションの能力向上に努めている。

今後の対応

○昨年度の授業評価アンケートで記載した「今後の対応」

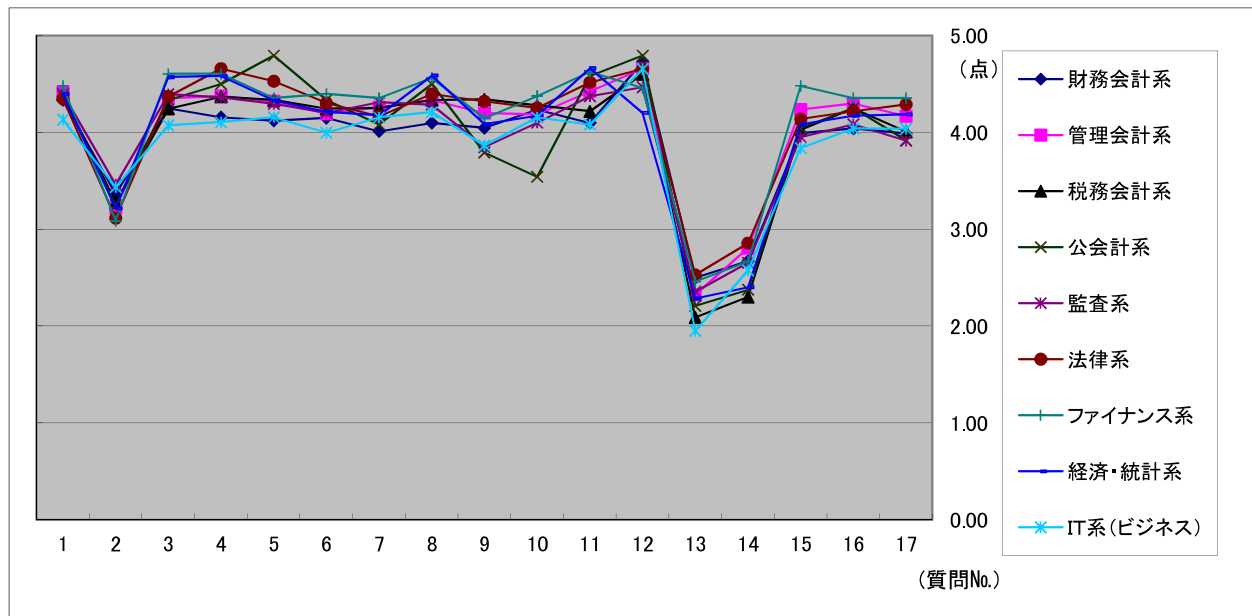
引き続き、「上記の内容(受講生が積極的に学習できるよう工夫するとともに、扱う素材は担当する教員に依存することにならざるを得ないが、プロフェッショナル・ソリューションの位置づけを確認しつつ実施したい)」をより一層の対応としたい。

○上記の内容を踏まえた「今後の対応」

演習のために使用する教材や素材に違いはあるにしても、到達すべき目標は個別演習科目として共通しているため、シラバスの共通化が必要である。但し、当初の想定と異なり、個別演習を履修する受講生の数が1桁になってしまっているものもあり、演習趣旨の徹底が求められる。もし1桁のままとなれば、授業評価それ自体の信頼性にも影響する。

系別平均

質問No.	財務会計系	管理会計系	税務会計系	公会計系	監査系	法律系	経営系	ファイナンス系	経済・統計系	IT系(ビジネス)
1	4.33	4.42	4.39	4.38	4.40	4.35	—	4.48	4.39	4.13
2	3.36	3.22	3.28	3.25	3.46	3.11	—	3.08	3.22	3.43
3	4.25	4.35	4.24	4.33	4.39	4.37	—	4.60	4.57	4.07
4	4.16	4.37	4.37	4.50	4.36	4.66	—	4.60	4.58	4.10
5	4.12	4.32	4.33	4.79	4.29	4.53	—	4.35	4.33	4.16
6	4.15	4.19	4.24	4.33	4.20	4.30	—	4.40	4.21	4.00
7	4.01	4.26	4.25	4.08	4.31	4.17	—	4.35	4.18	4.15
8	4.10	4.33	4.33	4.50	4.29	4.40	—	4.56	4.59	4.21
9	4.05	4.20	4.34	3.79	3.85	4.32	—	4.15	4.09	3.87
10	4.24	4.18	4.28	3.54	4.10	4.25	—	4.38	4.17	4.15
11	4.10	4.42	4.22	4.58	4.37	4.52	—	4.63	4.66	4.08
12	4.73	4.66	4.60	4.79	4.47	4.65	—	4.46	4.20	4.65
13	2.50	2.32	2.09	2.21	2.36	2.53	—	2.46	2.29	1.95
14	2.67	2.81	2.30	2.38	2.65	2.85	—	2.67	2.40	2.58
15	3.99	4.23	4.03	4.04	3.95	4.14	—	4.48	4.08	3.84
16	4.04	4.30	4.25	4.25	4.08	4.22	—	4.35	4.17	4.04
17	3.99	4.17	4.01	3.92	3.91	4.29	—	4.35	4.19	4.04
回答者数	163	118	33	10	80	73	—	12	44	79



受講生の傾向

一般的な傾向として、「受講は積極的であるが、予習・復習にあまり時間をかけない。とくに予習時間は復習時間より短い」ということがあげられ、以前として、この傾向に変化はないようである。また、受講生に受講に十分な予備知識がないことが多くなっていると感じられる。その結果、受講生が二極化する科目やかなり低レベルから実施する科目などが生じてきている。

今後の対応

系別、全系別平均からは、全体的な傾向を示すことになるので、その部分に限定すると、入学者数との関連があると推測されるが、「受講生の傾向」で記したように、受講生に変化が生じている部分があり、それに対応する策を講じる必要がある。しかし、どのような策を講じるかは、科目や系によって特性があり、ここで論ずることはできない。そのため、系別のFD活動を通じて、対応を検討するとともに、効果のあった対応策については、全体での共有を強化する必要がある。

Ⅲ. 2012 年度授業評価アンケートフォーム

2012 年度 関西大学「会計専門職大学院学生による授業評価」アンケート

会計専門職大学院 FD 委員会

このアンケートは、授業の改善を目的として実施するものであり、担任者が授業をより一層充実するための資料として利用するものです。したがって、皆さんの成績評価にはまったく関係がありませんので、正直な声をお聞かせください。

- ・アンケートの回答は、マークシートに記入してください。
- ・授業科目、クラス及び担任者を記入してください。
- ・このアンケートは匿名です。あなたの氏名は書く必要はありません。

I. 授業の評価

II. 授業への取組み

I. 授業の評価

1	授業内容は、講義要項、授業計画に示したものに沿った内容でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
2	この授業の進度はどうでしたか。
5. かなり早い 4. 早い 3. ちょうどよい 2. 遅い 1. かなり遅い	
3	この授業は教員によってよく準備されていましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
4	学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
5	この授業での教員の話し方や声の大きさ、説明の仕方は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
6	教科書・配布資料の利用は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
7	ホワイト・ボードや OHP、パソコン等の機材の使い方は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
8	教員は、学生からの質問に的確に対応しましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
9	宿題および小テストの内容・回数は、講義内容を理解する上で効果的でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
10	この授業のクラスの規模は適切でしたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
11	全体としてこの授業を受講して満足しましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	

裏面につづく

Ⅱ. 授業への取り組み

12	この授業への出席状況はどうでしたか。
5. 90%以上 4. 70%以上 3. 50%以上 2. 30%以上 1. 30%未満	
13	この授業についての予習を、毎回どれくらいしましたか。
5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間	
14	この授業についての復習を、毎回どれくらいしましたか。
5. 2時間以上 4. 1時間30分程度 3. 1時間程度 2. 30分程度 1. 0時間	
15	この授業に触発されてさらに深く学習したいと思いましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
16	この授業を通じて、職業会計人に必要な知識が深まった、能力が高まったと感じましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	
17	あなたは全体としてこの授業を受講して理解できましたか。
5. 強く思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全く思わない	

—以上—

ご協力ありがとうございました。

IV. 講演会

2012 年度 関西大学会計研究科講演会開催一覧

■客員教授講演会・討論会（新入生指導行事） [平成 24 年 4 月 3 日（火）開催]

□青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科教授 八田進二氏

演題「ますます広がる会計の世界と会計プロフェッションの役割」

□中央大学大学院戦略経営研究科特任教授／国際会計基準委員会財団評議員 藤沼亜起氏

演題「会計は世界をかける～世界に通用する会計プロフェッションの育成を目指して～」

■第 4 回会計ルネッサンス・フォーラム [平成 24 年 7 月 11 日（火）開催]

□あずさ監査法人理事／前 I A S B 理事 山田辰巳氏

演題「IFRS をめぐる最近の動き」

□プロティビティ LLC 最高経営責任者兼社長 神林比洋雄氏

演題「IFRS と我が国の企業会計」

□あずさ監査法人パートナー 正司素子氏 （前特任教授）

演題「日本企業が I F R S から学ぶべきこと」

■客員教授講演会

□名古屋経済大学大学院教授／金融庁企業会計審議会委員・監査部会長 脇田良一氏

演題「公認会計士の使命」

[平成 24 年 10 月 24 日（水）開催]

■客員教授講演会

□参議院議員／日本学術院会員 猪口邦子氏

演題「政治の安定と日本経済復興への戦略」

[平成 24 年 11 月 14 日（水）開催]

■客員教授講演会

□阪急阪神ホールディングス代表取締役社長 角 和夫氏

演題「私鉄経営のビジネスモデル」

[平成 24 年 12 月 5 日（水）開催]

■客員教授講演会

□慶応義塾大学総合政策学部教授／元総務大臣 竹中平蔵氏

演題「日本のマクロ経済運営と財政・社会保障改革」

[平成 25 年 1 月 9 日（水）開催]

■客員教授講演会（入学前指導行事）

□あずさ監査法人代表社員 専務理事・大阪事務所長 吉田享司氏

演題「監査を取り巻く環境変化と求められる人材」

[平成 25 年 3 月 23 日（土）開催]

会計専門職大学院客員教授講演会・討論会

～会計プロフェッションを目指すみなさんへのメッセージ～

関西大学会計専門職大学院では、2012 年度入学生を対象とした新入生行事の一環として、会計専門職大学院客員教授講演会・討論会を開催します。公認会計士等の会計プロフェッションを目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

～聴講自由・事前申込は不要～

- 日 時：平成 24 年 4 月 3 日（火）13：00～16：10 <12：40 開場>
- 場 所：千里山キャンパス 第2学舎2号館5階 C507 教室
- 対 象：会計専門職大学院新入生・在学生及び本学学部生



八田進二氏

< 第1部（講演会） > 13：00～14：00

■ 演題 「ますます広がる会計の世界と
会計プロフェッションの役割」

■ 講師 青山学院大学会計プロフェッション研究科教授
八田進二 氏（関西大学会計専門職大学院客員教授）

< 第2部（講演会） > 14：00～15：00

■ 演題 「会計は世界をかける～世界に通用する
会計プロフェッションの育成を目指して～」

■ 講師 中央大学大学院戦略経営研究科特任教授、
IFRS 財団評議員・副議長
藤沼亜起氏（関西大学会計専門職大学院客員教授）



藤沼亜起氏



柴 健次

< 第3部（討論会） > 15：10～16：10

■ テーマ 「会計プロフェッションを目指す
みなさんへのメッセージ」

■ パネリスト 八田進二氏、藤沼亜起氏

■ コーディネーター 柴 健次（関西大学大学院会計研究科長）

関西大学大学院
会計研究科長

<お問合せ先> 関西大学会計専門職大学院
電話 06-6368-1121（代表） E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

第4回会計ルネッサンス・フォーラム

～IFRSをめぐる日本の事情～

関西大学会計専門職大学院では、「IFRSをめぐる日本の事情」と題して、第4回会計ルネッサンス・フォーラムを開催します。

学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

～聴講自由・事前申込は不要～

日時：平成24年7月11日（水）14：40～17：50

場所：千里山キャンパス第2学舎2号館5階 C507 教室

＜第1部＞ 報告会 14：40～16：40

■講師 山田 辰己 氏（有限責任あずさ監査法人理事、前 IASB 理事）

■演題 「IFRSをめぐる最近の動き」

■講師 神林 比洋雄 氏（プロティビティLLC最高経営責任者兼社長）

■演題 「IFRSと我が国の企業会計」

■講師 正司 素子 氏（有限責任あずさ監査法人パートナー）

■演題 「日本企業がIFRSから学ぶべきこと」

■コーディネーター 富田 知嗣（関西大学大学院会計研究科教授）

＜第2部＞ 討論会 16：50～17：50

■テーマ 「IFRSをめぐる日本の事情」

■座長 富田知嗣（関西大学大学院会計研究科教授）

■パネリスト 山田辰己氏、神林比洋雄氏、正司素子氏

■総合司会 宮本勝浩（関西大学大学院会計研究科教授）

＜会場案内図＞



＜お問合せ先＞

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail: kaikei@ml.kandai.jp

脇田 良一 客員教授講演会

名古屋経済大学大学院教授、金融庁企業会計審議会委員・監査部会長

～公認会計士の使命～

会計専門職大学院では、名古屋経済大学大学院会計学研究科教授、金融庁企業会計審議会委員・監査部会長の脇田良一客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。

学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 24 年 10 月 24 日（水）
13：00～14：30（3 時限目）
- 場所：千里山キャンパス第 2 学舎
2 号館 5 階 C507 教室
- 演題：公認会計士の使命
- **聴講自由・事前申込は不要**です。



講師 脇田良一 氏

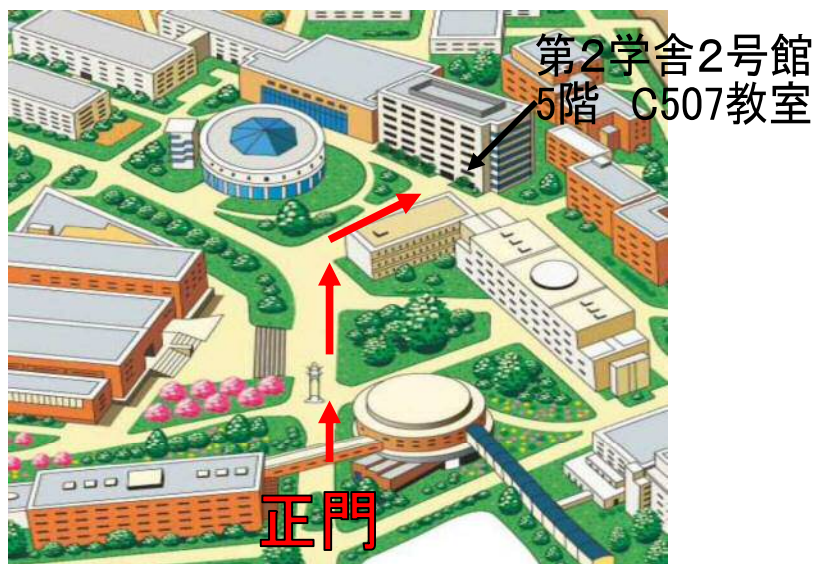
関西大学会計専門職大学院
客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail kaikei@ml.kandai.jp



猪口邦子 客員教授講演会

参議院議員、日本学術会議会員

～政治の安定と日本経済復活への戦略～

会計専門職大学院では、参議院議員、日本学術会議会員の猪口邦子客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 24 年 11 月 14 日（水）
16：20～17：50（5 時限目）
- 場所：千里山キャンパス
尚文館（1 階）マルチメディア AV 大教室
- 演題：政治の安定と日本経済復活への戦略
- **聴講自由・事前申込は不要**です。

<会場案内図>



講師 猪口邦子 氏
関西大学客員教授

<お問合せ先>
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121（代表）
Mail kaikei@ml.kandai.jp

角 和夫 客員教授講演会

阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役社長

「私鉄経営のビジネスモデル」

会計専門職大学院では、阪急阪神ホールディングス株式会社代表取締役社長の角 和夫客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 24 年 12 月 5 日（水）
16：20～17：50（5 時限目）
- 場所：千里山キャンパス
尚文館（1 階）マルチメディア AV 大教室
- 演題：私鉄経営のビジネスモデル

■ **聴講自由・事前申込は不要**です。

<会場案内図>



講師 角 和夫 氏

関西大学客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail kaikai@ml.kandai.jp

竹中平蔵 客員教授講演会

慶応義塾大学教授、元総務大臣

～日本のマクロ経済運営と財政・社会保障改革～

会計専門職大学院では、慶応義塾大学教授、元総務大臣の竹中平蔵客員教授をお招きし、客員教授講演会を開催します。学部生、大学院生、教職員、及び学外一般、多数の方のご来聴をお待ちしています。

■ 日時：平成 25 年 1 月 9 日（水）
13：00～14：30（3 時限目）

■ 場所：千里山キャンパス
第 2 学舎 BIG ホール 100

■ 演題：日本のマクロ経済運営と
財政・社会保障改革

■ **聴講自由・事前申込は不要**です。

<会場案内図>



講師 竹中平蔵 氏

関西大学客員教授

<お問合せ先>

会計専門職大学院

電話 06-6368-1121（代表）

Mail kaikei@ml.kandai.jp

吉田 享司 客員教授講演会

あずさ監査法人代表社員、専務理事・大阪事務所長（公認会計士・米国公認会計士）
～監査を取り巻く環境変化と求められる人材～

会計専門職大学院では、平成 25 年度入学予定者を対象とした入学前指導の一環として、あずさ監査法人代表社員、専務理事・大阪事務所長の吉田享司客員教授をお招きし、講演会を開催します。公認会計士を目指す学部生の聴講も歓迎しますので、多数の方のご来聴をお待ちしています。

- 日時：平成 25 年 3 月 23 日（土）
11：30～13：00
- 場所：千里山キャンパス第 2 学舎
2 号館 5 階 C507 教室
- 演題：監査を取り巻く環境変化と
求められる人材
- 対象：会計専門職大学院入学予定者
及び在学生、公認会計士を目指す学部生
- **事前申込は不要**です。



講師 吉田享司 氏
関西大学会計専門職大学院
客員教授

<会場案内図>



第2学舎2号館
5階 C507教室

<お問合せ先>
会計専門職大学院
電話 06-6368-1121（代表）
E-Mail kaikai@ml.kandai.jp

関西大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 (06)6368-1121 (代表)

Fax (06)6368-0610